

科目 No.35

分野	専門分野	科目	基礎看護学：看護の世界のはじまり																																																													
必修・選択	必修	単位数 時間数（回数）	1 単位 30 時間（15 回）	配当時期	1 年前期																																																											
講師名	山本千代	所属および実務経験	元副校長／看護師																																																													
<p>【科目のねらい】</p> <p>みなさんは「人の役に立ちたい」「看護師になりたい」という熱い思いから看護を志し、今ここにいます。そして、「看護の世界」がはじまりました。現在、日本は少子高齢化が進み、看護師の活動の場の多様化が推し進められています。みなさんが目指す看護の世界は様々な価値観や文化を持つ多様な人々で、看護はその人々の「健康」「命」「暮らし」「生活」に密接に関連しています。これから看護の重要な概念について学び、「看護とはなにか」をたくさんの人々とディスカッションし、大いに楽しみながら主体的に学び合い、自分の考えの素地をつくっていきましょう。また、看護者に必須の倫理観を育む機会としていきましょう。</p>																																																																
<p>【目的】人々の「健康」「命」「暮らし」「生活」に密接に関連する看護の世界を概観し、看護を学ぶ意義を育むことができる。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護師を目指した理由ややりたい看護師像を表現することができる。</li> <li>2. 看護の重要概念の定義を述べることができる。</li> <li>3. 健康について自己の考えを表現し、健康の意義について考察することができる。</li> <li>4. 看護の役割と責務及び機能について説明することができる。</li> <li>5. 看護活動の場と多職種連携の必要性について述べることができる。</li> <li>6. 看護における倫理の意義や重要性について説明することができる。</li> <li>7. 代表的な看護理論家の重要概念を要約し列記することができる。</li> <li>8. 看護師になるための自己目標と取り組みを表現することができる。</li> </ol>																																																																
<p>【DPとの関連】</p> <p>DP1 人々の様々な価値観を尊重したコミュニケーションを図り、より良い人間関係を築くことができる。</p> <p>DP2 看護専門職の役割と責務を自覚し、倫理的判断に基づく看護実践やリーダーシップを示すことができる。</p> <p>DP3 対象の反応から臨床判断し、健康レベルに応じた看護を科学的根拠に基づき実践することができる。</p> <p>DP4 対象のQOL（Quality Of Life：生活の質）向上を目指し、対象の持てる力を活かした看護や安心・安全な生活を支援する看護を実践することができる。</p> <p>DP5 多様な場で生活するあらゆる人々の健康に着目し、地域包括ケアシステム、チーム医療や多職種との連携・協働の視点を持ち看護を実践することができる。</p> <p>DP6 心身の健康管理能力及び社会人基礎力や情報活用能力を発展させ、看護の質の向上を目指し、自ら学び続ける姿勢を表現することができる。</p>																																																																
<p>【授業の流れ】（全体スケジュール・学習内容・方法等）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>日程</th> <th>1 組</th> <th>2 組</th> <th>学習内容</th> <th>方法</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>4/5</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>これからはじまる看護の世界 「看護師になりたい私の思い」</td> <td rowspan="2">演習 講義 課題レポート（5）</td> <td rowspan="2"></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>4/9</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>上記の発表を踏まえて、重要なキーワードを抽出してみよう！ 看護を学ぶにあたって：看護師への道、大切なことは・・・</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>4/16</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>看護の重要概念：看護とは</td> <td>講義 ポストテスト（3）</td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>4/16</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>看護の重要概念：人間とは（看護の対象理解）</td> <td>講義 演習 ポストテスト（5）</td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>4/23</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>看護の重要概念：健康とは（国民の健康状態と生活）</td> <td>講義 演習 課題レポート（5） ポストテスト（5）</td> <td></td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>5/13</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>看護の重要概念：環境とは（人間が生活する環境）</td> <td>講義 演習 ポストテスト（3）</td> <td></td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>5/15</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>看護活動の場としくみ</td> <td rowspan="2">演習 講義 ポストテスト（3）× 2</td> <td rowspan="2"></td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>5/15</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>多職種連携と看護の役割の機能</td> </tr> </tbody> </table>						回	日程	1 組	2 組	学習内容	方法	備考	1	4/5	1	1	これからはじまる看護の世界 「看護師になりたい私の思い」	演習 講義 課題レポート（5）		2	4/9	2	2	上記の発表を踏まえて、重要なキーワードを抽出してみよう！ 看護を学ぶにあたって：看護師への道、大切なことは・・・	3	4/16	1	1	看護の重要概念：看護とは	講義 ポストテスト（3）		4	4/16	2	2	看護の重要概念：人間とは（看護の対象理解）	講義 演習 ポストテスト（5）		5	4/23	4	4	看護の重要概念：健康とは（国民の健康状態と生活）	講義 演習 課題レポート（5） ポストテスト（5）		6	5/13	4	4	看護の重要概念：環境とは（人間が生活する環境）	講義 演習 ポストテスト（3）		7	5/15	2	2	看護活動の場としくみ	演習 講義 ポストテスト（3）× 2		8	5/15	3	3	多職種連携と看護の役割の機能
回	日程	1 組	2 組	学習内容	方法	備考																																																										
1	4/5	1	1	これからはじまる看護の世界 「看護師になりたい私の思い」	演習 講義 課題レポート（5）																																																											
2	4/9	2	2	上記の発表を踏まえて、重要なキーワードを抽出してみよう！ 看護を学ぶにあたって：看護師への道、大切なことは・・・																																																												
3	4/16	1	1	看護の重要概念：看護とは	講義 ポストテスト（3）																																																											
4	4/16	2	2	看護の重要概念：人間とは（看護の対象理解）	講義 演習 ポストテスト（5）																																																											
5	4/23	4	4	看護の重要概念：健康とは（国民の健康状態と生活）	講義 演習 課題レポート（5） ポストテスト（5）																																																											
6	5/13	4	4	看護の重要概念：環境とは（人間が生活する環境）	講義 演習 ポストテスト（3）																																																											
7	5/15	2	2	看護活動の場としくみ	演習 講義 ポストテスト（3）× 2																																																											
8	5/15	3	3	多職種連携と看護の役割の機能																																																												

9	5/23	3		看護における倫理 なぜ看護に倫理観が必要か？	演習 講義 ポストテスト (3) × 2	
	5/30		3			
10	5/23	4		現代社会と倫理、医療をめぐる倫理、看護実践における倫理		
	5/30		4			
11	6/10	1	1	看護とは 看護理論家から学ぶ	演習 講義 ポストテスト (3) × 3	
12	6/12	1	1	ナイチンゲール：環境論 ヘンダーソン：ニード論		
13	6/12	2	2	オレム：ニード論 ワトソン：ケアリング ロイ：適応モデル		
14	6/18	1	1	看護の提供者 看護職の資格と責務 専門職としての看護 生涯学習	講義 ポストテスト (3)	
15	6/18	2	2	まとめ 対象の健康と暮らしと看護	演習	
6月28日(金) 1限目				筆記試験		
<p>【準備学習内容】</p> <p>テキストによる事前学習をしっかりと行いましょう。テキスト学習を踏まえて授業は進んでいきます。 重要な箇所にはマーカーする、ディスカッション時に活用できるようポイントをメモしておくなど工夫し自己学習しましょう。 1 回目の授業には「看護師になりたい私の思い」についてレポートし持参してください。授業後、提出してください。 5 回目の授業には「私が考える健康とは」についてレポートし持参してください。授業後、提出してください。 9 回目～10 回目では倫理学での学びを活用していきます。復習し、必要なテキストなど持参してください。</p>						
<p>【使用するテキスト】</p> <p>茂野香おる他著 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学 1 看護学概論 医学書院 2024</p>						
<p>【参考文献】</p> <p>宮坂道夫他著 系統看護学講座 別巻 看護倫理 医学書院 2024 峰村淳子他著 よくわかる看護職の倫理綱領 第3版 照林社 2022</p>						
<p>【評価方法】</p> <p>授業終了時のポストテスト (40 点)、課題レポートを含む演習への取り組み・成果 (10 点)、筆記試験 (50 点) 指定日時までに提出されたものを評価の対象とします。</p>						
<p>【受講上の注意】</p> <p>事前学習や復習など自分で学習スケジュールを立て、計画的に行なっていきましょう。 演習では積極的に発言し、グループメンバーで協力し合い、目標達成に向けて学び合う姿勢で取り組みましょう。</p>						

科目 No.36

分野	専門分野	科目	基礎看護学：看護ホスピタリティ			
必修・選択	必修	単位数 時間数（回数）	1 単位 16 時間（8 回）	配当時期	1 年全期	
講師名	稲田由香里	所属および実務経験	副校長 / 看護師			
【科目のねらい】 看護職には良好な人間関係を構築する能力や人への尊厳に基づいた真心ある対応力が必要です。質の高い看護のために、ホスピタリティとは何かを理解し、実践に必要な表現方法や看護職に相応しいホスピタリティ・マインドを構築していきましょう。						
【目的】看護師として誠実で礼節を尊ぶこころ、ホスピタリティ・マインドの基盤を養う。						
【到達目標】 1. ホスピタリティの基本概念とその精神について説明することができる。 2. 看護におけるホスピタリティの重要性について考察することができる。 3. 看護師に相応しいホスピタリティ・マインドをロールプレイで表現することができる。						
【DPとの関連】 DP1 人々の様々な価値観を尊重したコミュニケーションを図り、より良い人間関係を築くことができる。 DP2 看護専門職の役割と責務を自覚し、倫理的判断に基づく看護実践やリーダーシップを示すことができる。 DP6 心身の健康管理能力及び社会人基礎力や情報活用能力を発展させ、看護の質の向上を目指し、自ら学び続ける姿勢を表現することができる。						
【授業の流れ】（全体スケジュール・学習内容・方法等）						
回	日程	1 組	2 組	学習内容	方法	備考
1	4/22	1	1	ホスピタリティとは何か ホスピタリティの基本概念と精神 看護職の倫理綱領 専門職としてのマナー 看護職として求められるホスピタリティ	講義 演習	
2	4/30	3	1	好感度を高めるためのコミュニケーション 第一印象、身だしなみ、表情、態度、立居振舞、印象管理	演習	
3	4/30	4	2	信頼感を高めるためのコミュニケーション 言葉遣いと尊称、正しい美しい敬語	演習	
4	12/10	1	1	自己のコミュニケーションのリフレクション（11 月までの取り組みから考察） ホスピタリティ・マインドとは 自分自身を知る	講義 演習	
5	12/10	2	2	医療従事者としてのホスピタリティ 患者や医療チームへの配慮と行動表現 事例紹介とグループ学習計画	講義 演習	
6	12/17		1	事例演習	演習	
	12/18	1				
7	12/17		2			
	12/18	2				
8	12/25	3	4	尊厳ある人間理解と思いやり ICTとホスピタリティ、私のホスピタリティ・マインド	講義 演習	
1 月 6 日（月）1 限目				レポート試験		
【準備学習内容】 1 回目の講義までに「看護職にマナーが求められる理由と私の課題」についてレポートにまとめ、当日持参してください。授業終了後、提出となります。 2 回目の講義には、各自、美しく好感が持たれる姿について考えた上で、それを表現した身だしなみで出席してください。（見学用スーツ着用） 3 回目の講義には、各自、美しく好感が持たれる姿について考えた上で、それを表現した身だしなみで出席してください。（白衣着用） 3 回目以降の講義は 12 月と期間が空いています。1 回目～3 回目まで学んだことや基礎看護学実習 I（1 日見学）で気づいたことなどを踏まえて、ホスピタリティを考えながら講義や演習に取り組むと共に、学校生活においても好感度や信頼感を高めるためのコミュニケーションを実践していきましょう。コミュニケーションは普段からの習慣づけが重要です。						

<p>4 回目以降は上記に示した、これまでの自己の取り組みをリフレクションしながら学びを積み上げていきます。毎回の講義での学びを日常の中で、行動で表現していきましょう。</p> <p>6 回目・7 回目は事例演習の発表です。事前に、グループメンバーで協力し合いグループ学習を行っていきましょう。</p>
<p>【使用するテキスト】</p> <p>田中千恵子編 医療に従事する人のための患者接遇マナー基本テキスト 日本能率協会マネジメントセンター 2017</p> <p>茂野香おる他著 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学 1 看護学概論 医学書院 2024</p>
<p>【参考文献】</p> <p>古関博美著 看護のホスピタリティとマナー 鷹書房弓プレス 2001</p> <p>近藤和子著 はじめての医療接遇 患者のための心のこもったおもてなし ごきげんビジネス出版 2018</p> <p>三瓶舞紀子著 看護の現場ですぐに役立つ患者接遇のキホン 秀和システム 2019</p>
<p>【評価方法】</p> <p>課題レポートを含む講義・演習中の態度や姿勢、出席状況、発表の準備状態（50 点）、レポート試験（50 点）</p> <p>最終日にレポート試験のテーマを知らせます。試験と同じ取り扱いです。指定された日時までに提出してください。</p> <p>指定日時までに提出されたものを評価の対象とします。</p>
<p>【受講上の注意】</p> <p>16 時間科目です。つまり自己学習が 29 時間となります。事前学習や復習など自分で学習スケジュールを立て、計画的に行なっていきましょう。</p>

科目 No.37

分野	専門分野	科目	基礎看護学：基礎看護技術Ⅰ（看護技術の基礎）			
必修・選択	必修	単位数 時間数（回数）	1 単位 16 時間（8 回）	配当時期	1 年前期	
講師名	クレスポ亜沙美	所属および実務経験	専任教員／看護師			
	本城咲		済生会福岡総合病院／感染管理認定看護師			
<p>【科目のねらい】</p> <p>少子高齢化や疾病構造の変化、医療の高度化など、医療・看護を取り巻く社会の状況は常に変化しつづけています。また看護活動の場は地域へ拡大・多様化し、看護師への役割期待もますます大きくなっています。役割を果たすためにも、まず、対象の状況をアセスメントし、対象一人ひとりの状況に応じた看護を実践できるようになることが重要です。ここでは、臨床判断能力や看護の基盤となる基礎的技術を「なぜそうするのか」考えながら確実に習得していきましょう。基礎看護技術Ⅵまで単元を積み重ねながら、看護師としての倫理的配慮や人間関係を形成するためのコミュニケーション技術も強化していきましょう。</p> <p>基礎看護技術Ⅰでは、まず「技術」とはなにかを考え、看護技術の特徴や看護技術を適切に実践するための要素である原理原則について考えたうえで、基礎的技術のうち、いわばその土台をなす技術である人間関係を形成するためのコミュニケーション技術、感染防止の技術について学習していきましょう。</p>						
<p>【目的】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 臨床判断能力や看護の基盤となる看護技術の基礎を理解し、原理原則に基づき実践できる能力を養う。</li> <li>2. 看護師として倫理的に判断し行動するための基礎的能力を養う。</li> <li>3. 人間関係を形成するためのコミュニケーション技術を養う。</li> </ol> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 技術とはなにか、看護技術の特徴・範囲、原理原則について説明することができる。</li> <li>2. 看護技術を適切に実践するための共通する要素について説明することができる。</li> <li>3. 看護・医療におけるコミュニケーションの重要性について述べることができる。</li> <li>4. 関係構築のためのコミュニケーションの基本的な方法について説明することができる。</li> <li>5. 演習を通して、原理原則に基づき、衛生的な手洗いや個人防護用具の選択・着脱を実施することができる。</li> <li>6. 演習を通して、原理原則に基づき、患者ケアに使用した器具等や感染性廃棄物の取り扱いを実施することができる。</li> </ol>						
<p>【DPとの関連】</p> <p>DP1 人々の様々な価値観を尊重したコミュニケーションを図り、より良い人間関係を築くことができる。</p> <p>DP2 看護専門職の役割と責務を自覚し、倫理的判断に基づく看護実践やリーダーシップを示すことができる。</p> <p>DP3 対象の反応から臨床判断し、健康レベルに応じた看護を科学的根拠に基づき実践することができる。</p> <p>DP4 対象のQOL（Quality Of Life：生活の質）向上を目指し、対象の持てる力を活かした看護や安心・安全な生活を支援する看護を実践することができる。</p> <p>DP5 多様な場で生活するあらゆる人々の健康に着目し、地域包括ケアシステム、チーム医療や多職種との連携・協働の視点を持ち看護を実践することができる。</p> <p>DP6 心身の健康管理能力及び社会人基礎力や情報活用能力を発展させ、看護の質の向上を目指し、自ら学び続ける姿勢を表現することができる。</p>						
【授業の流れ】（全体スケジュール・学習内容・方法等）						
回	日程	1 組	2 組	学習内容	方法	備考
1	4/8	1	1	看護技術を学ぶにあたって（観察・記録・報告を含む） 技術とはなにか、看護技術の特徴・範囲、原理原則とは	講義 ポストテスト（5）	クレスポ 亜沙美
2	4/9	1	1	看護技術に共通する要素 安全確保の技術：患者確認（患者誤認防止）	講義 演習 ポストテスト（5）	
3	4/17	4	4	コミュニケーションの基礎知識	講義 ポストテスト（5）	
4	4/30	1	3	コミュニケーション	演習 （10）	
5	4/30	2	4			
6	4/8	2	2	感染とその予防の基礎知識 スタンダードプリコーションに基づく衛生的手洗い 個人防護用具（用具の選択・着脱）	講義 ポストテスト（5）	本城咲

7	4/12	1		感染防止の実際；衛生的手洗い、個人防護用具の選択・着脱	演習	本城咲
	4/15		1			
8	4/12	2		感染防止の取り扱い（患者ケアに使用した器具、リネンなど） 感染性廃棄物の取り扱い	演習 (10)	本城咲
	4/15		2			
5月13日（月）1限目				筆記試験・技術試験		
<p><b>【準備学習内容】</b></p> <p>テキストによる事前学習をしっかりと行いましょう。テキスト学習を踏まえて授業は進んでいきます。 重要な箇所にはマーカーする、ディスカッション時に活用できるようポイントをメモしておくなど工夫し自己学習しましょう。</p> <p>2回目の「看護技術に共通する要素」は、テキスト「看護がみえる① 基礎看護技術」を使用します。</p> <p>講義・演習では事前課題や事後課題を提示します。しっかり準備して効果的な学習となるよう取り組みましょう。</p> <p>動画視聴：科目に関連する看護技術の動画は電子教科書や医学映像から視聴できます。授業前後に視聴、自己練習する際の確認で視聴するなど積極的に活用していきましょう。</p> <p>「実践 看護技術シリーズ 感染予防編」の、スタンダードプリコーションの動画を事前に視聴し、6回目の講義を受講しましょう。</p> <p>「実習に役立つ 看護コミュニケーション」の動画は授業で活用します。</p>						
<p><b>【使用するテキスト】</b></p> <p>茂野香おる他著 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学 2 基礎看護技術 I 医学書院 2024 藤本真紀子他監 看護がみえる① 基礎看護技術 メディックメディア 2023</p>						
<p><b>【参考文献】</b></p> <p>図書室には多数の基礎看護技術に関する図書や看護雑誌がありますので自分に合うものを参考にしてください。</p>						
<p><b>【評価方法】</b></p> <p>授業終了時のポストテスト（20点）、技術試験（30点）、演習の成果・態度（20点）、筆記試験（30点）        久スロ 亜沙美：ポストテスト（15点）技術試験（30点）演習の成果・態度（10点）筆記試験（20点）        本城 咲：ポストテスト（5点）演習の成果・態度（10点）筆記試験（10点）</p> <p>チェックリストや技術の動画は、指定された日時までに提出してください。</p> <p>到達レベル 演習 I：スタンダードプリコーションに基づく衛生的手洗い、個人防護用具（用具の選択・着脱）        感染防止の取り扱い（患者ケアに使用した器具、リネンなど）、感染性廃棄物の取り扱い</p> <p>到達度の確認は、以下のいずれかでを行う。詳細は別紙参照。</p> <p>演習中の技術確認、チェックリストを活用したグループ学習の自己評価と他者評価の提出、自己練習後の動画提出、対面による技術試験など</p>						
<p><b>【受講上の注意】</b></p> <p>16時間科目です。つまり自己学習が29時間となります。</p> <p>看護技術は、演習のみで身につくものではありません。知識を基礎として、繰り返し練習することで対象に提供できる看護技術に到達するものです。</p> <p>チェックリストを用いて自己評価を行ないながら技術練習していきましょう。指定された技術の動画を提出してもらい技術の到達度を確認します。</p>						

科目 No.38

分野	専門分野	科目	基礎看護学：基礎看護技術Ⅱ（活動と休息の援助）			
必修・選択	必修	単位数 時間数（回数）	1 単位 30 時間（15 回）	配当時期	1 年前期	
講師名	藤松正行	所属および実務経験	専任教員／看護師			
<p>【科目のねらい】</p> <p>少子高齢化や疾病構造の変化、医療の高度化など、医療・看護を取り巻く社会の状況は常に変化しつづけています。また看護活動の場は地域へ拡大・多様化し、看護師への役割期待もますます大きくなっています。役割を果たすためにも、まず、対象の状況をアセスメントし、対象一人ひとりの状況に応じた看護を実践できるようになることが重要です。ここでは、臨床判断能力や看護の基盤となる基礎的技術を「なぜそうするのか」考えながら確実に習得していきましょう。基礎看護技術Ⅵまで単元を積み重ねながら、看護師としての倫理的配慮や人間関係を形成するためのコミュニケーション技術も強化していきましょう。</p> <p>基礎看護技術Ⅱでは、基礎看護技術Ⅰで学んだ考え方を適用し、具体的な看護技術（環境調整技術、活動・休息援助技術、苦痛の緩和・安楽確保の技術）について学習していきましょう。</p>						
<p>【目的】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 臨床判断能力や看護の基盤となる活動と休息の基礎的技術を原理原則に基づき実践できる能力を養う。</li> <li>2. 看護師として倫理的に判断し、行動するための基礎的能力を養う。</li> <li>3. 人間関係を形成するためのコミュニケーション技術を強化する。</li> </ol> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 環境因子（物理的・人的）が療養生活に及ぼす影響について説明することができる。</li> <li>2. 演習を通して、ベッド周囲を快適な療養環境に整備することができる。</li> <li>3. ベッドメーカー演習を通して、ボディメカニクスを活用し、原理原則に基づき作成することができる。</li> <li>4. 姿勢の基礎知識、さまざまな体位とその目的について説明することができる。</li> <li>5. 体位変換・体位保持演習を通して、原理原則に基づき、対象の状態にあった体位を保持することができる。</li> <li>6. 事例（臥床患者のリネン交換）演習において、今までの学びを踏まえ、原理原則に基づき実施することができる。</li> <li>7. 移動が自力で困難な対象の移動（歩行・移乗・移送）を、原理原則に基づき実施することができる。</li> <li>8. 事例（臥床患者の車椅子による移送）演習において、今までの学びを踏まえ、原理原則に基づき実施することができる。</li> <li>9. 睡眠・休息の援助方法を列記し、いくつか例を示して説明することができる。</li> <li>10. 電法が身体に及ぼす影響を踏まえ、対象の目的にあった電法を原理原則に基づき実施することができる。</li> </ol>						
<p>【DPとの関連】</p> <p>DP1 人々の様々な価値観を尊重したコミュニケーションを図り、より良い人間関係を築くことができる。</p> <p>DP2 看護専門職の役割と責務を自覚し、倫理的判断に基づく看護実践やリーダーシップを示すことができる。</p> <p>DP3 対象の反応から臨床判断し、健康レベルに応じた看護を科学的根拠に基づき実践することができる。</p> <p>DP4 対象のQOL（Quality Of Life：生活の質）向上を目指し、対象の持てる力を活かした看護や安心・安全な生活を支援する看護を実践することができる。</p> <p>DP5 多様な場で生活するあらゆる人々の健康に着目し、地域包括ケアシステム、チーム医療や多職種との連携・協働の視点を持ち看護を実践することができる。</p> <p>DP6 心身の健康管理能力及び社会人基礎力や情報活用能力を発展させ、看護の質の向上を目指し、自ら学び続ける姿勢を表現することができる。</p>						
【授業の流れ】（全体スケジュール・学習内容・方法等）						
回	日程	1 組	2 組	学習内容	方法	備考
1	5/8	4	4	活動・休息援助技術の基礎知識（観察の視点を含む）	講義 ポストテスト（3）	
2	5/10	2	2	環境調整技術の基礎知識	講義 ポストテスト（3）	
3	5/13	3	2	援助の実際；環境整備	演習	
4	5/20	1	1	ベッドメーカー ボディメカニクス	講義 ポストテスト（3）	
5	5/23		3	援助の実際；ベッドメーカー	演習	
	5/30	3				
6	5/23		4			
	5/30	4				
7	6/3	1	1	活動の援助の基礎知識	講義 ポストテスト（3）	

8	6/4	3		援助の実際；体位変換・体位保持（ポジショニング）	演習		
	6/14		3	苦痛の緩和・安楽確保の技術；体位保持（ポジショニング）			
9	6/4	4					
	6/14		4				
10	6/20	2	1	＜シミュレーション＞ 臥床患者のリネン交換（環境整備、ベッドメイキング、ボディメカニクス、体位変換が統合された看護技術） 学びと気づきの発表と共有：看護師役の実施を動画撮影し、再生しながらリフレクション	演習		
11	6/21	3		援助の実際；歩行介助、移乗介助、車椅子移送、ストレッチャー移送	演習 ポストテスト（4）		
	6/25		3				
12	6/21	4					
	6/25		4				
13	7/4	2	1	＜シミュレーション＞ 臥床患者の車椅子による移送（体位変換、歩行、移乗、移送が統合された看護技術） 学びと気づきの発表と共有：看護師役の実施を動画撮影し、再生しながらリフレクション	演習		
14	7/10	3	1	睡眠・休息の援助 苦痛の緩和・安楽確保の技術；電法の基礎知識	講義 演習 ポストテスト（4）		
15	7/10	4	2	電法（冷電法・温電法）の実際	演習		
7月22日（月）1限目		筆記試験・技術試験※7月13日（土）1組3・4限目・2組1・2限目					
<p>【準備学習内容】</p> <p>自然科学（物理）の学習を活用できるように復習しておきましょう。</p> <p>テキストによる事前学習をしっかりと行いましょう。テキスト学習を踏まえて授業は進んでいきます。</p> <p>重要な箇所にはマーカーする、ディスカッション時に活用できるようポイントをメモしておくなど工夫し自己学習しましょう。</p> <p>講義・演習では事前課題や事後課題を提示します。しっかり準備して効果的な学習となるよう取り組みましょう。</p> <p>動画視聴：科目に関連する看護技術の動画は電子教科書や医学映像から視聴できます。授業前後に視聴、自己練習する際の確認で視聴するなど積極的に活用していきましょう。</p> <p>「実践 看護技術シリーズ 日常生活の援助技術編」の、ベッドメイキング、リネン・寝衣交換、体位変換の項目の動画を事前に視聴し、1回目の講義を受講しましょう。</p>							
<p>【使用するテキスト】</p> <p>任和子他著 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学 3 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 2024</p> <p>藤本真紀子他監 看護がみえる① 基礎看護技術 メディックメディア 2023</p>							
<p>【参考文献】</p> <p>図書室には多数の基礎看護技術に関する図書や看護雑誌がありますので自分に合うものを参考にしてください。</p>							
<p>【評価方法】</p> <p>授業終了時のポストテスト（20点）、技術試験（30点）、筆記試験（50点）</p> <p>チェックリストや技術の動画は、指定された日時までに提出してください。</p> <p>到達レベル 演習Ⅰ：快適な療養環境の整備、臥床患者のリネン交換、体位変換、体位の保持、安楽な体位、ポジショニング、歩行や移動の介助 車椅子やストレッチャーでの移送、移乗の介助、安楽の促進・苦痛の緩和のためのケア</p> <p>到達度の確認は、以下のいずれかで行う。詳細は別紙参照。</p> <p>演習中の技術確認、チェックリストを活用したグループ学習の自己評価と他者評価の提出、自己練習後の動画提出、対面による技術試験など</p>							
<p>【受講上の注意】</p> <p>看護技術は、演習のみで身につくものではありません。知識を基礎として、繰り返し練習することで対象に提供できる看護技術に到達するものです。</p> <p>チェックリストを用いて自己評価を行ないながら技術練習していきましょう。指定された技術の動画を提出してもらい技術の到達度を確認します。</p>							

科目 No.39

分野	専門分野	科目	基礎看護学：基礎看護技術Ⅲ（清潔・衣生活の援助）																																																						
必修・選択	必修	単位数 時間数（回数）	1 単位 30 時間（15 回）	配当時期	1 年前期																																																				
講師名	森下美香	所属および実務経験	専任教員／看護師																																																						
	木下さゆり		専任教員／看護師																																																						
<p>【科目のねらい】</p> <p>少子高齢化や疾病構造の変化、医療の高度化など、医療・看護を取り巻く社会の状況は常に変化しつづけています。また看護活動の場は地域へ拡大・多様化し、看護師への役割期待もますます大きくなっています。役割を果たすためにも、まず、対象の状況をアセスメントし、対象一人ひとりの状況に応じた看護を実践できるようになることが重要です。ここでは、臨床判断能力や看護の基盤となる基礎的技術を「なぜそうするのか」考えながら確実に習得していきましょう。基礎看護技術Ⅵまで単元を積み重ねながら、看護師としての倫理的配慮や人間関係を形成するためのコミュニケーション技術も強化していきましょう。</p> <p>基礎看護技術Ⅲでは、基礎看護技術Ⅰで学んだ考え方を適用し、具体的な看護技術（清潔・衣生活援助技術）について学習していきましょう。</p>																																																									
<p>【目的】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 臨床判断能力や看護の基盤となる清潔・衣生活の基礎的技術を原理原則に基づき実践できる能力を養う。</li> <li>2. 看護師として倫理的に判断し、行動するための基礎的能力を養う。</li> <li>3. 人間関係を形成するためのコミュニケーション技術を強化する。</li> </ol> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 皮膚・粘膜の構造と機能をふまえ、清潔援助の効果と全身への影響について説明することができる。</li> <li>2. 演習を通して、原理原則に基づき、寝衣交換を実施することができる。</li> <li>3. 演習を通して、原理原則に基づき、洗髪を実施することができる。</li> <li>4. 演習を通して、原理原則に基づき、手浴・足浴を実施することができる。</li> <li>5. 演習を通して、原理原則に基づき、陰部洗浄・おむつ交換を実施することができる。</li> <li>6. 演習を通して、原理原則に基づき、口腔ケアを実施することができる。</li> <li>7. 演習を通して、原理原則に基づき、全身清拭を実施することができる。</li> <li>8. 入浴・シャワー浴・爪ケア・ひげそりの援助方法及び留意点について説明することができる。</li> <li>9. 事例演習において、今までの学びを踏まえ、原理原則に基づき実施することができる。</li> </ol>																																																									
<p>【DPとの関連】</p> <p>DP1 人々の様々な価値観を尊重したコミュニケーションを図り、より良い人間関係を築くことができる。</p> <p>DP2 看護専門職の役割と責務を自覚し、倫理的判断に基づく看護実践やリーダーシップを示すことができる。</p> <p>DP3 対象の反応から臨床判断し、健康レベルに応じた看護を科学的根拠に基づき実践することができる。</p> <p>DP4 対象のQOL（Quality Of Life：生活の質）向上を目指し、対象の持てる力を活かした看護や安心・安全な生活を支援する看護を実践することができる。</p> <p>DP5 多様な場で生活するあらゆる人々の健康に着目し、地域包括ケアシステム、チーム医療や多職種との連携・協働の視点を持ち看護を実践することができる。</p> <p>DP6 心身の健康管理能力及び社会人基礎力や情報活用能力を発展させ、看護の質の向上を目指し、自ら学び続ける姿勢を表現することができる。</p>																																																									
<p>【授業の流れ】（全体スケジュール・学習内容・方法等）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>日程</th> <th>1 組</th> <th>2 組</th> <th>学習内容</th> <th>方法</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>5/31</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>清潔・衣生活の援助の基礎知識（観察の視点を含む）</td> <td>講義 ポストテスト（5）</td> <td rowspan="3">森下美香</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">2</td> <td>6/4</td> <td></td> <td>3</td> <td rowspan="3">衣生活の援助の実際；寝衣交換（点滴・ドレーン等を留置していない患者）</td> <td rowspan="3">講義 演習 ポストテスト（3） × 2</td> </tr> <tr> <td>6/14</td> <td>3</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">3</td> <td>6/4</td> <td></td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>6/14</td> <td>4</td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>6/17</td> <td>3</td> <td>2</td> <td>清潔の援助（入浴・シャワー浴・洗髪）の基礎知識</td> <td>講義 ポストテスト（5）</td> <td rowspan="4">木下さゆり</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">5</td> <td>6/19</td> <td>1</td> <td></td> <td rowspan="4">洗髪の実際；ケリーバッド・洗髪車・洗髪台</td> <td rowspan="4">演習</td> </tr> <tr> <td>6/21</td> <td></td> <td>3</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">6</td> <td rowspan="2">6/19</td> <td rowspan="2">2</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>						回	日程	1 組	2 組	学習内容	方法	備考	1	5/31	2	2	清潔・衣生活の援助の基礎知識（観察の視点を含む）	講義 ポストテスト（5）	森下美香	2	6/4		3	衣生活の援助の実際；寝衣交換（点滴・ドレーン等を留置していない患者）	講義 演習 ポストテスト（3） × 2	6/14	3		3	6/4		4	6/14	4		4	6/17	3	2	清潔の援助（入浴・シャワー浴・洗髪）の基礎知識	講義 ポストテスト（5）	木下さゆり	5	6/19	1		洗髪の実際；ケリーバッド・洗髪車・洗髪台	演習	6/21		3	6	6/19	2			
回	日程	1 組	2 組	学習内容	方法	備考																																																			
1	5/31	2	2	清潔・衣生活の援助の基礎知識（観察の視点を含む）	講義 ポストテスト（5）	森下美香																																																			
2	6/4		3	衣生活の援助の実際；寝衣交換（点滴・ドレーン等を留置していない患者）	講義 演習 ポストテスト（3） × 2																																																				
	6/14	3																																																							
3	6/4		4																																																						
	6/14	4																																																							
4	6/17	3	2	清潔の援助（入浴・シャワー浴・洗髪）の基礎知識	講義 ポストテスト（5）	木下さゆり																																																			
5	6/19	1		洗髪の実際；ケリーバッド・洗髪車・洗髪台	演習																																																				
	6/21		3																																																						
6	6/19	2																																																							

6	6/21		4			
7	6/25	3	1	清潔の援助（手浴・足浴・整容：爪ケア）の基礎知識	講義 ポストテスト（5）	木下さゆり
8	6/25	4	2	手浴・足浴の実際；ベッド上・座位	演習	
9	7/2	1	3	清潔の援助（陰部洗浄・おむつ交換・口腔ケア）の基礎知識	講義 ポストテスト（5）	
10	7/2	2	4	陰部洗浄・おむつ交換の実際	演習	
11	7/3	1	2	口腔ケアの実際 ※義歯のケア以外	演習	
12	7/3	2	1	清潔の援助（全身清拭・整容：耳の清潔・ひげそり）の基礎知識	講義 ポストテスト（5）	森下美香
13	7/10	1	3	全身清拭の実際	演習	
14	7/10	2	4			
15	7/17	1	2	<シミュレーション> 臥床患者の上半身清拭と寝衣交換（点滴・ドレーン等を留置していない患者） 学びと気づきの発表と共有：看護師役の実施を動画撮影し、再生しながらリフレクション	演習	
7月25日（木）3限目				筆記試験・※技術試験2組9月4日2・3・4 1組9月5日2・3・4限目		
<p>【準備学習内容】</p> <p>テキストによる事前学習をしっかりと行いましょう。テキスト学習を踏まえて授業は進んでいきます。</p> <p>重要な箇所にはマーカーする、ディスカッション時に活用できるようポイントをメモしておくなど工夫し自己学習しましょう。</p> <p>講義・演習では事前課題や事後課題を提示します。しっかりと準備して効果的な学習となるよう取り組みましょう。</p> <p>動画視聴：科目に関連する看護技術の動画は電子教科書や医学映像から視聴できます。授業前後に視聴、自己練習する際の確認で視聴するなど積極的に活用していきましょう。</p> <p>「実践 看護技術シリーズ 清潔の援助技術編」「看護ケアに役立つフットケア」の動画を事前に視聴し、1回目の講義を受講しましょう。</p>						
<p>【使用するテキスト】</p> <p>任和子他著 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学 3 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 2024</p> <p>藤本真紀子他監 看護がみえる① 基礎看護技術 メディックメディア 2023</p>						
<p>【参考文献】</p> <p>図書室には多数の基礎看護技術に関する図書や看護雑誌がありますので自分に合うものを参考にしてください。</p>						
<p>【評価方法】</p> <p>授業終了時のポストテスト（31点）、技術試験（30点）、筆記試験（39点）</p> <p>森下美香：ポストテスト（16点）技術試験（30点）筆記試験（15点）</p> <p>木下さゆり：ポストテスト（15点）筆記試験（24点）</p> <p>チェックリストや技術の動画は、指定された日時までに提出してください。</p> <p>到達レベル 演習Ⅰ：寝衣交換（点滴やドレーンを挿入していない患者）、洗髪、足浴、手浴、陰部の保清、オムツ交換、口腔ケア、全身清拭整容（爪ケア、耳ケア、髭剃り）</p> <p>到達度の確認は、以下のいずれかで行う。詳細は別紙参照。</p> <p>演習中の技術確認、チェックリストを活用したグループ学習の自己評価と他者評価の提出、自己練習後の動画提出、対面による技術試験など</p>						
<p>【受講上の注意】</p> <p>看護技術は、演習のみで身につくものではありません。知識を基礎として、繰り返し練習することで対象に提供できる看護技術に到達するものです。</p> <p>チェックリストを用いて自己評価を行ないながら技術練習していきましょう。指定された技術の動画を提出してもらい技術の到達度を確認します。</p>						

科目 No.40

分野	専門分野	科目	基礎看護学：基礎看護技術Ⅳ（食事と排泄の援助）			
必修・選択	必修	単位数 時間数（回数）	1 単位 30 時間（15 回）	配当時期	1 年全期	
講師名	森下美香	所属および実務経験	専任教員／看護師			
	久我弥生		専任教員／看護師			
<p>【科目のねらい】</p> <p>少子高齢化や疾病構造の変化、医療の高度化など、医療・看護を取り巻く社会の状況は常に変化しつづけています。また看護活動の場は地域へ拡大・多様化し、看護師への役割期待もますます大きくなっています。役割を果たすためにも、まず、対象の状況をアセスメントし、対象一人ひとりの状況に応じた看護を実践できるようになることが重要です。ここでは、臨床判断能力や看護の基盤となる基礎的技術を「なぜそうするのか」考えながら確実に習得していきましょう。基礎看護技術Ⅵまで単元を積み重ねながら、看護師としての倫理的配慮や人間関係を形成するためのコミュニケーション技術も強化していきましょう。</p> <p>基礎看護技術Ⅳでは、基礎看護技術Ⅰで学んだ考え方を適用し、具体的な看護技術（食事援助技術、排泄援助技術）について学習していきましょう。</p>						
<p>【目的】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 臨床判断能力や看護の基盤となる食事と排泄の基礎的技術を原理原則に基づき実践できる能力を養う。</li> <li>2. 看護師として倫理的に判断し、行動するための基礎的能力を養う。</li> <li>3. 人間関係を形成するためのコミュニケーション技術を強化する。</li> </ol> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 対象の栄養状態および食欲・摂食能力のアセスメントの方法、医療施設で提供される食事について説明することができる。</li> <li>2. 演習を通して、原理原則に基づき食事摂取の介助を実施することができる。</li> <li>3. 摂食・嚥下訓練（間接・直接訓練）について説明することができる。</li> <li>4. 演習を通して、原理原則に基づき、胃管挿入・確認し、栄養物を注入することができる。</li> <li>5. 排泄の意義とメカニズム、アセスメントの方法について説明することができる。</li> <li>6. 演習を通して、原理原則に基づき、トイレ・ポータブルトイレ・床上排泄（尿器・便器）介助を実施することができる。</li> <li>7. 演習を通して、原理原則に基づき、導尿・膀胱留置カテーテル挿入と管理を実施することができる。</li> <li>8. 演習を通して、対象の状態にあった便秘改善のための援助を考え、原理原則に基づき実施することができる。</li> </ol>						
<p>【DPとの関連】</p> <p>DP1 人々の様々な価値観を尊重したコミュニケーションを図り、より良い人間関係を築くことができる。</p> <p>DP2 看護専門職の役割と責務を自覚し、倫理的判断に基づく看護実践やリーダーシップを示すことができる。</p> <p>DP3 対象の反応から臨床判断し、健康レベルに応じた看護を科学的根拠に基づき実践することができる。</p> <p>DP4 対象のQOL（Quality Of Life：生活の質）向上を目指し、対象の持てる力を活かした看護や安心・安全な生活を支援する看護を実践することができる。</p> <p>DP5 多様な場で生活するあらゆる人々の健康に着目し、地域包括ケアシステム、チーム医療や多職種との連携・協働の視点を持ち看護を実践することができる。</p> <p>DP6 心身の健康管理能力及び社会人基礎力や情報活用能力を発展させ、看護の質の向上を目指し、自ら学び続ける姿勢を表現することができる。</p>						
【授業の流れ】（全体スケジュール・学習内容・方法等）						
回	日程	1 組	2 組	学習内容	方法	備考
1	7/16	2	2	食事と排泄の援助の基礎知識（観察の視点を含む）	講義 ポストテスト（5）	森下美香
2	7/19	2	2	食事摂取の介助の基礎知識 摂食・嚥下訓練の基礎知識	講義 ポストテスト（4）	久我弥生
3	9/4	3		食事摂取の介助の実際	演習	
	9/5		3			
4	9/4	4				
	9/5		4			
5	9/6	2	2	非経口的栄養摂取の援助の基礎知識	講義 ポストテスト（4）	
6	9/10		1	経管栄養法の実際	演習	
	9/13	3		経鼻胃管挿入と確認、栄養物注入		

7	9/10		2			
	9/13	4				
8	9/17	1	1	排泄援助の基礎知識	講義	ポストテスト (4)
9	9/20		1	自然排尿および自然排便の介助の実際	演習	
	9/27	3		トイレ歩行・ポータブルトイレ・床上排泄 (尿器・便器)・オムツ排泄		
10	9/20		2	泄		
	9/27	4				
11	10/1	2	2	排尿・排便を促す援助 (導尿<一時的・持続的>・浣腸)の基礎知識 ※摘便以外	講義	ポストテスト (3)
12	10/3	3		排尿を促す援助の実際; 導尿・膀胱留置カテーテル挿入と管理	演習	久我弥生
	10/4		3			
13	10/3	4				
	10/4		4			
14	10/11		3	排便を促す援助の実際; 腹部マッサージ・腰背部温罨法・浣腸	講義	演習
	10/15	3				
15	10/11		4			
	10/15	4				
11/2 (土) 1 限目				筆記試験		
<p>【準備学習内容】</p> <p>テキストによる事前学習をしっかりと行いましょう。テキスト学習を踏まえて授業は進んでいきます。</p> <p>重要な箇所にはマーカーする、ディスカッション時に活用できるようポイントをメモしておくなど工夫し自己学習しましょう。</p> <p>2 回目の授業後、身内の人に食事介助を実施し、自身の介助はどうであったか身内の人に確認し感じたこと、考えたことをレポートにまとめておきましょう。</p> <p>8 回目の授業後、おむつ装着体験を実施してみましょう。方法①おむつに排尿し、2 時間以上経過してみましょう。②排尿できなかった場合は、200～300ml の微温湯をおむつに湿らして装着し 2 時間以上経過してみましょう。体験から感じたこと、考えたことをレポートにまとめておきましょう。</p> <p>食事介助とおむつ装着体験レポートは、指定日時までに提出してください。</p> <p>講義・演習では事前課題や事後課題を提示します。しっかり準備して効果的な学習となるよう取り組みましょう。</p> <p>動画視聴：科目に関連する看護技術の動画は電子教科書や医学映像から視聴できます。授業前後に視聴、自己練習する際の確認で視聴するなど積極的に活用していきましょう。</p> <p>「実践 看護技術シリーズ 日常生活の援助技術編」の食事・経管栄養の動画を事前に視聴し、2 回目の講義を受講しましょう。</p> <p>「実践 看護技術シリーズ 排泄の援助技術編」の動画を事前に視聴し、8 回目の講義を受講しましょう。</p>						
<p>【使用するテキスト】</p> <p>任和子他著 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学 3 基礎看護技術 II 医学書院 2024</p> <p>藤本真紀子他監 看護がみえる① 基礎看護技術 メディックメディア 2023</p> <p>近藤一郎他監 看護がみえる② 臨床看護技術 メディックメディア 2023</p>						
<p>【参考文献】</p> <p>図書室には多数の基礎看護技術に関する図書や看護雑誌がありますので自分に合うものを参考にしてください。</p>						
<p>【評価方法】</p> <p>授業終了時のポストテスト (20 点)、技術試験 (30 点)、課題レポートを含む演習への取り組み (10 点) 筆記試験 (40 点)</p> <p>森下美香：ポストテスト (5 点) 筆記試験 (5 点)</p> <p>久我弥生：ポストテスト (15 点) 技術試験 (30 点) 課題レポートを含む演習への取り組み (10 点) 筆記試験 (35 点)</p> <p>チェックリストや技術の動画は、指定された日時までに提出してください。</p> <p>到達レベル 演習 I：食事介助 (嚥下障害のある患者を除く)、経管栄養法による流動食の注入、経鼻胃チューブの挿入 併設介助 (床上、ポータブルトイレ、オムツなど)、膀胱留置カテーテルの管理、浣腸、摘便</p> <p>到達度の確認は、以下のいずれかで行う。詳細は別紙参照。</p> <p>演習中の技術確認、チェックリストを活用したグループ学習の自己評価と他者評価の提出、自己練習後の動画提出、対面による技術試験など</p>						
<p>【受講上の注意】</p> <p>看護技術は、演習のみで身につくものではありません。知識を基礎として、繰り返し練習することで対象に提供できる看護技術に到達するものです。</p> <p>チェックリストを用いて自己評価を行ないながら技術練習していきましょう。(導尿・膀胱留置カテーテル挿入は除く)</p> <p>指定された技術の動画を提出してもらい技術の到達度を確認します。</p>						

科目 No.41

分野	専門分野	科目	基礎看護学： 基礎看護技術Ⅴ（感染防止と呼吸と循環を整える援助）			
必修・選択	必修	単位数 時間数（回数）	1 単位 30 時間（15 回）	配当時期	1 年全期	
講師名	神谷有規子	所属および実務経験	専任教員／看護師			
<p>【科目のねらい】</p> <p>少子高齢化や疾病構造の変化、医療の高度化など、医療・看護を取り巻く社会の状況は常に変化しつづけています。また看護活動の場は地域へ拡大・多様化し、看護師への役割期待もますます大きくなっています。役割を果たすためにも、まず、対象の状況をアセスメントし、対象一人ひとりの状況に応じた看護を実践できるようになることが重要です。ここでは、臨床判断能力や看護の基盤となる基礎的技術を「なぜそうするのか」考えながら確実に習得していきましょう。基礎看護技術Ⅵまで単元を積み重ねながら、看護師としての倫理的配慮や人間関係を形成するためのコミュニケーション技術も強化していきましょう。</p> <p>基礎看護技術Ⅴでは、基礎看護技術Ⅰで学んだ考え方を適用し、具体的な看護技術（感染防止の技術、呼吸・循環を整える技術、救命救急処置技術、創傷管理技術）について学習していきましょう。</p>						
<p>【目的】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 臨床判断能力や看護の基盤となる感染防止と呼吸と循環を整える援助の基礎的技術を原理原則に基づき実践できる能力を養う。</li> <li>2. 看護師として倫理的に判断し、行動するための基礎的能力を養う。</li> <li>3. 人間関係を形成するためのコミュニケーション技術を強化する。</li> </ol> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 感染経路別予防策、カテーテル関連血流感染対策について説明することができる。</li> <li>2. 洗浄・消毒・滅菌の違い及び方法と適応について説明することができる。</li> <li>3. 演習を通して、原理原則に基づき、無菌操作を実施することができる。</li> <li>4. 演習を通して、原理原則に基づき、気道確保、指示された酸素投与方法及び酸素流量の設定を実施することができる。</li> <li>5. 演習を通して、原理原則に基づき、酸素ボンベの操作と安全管理及び酸素残量の計算を実施することができる。</li> <li>6. 演習を通して、原理原則に基づき、対象の状態に応じた排痰ケアを実施することができる。</li> <li>7. ドレナージの管理について説明することができる。</li> <li>8. 演習を通して、原理原則に基づき、創の状態に応じた創洗浄・創保護を実施することができる。</li> <li>9. 演習を通して、原理原則に基づき、使用部位や目的に応じた包帯法を実施することができる。</li> <li>10. 演習を通して、褥瘡のリスクアセスメントをし、原理原則に基づき、体位に応じた褥瘡予防ケアを実施することができる。</li> </ol>						
<p>【DPとの関連】</p> <p>DP1 人々の様々な価値観を尊重したコミュニケーションを図り、より良い人間関係を築くことができる。</p> <p>DP2 看護専門職の役割と責務を自覚し、倫理的判断に基づく看護実践やリーダーシップを示すことができる。</p> <p>DP3 対象の反応から臨床判断し、健康レベルに応じた看護を科学的根拠に基づき実践することができる。</p> <p>DP4 対象のQOL（Quality Of Life：生活の質）向上を目指し、対象の持てる力を活かした看護や安心・安全な生活を支援する看護を実践することができる。</p> <p>DP5 多様な場で生活するあらゆる人々の健康に着目し、地域包括ケアシステム、チーム医療や多職種との連携・協働の視点を持ち看護を実践することができる。</p> <p>DP6 心身の健康管理能力及び社会人基礎力や情報活用能力を発展させ、看護の質の向上を目指し、自ら学び続ける姿勢を表現することができる。</p>						
【授業の流れ】（全体スケジュール・学習内容・方法等）						
回	日程	1 組	2 組	学習内容	方法	備考
1	9/6	3	3	感染防止（感染経路別予防策：接触・飛沫・空気）の基礎知識 与薬の技術；カテーテル関連血流感染の基礎知識	講義 ポストテスト（4）	
2	9/6	4	4	洗浄・消毒・滅菌・無菌操作の基礎知識	講義 ポストテスト（4）	
3	9/12	2	1	無菌操作の実際	演習	
4	9/19	2	1	呼吸・循環を整える技術 酸素療法（酸素吸入療法）の基礎知識	講義 ポストテスト（4）	

5	9/26	4		援助の実際；気道確保、酸素吸入療法・酸素ボンベの操作と管理	演習	
	9/27		3			
6	10/3		3	排痰ケアの基礎知識	講義 ポストテスト（4）	
	10/4	3				
7	10/3		4	援助の実際；排痰ケア（ネブライザーを用いた吸入、体位ドレナージ、咳嗽介助）	演習	
	10/4	4				
8	10/11	3		援助の実際；排痰ケア（口腔・鼻腔・気管内吸引）		
	10/15		3			
9	10/11	4				
	10/15		4			
10	10/16	3			持続吸引（ドレナージの管理）の基礎知識 体温管理の技術	講義 ポストテスト（4）
	10/18		3			
11	10/16	4		援助の実際；ドレナージの管理	演習	
	10/18		4			
12	10/23	1	3	創傷管理の基礎知識	講義 ポストテスト（4）	
13	10/23	2	4	創傷処置（創洗浄・創保護・包帯法）	講義 演習 ポストテスト（3）	
14	11/8	3		褥瘡予防	講義 演習 ポストテスト（3）	
	11/15		1			
15	11/8	4				
	11/15		2			
11月22日（金）1限目				筆記試験		
<p>【準備学習内容】</p> <p>自然科学（物理）や微生物学（感染とその防御）の学習を活用できるように復習しておきましょう。</p> <p>テキストによる事前学習をしっかりと行いましょう。テキスト学習を踏まえて授業は進んでいきます。</p> <p>重要な箇所にはマーカーする、ディスカッション時に活用できるようポイントをメモしておくなど工夫し自己学習しましょう。</p> <p>講義・演習では事前課題や事後課題を提示します。しっかりと準備して効果的な学習となるよう取り組みましょう。</p> <p>動画視聴：科目に関連する看護技術の動画は電子教科書や医学映像から視聴できます。授業前後に視聴、自己練習する際の確認で視聴するなど積極的に活用していきましょう。</p> <p>「実践 看護技術シリーズ 感染予防編」の、動画を事前に視聴し、1回目の講義を受講しましょう。</p> <p>「看護のための酸素吸入療法」の動画を事前に視聴し、4回目の講義を受講しましょう。</p>						
<p>【使用するテキスト】</p> <p>茂野香おる他著 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学 2 基礎看護技術 I 医学書院 2024</p> <p>任和子他著 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学 3 基礎看護技術 II 医学書院 2024</p> <p>藤本真紀子他監 看護がみえる① 基礎看護技術 メディックメディア 2023</p> <p>近藤一郎他監 看護がみえる② 臨床看護技術 メディックメディア 2023</p>						
<p>【参考文献】</p> <p>図書室には多数の基礎看護技術に関する図書や看護雑誌がありますので自分に合うものを参考にしてください。</p>						
<p>【評価方法】</p> <p>授業終了時の<b>ポストテスト（30点）</b>、<b>筆記試験（70点）</b></p> <p>チェックリストや技術の動画は、指定された日時までに提出してください。</p> <p>到達レベル 演習 I：無菌操作、酸素吸入療法の実施、ネブライザーを用いた気道内加湿、体位ドレナージ、体温調節の援助</p> <p>到達度の確認は、以下のいずれかで行う。詳細は別紙参照。</p> <p>演習中の技術確認、チェックリストを活用したグループ学習の自己評価と他者評価の提出、自己練習後の動画提出、対面による技術試験など</p>						
<p>【受講上の注意】</p> <p>看護技術は、演習のみで身につくものではありません。知識を基礎として、繰り返し練習することで対象に提供できる看護技術に到達するものです。</p> <p>チェックリストを用いて自己評価を行ないながら技術練習していきましょう。（口腔・鼻腔・気管内吸引、創洗浄・創保護、褥瘡予防ケアは除く）</p> <p>指定された技術の動画を提出してもらい技術の到達度を確認します。</p>						

科目 No.42

分野	専門分野	科目	基礎看護学：基礎看護技術VI（与薬の援助）			
必修・選択	必修	単位数 時間数（回数）	1 単位 30 時間（15 回）	配当時期	2 年前期	
講師名	森下美香	所属および実務経験	専任教員／看護師			
	安田芽吹		専任教員／看護師			
	神谷有規子		専任教員／看護師			
【科目のねらい】						
<p>少子高齢化や疾病構造の変化、医療の高度化など、医療・看護を取り巻く社会の状況は常に変化しつづけています。また看護活動の場は地域へ拡大・多様化し、看護師への役割期待もますます大きくなっています。役割を果たすためにも、まず、対象の状況をアセスメントし、対象一人ひとりの状況に応じた看護を実践できるようになることが重要です。ここでは、臨床判断能力や看護の基盤となる基礎的技術を「なぜそうするのか」考えながら確実に習得していきましょう。基礎看護技術VIまで単元を積み重ねながら、看護師としての倫理的配慮や人間関係を形成するためのコミュニケーション技術も強化していきましょう。</p> <p>基礎看護技術VIでは、基礎看護技術Iで学んだ考え方を適用し、具体的な看護技術（与薬の技術）について学習していきましょう。</p>						
【目的】						
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 臨床判断能力や看護の基盤となる与薬の援助の基礎的技術を原理原則に基づき実践できる能力を養う。</li> <li>2. 看護師として倫理的に判断し、行動するための基礎的能力を養う。</li> <li>3. 人間関係を形成するためのコミュニケーション技術を強化する。</li> </ol>						
【到達目標】						
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 正しい与薬、誤薬防止の方法を説明することができる。</li> <li>2. 薬剤の剤形と特徴を踏まえ、援助のポイントを説明することができる。</li> <li>3. 演習を通して、原理原則に基づき、経口薬・経皮薬・坐薬を与薬することができる。</li> <li>4. 注射の基礎知識、針刺し防止策と事故後の対応について説明することができる。</li> <li>5. 皮下・皮内・筋肉内注射の演習を通して、原理原則に基づき、準備から一連を実施することができる。</li> <li>6. 静脈内注射の基礎知識について説明することができる。</li> <li>7. 静脈内注射の演習を通して、原理原則に基づき、準備から一連を実施することができる。</li> <li>8. 演習を通して、原理原則に基づき、輸血管理を実施することができる。</li> </ol>						
【DPとの関連】						
<p>DP1 人々の様々な価値観を尊重したコミュニケーションを図り、より良い人間関係を築くことができる。</p> <p>DP2 看護専門職の役割と責務を自覚し、倫理的判断に基づく看護実践やリーダーシップを示すことができる。</p> <p>DP3 対象の反応から臨床判断し、健康レベルに応じた看護を科学的根拠に基づき実践することができる。</p> <p>DP4 対象のQOL（Quality Of Life：生活の質）向上を目指し、対象の持てる力を活かした看護や安心・安全な生活を支援する看護を実践することができる。</p> <p>DP5 多様な場で生活するあらゆる人々の健康に着目し、地域包括ケアシステム、チーム医療や多職種との連携・協働の視点を持ち看護を実践することができる。</p> <p>DP6 心身の健康管理能力及び社会人基礎力や情報活用能力を発展させ、看護の質の向上を目指し、自ら学び続ける姿勢を表現することができる。</p>						
【授業の流れ】（全体スケジュール・学習内容・方法等）						
回	日程	1 組	2 組	学習内容	方法	備考
1	4/5	3		与薬（薬物動態、正しい与薬）の基礎知識 ※薬の管理以外 安全確保の技術；誤薬防止	講義 ポストテスト（3）	森下美香
2	4/5	4		経口与薬・口腔内与薬	講義 演習 ポストテスト（3）	
3	4/10	3	1	吸入・点眼・点鼻・経皮的与薬 直腸内与薬	講義 演習 ポストテスト（3）	
4	4/10	4	2	口腔内与薬・吸入・点眼・点鼻・経皮的与薬・直腸内与薬	演習	
5	4/9	1		注射の基礎知識；注射方法の種類、概要と特徴、体内への吸収速度、量、注射針の選択 感染防止の技術；針刺し防止策と事故後の対応	講義 ポストテスト（3）	安田芽吹

6	4/9	2		皮下・皮内・筋肉内注射の基礎知識	講義 ポストテスト (3)	安田芽吹
7	4/17	3	1	皮下・皮内・筋肉内注射の実際； 注射針と注射筒の接続、薬液の吸い上げ、注射の実施	演習	
8	4/17	4	2			
9	4/16	2		静脈内注射の基礎知識；薬理作用を踏まえた静脈内注射の危険性、目的、注意点、注射部位の選択、輸液ラインと留置針の交換時期、輸液速度の調整	講義 演習 ポストテスト (3)	神谷 有規子
10	4/23	3	1	静脈内注射の実際（ワンショット） 静脈内注射の実際（翼状針による点滴静脈内注射）	講義 演習 ポストテスト (3)	
11	4/23	4	2	静脈内注射の実際（静脈留置針による点滴静脈内注射） 三方活栓の取り扱い ※輸液ポンプ・シリンジポンプの操作と管理以外	講義 演習 ポストテスト (3)	
12	4/30	3	1	静脈内注射の実際（ワンショット） 静脈内注射の実際（翼状針による点滴静脈内注射） 三方活栓の取り扱い	演習	
13	4/30	4	2	注射指示書の確認から、点滴準備、実施（滴下速度調整、対象の状態や輸液ラインの確認）まで一連を通しての演習		
14	5/14	3	1	静脈内注射の実際（中心静脈カテーテル） 食事援助技術；中心静脈栄養法 輸血管理；援助（血液製剤の管理、輸血の副作用）の基礎知識	講義 演習 ポストテスト (3)	
15	5/14	4	2	輸血管理；援助の実際	演習	
5月20日(月) 1限目				終了試験		

【準備学習内容】

薬理学や自然科学（化学：溶液の濃度計算）の学習を活用できるように復習しておきましょう。

テキストによる事前学習をしっかりと行いましょう。テキスト学習を踏まえて授業は進んでいきます。

重要な箇所にはマーカーする、ディスカッション時に活用できるようポイントをメモしておくなど工夫し自己学習しましょう。

講義・演習では事前課題や事後課題を提示します。しっかり準備して効果的な学習となるよう取り組みましょう。

動画視聴：「実践！看護技術シリーズ」：Vol.3 与薬、Vol.4 注射、Vol.5 輸液、Vol.7 輸血の動画を視聴しておきましょう。授業前後に視聴、自己練習する際の確認で視聴するなど積極的に活用していきましょう。

【使用するテキスト】

茂野香おる他著 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[2] 基礎看護技術Ⅰ 医学書院 2024

任和子他著 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 2024

藤本真紀子他監 看護がみえる① 基礎看護技術 メディックメディア 2022

近藤一郎他監 看護がみえる② 臨床看護技術 メディックメディア 2022

【参考文献】

図書室には多数の基礎看護技術に関する図書や看護雑誌がありますので自分に合うものを参考にしてください。

【評価方法】

授業終了時のポストテスト（27点）、課題レポートを含む演習への取り組み（23点）、筆記試験（50点）

森下美香先生：ポストテスト（9点）、課題レポートを含む演習への取り組み（5点）、筆記試験（11点）

安田芽吹先生：ポストテスト（6点）、課題レポートを含む演習への取り組み（6点）、筆記試験（18点）

神谷有規子先生：ポストテスト（12点）、課題レポートを含む演習への取り組み（12点）、筆記試験（21点）

演習への取り組み（チェックリスト作成や自己・他者評価）は、指定された日時までに提出してください。

到達レベル 演習Ⅰ：経皮・外用薬の投与

到達度の確認は、演習中の技術確認およびチェックリストを活用して自己練習後に動画提出。詳細は別紙参照。

【受講上の注意】

看護技術は、演習のみで身につくものではありません。知識を基礎として、繰り返し練習することで対象に提供できる看護技術に到達するものです。

チェックリストを用いて自己評価を行ないながら技術練習していきましょう。（経皮・外用薬の投与）

指定された技術の動画を提出してもらい技術の到達度を確認します。

科目 No.43

分野	専門分野	科目	基礎看護学：基礎看護技術総論（対象に応じた技術の適応）			
必修・選択	必修	単位数 時間数（回数）	1 単位 16 時間（8 回）	配当時期	1 年後期	
講師名	藤木美春	所属および実務経験	専任教員／看護師			
<p>【科目のねらい】</p> <p>この科目では、これまで学んできた基礎看護技術を対象（主要症状のある状況設定事例）に応じて適用し、対象の中心の看護としての看護技術や安全・安楽・自立など原理原則を踏まえて複合的に看護を実践していく基礎を養う機会としていきましょう。</p>						
<p>【目的】対象の状態やニーズに応じて看護技術を組み合わせ、原理原則に基づき看護を実践できる基礎的能力を養う。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 主要症状のメカニズムと一般的な看護について説明することができる。</li> <li>2. 主要症状のある事例の特徴を踏まえて、苦痛の緩和に向けた看護計画を立案することができる。</li> <li>3. 対象の状態やニーズに応じて技術を組み合わせ、効果的な援助となるよう看護計画を立案することができる。</li> <li>4. 立案した計画を対象の反応を確かめながら原理原則に基づき実施することができる。</li> <li>5. 演習を通して、対象に応じて看護技術を創意工夫することの重要性を表現することができる。</li> <li>6. 主体的、協動的に演習に取り組むことができる。</li> </ol>						
<p>【DPとの関連】</p> <p>DP1 人々の様々な価値観を尊重したコミュニケーションを図り、より良い人間関係を築くことができる。</p> <p>DP4 対象のQOL（Quality Of Life：生活の質）向上を目指し、対象の持てる力を活かした看護や安心・安全な生活を支援する看護を実践することができる。</p>						
【授業の流れ】（全体スケジュール・学習内容・方法等）						
回	日程	1 組	2 組	学習内容	方法	備考
1	10/15	2	2	主要症状と看護について 症状マネジメント理論について 演習のオリエンテーション	講義	
2	10/21	2	2	主要症状のある事例：倦怠感、発熱、失禁、掻痒感、便秘、浮腫 調べ学習と説明教材作成 互いに説明し合い理解を深める 視点： 対象のニーズの把握、状況判断、苦痛の緩和、対象を尊重した態度やコミュニケーション 症状の緩和に向けて技術を組み合わせ複合的に実践	演習 ポストテスト（5） × 4	
3	10/31	2	2			
4	11/11	2	2			
5	11/18	3	3			
6	11/22	2	2			
7	12/17	○		OSCE（看護師教育の技術項目と卒業時の到達度レベル＜演習 1＞を中心に実施）	演習 90 分演習 90 分振り返り	
8	12/18		○	主要症状のある患者への安全安楽な看護 リフレクションと課題の明確化		
12月21日（土）				レポート提出		
<p>【準備学習内容】</p> <p>病態生理学の学習を活用できるように復習しておきましょう。</p> <p>主要症状と看護を学んでいく上で必要な文献など調べ、準備しておきましょう。</p> <p>ICTを活用した調べ学習も行いましょう。</p> <p>倦怠感、発熱、失禁、掻痒感、便秘、浮腫の原因・メカニズム・成り行き・治療や看護に関する基本的な知識は、授業前までに自己学習を進め、ておきましょう。</p> <p>動画視聴：科目に関連する看護技術の動画は電子教科書や医学映像から視聴できます。授業前後に視聴、自己練習する際の確認で視聴するなど積極的に活用していきましょう。</p> <p>「看護のための病態生理とアセスメント」の該当項目の動画を事前に視聴し、2 回目の講義を受講しましょう。</p>						

【使用するテキスト】

香春知永他著 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学 4 臨床看護総論 医学書院 2024  
茂野香おる他著 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学 2 基礎看護技術 I 医学書院 2024  
任和子他著 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学 3 基礎看護技術 II 医学書院 2024  
藤本真紀子他監 看護がみえる① 基礎看護技術 メディックメディア 2023  
近藤一郎他監 看護がみえる② 臨床看護技術 メディックメディア 2023

【参考文献】

阿部俊子監修 エビデンスに基づく疾患別看護ケア関連図 第3版 中央法規 2023  
百瀬千尋他編 根拠がわかる症状別看護過程 ころとからだの69 症状・事例展開と関連図 改訂第4版 南江堂 2023  
高木永子他編 看護過程に沿った対症看護 第5版 Gakken 2018

【評価方法】

授業終了時のポストテスト（20点）、技術試験（50点）、課題レポートを含む演習への取り組み（30点）

チェックリストや技術の動画、課題レポートは指定された日時までに提出してください。

到達レベル 演習 I：これまで学習した技術

到達度の確認は、以下のいずれかで行う。詳細は別紙参照。

演習中の技術確認、チェックリストを活用したグループ学習の自己評価と他者評価の提出、自己練習後の動画提出、対面による技術試験など

【受講上の注意】

16 時間科目です。つまり自己学習が 29 時間となります。事前学習や復習など自分で学習スケジュールを立て、計画的に行なっていきましょう。  
看護技術は、演習のみで身につくものではありません。知識を基礎として、繰り返し練習することで対象に提供できる看護技術に到達するものです。  
チェックリストを用いて自己評価を行ないながら技術練習していきましょう。(体温調節の援助)  
指定された技術の動画を提出してもらい技術の到達度を確認します。

科目 No.44

分野	専門分野	科目	基礎看護学：フィジカルアセスメント																																												
必修・選択	必修	単位数 時間数（回数）	1 単位 30 時間（15 回）	配当時期	1 年後期																																										
講師名	木下由理子	所属および実務経験	専任教員／看護師																																												
	神谷有規子		専任教員／看護師																																												
<p>【科目のねらい】</p> <p>フィジカルアセスメントとは、ヘルスアセスメント（身体的・精神的・社会的な視点から総合的に査定すること）のなかに含まれ、対象の訴えを聴き、血圧測定や呼吸音の聴診、腹部の打診・触診などによって得られた身体的な情報についてアセスメントすることです。</p> <p>看護師として、対象の状況を的確に判断するために、フィジカルアセスメントの能力は必要不可欠です。フィジカルアセスメントの先には、必ずアセスメント結果をいかに看護が実践され、実践した看護の評価の際もフィジカルアセスメントは行われます。</p> <p>ここでは、臨床判断能力や看護の基盤となる基礎的技術のうち、いわばその土台をなす技術であるフィジカルアセスメントを解剖生理学での学びを活用しながら学んでいきましょう。</p> <p>ヘルスアセスメントのなかに含まれる心理的・社会的アセスメントは看護過程の科目で学び、対象を全人的・多角的にとらえる力を養っていきましょう。</p>																																															
<p>【目的】 臨床判断能力や看護の基盤となる基礎的技術を養う。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. フィジカルアセスメントとはなにか、説明することができる。</li> <li>2. フィジカルアセスメントとヘルスアセスメントの関係性について説明することができる。</li> <li>3. 健康歴聴取やセルフケア能力のアセスメントの目的・方法を説明することができる。</li> <li>4. フィジカルアセスメントに必要な技術（視診・触診・聴診・打診）の方法と留意点について説明することができる。</li> <li>5. 演習を通して、正確にバイタルサイン測定することができる。</li> <li>6. 演習を通して、正確に身体を計測することができる。</li> <li>7. 演習を通して、問診・視診・触診・聴診・打診を活用しながら系統的な症状の観察をし、得られた身体的情報をアセスメントすることができる。</li> <li>8. フィジカルアセスメントによって得られた結果を、看護の実践につなげる重要性について述べるることができる。</li> </ol>																																															
<p>【DPとの関連】</p> <p>DP1 人々の様々な価値観を尊重したコミュニケーションを図り、より良い人間関係を築くことができる。</p> <p>DP3 対象の反応から臨床判断し、健康レベルに応じた看護を科学的根拠に基づき実践することができる。</p> <p>DP4 対象のQOL（Quality Of Life：生活の質）向上を目指し、対象の持てる力を活かした看護や安心・安全な生活を支援する看護を実践することができる。</p> <p>DP6 心身の健康管理能力及び社会人基礎力や情報活用能力を発展させ、看護の質の向上を目指し、自ら学び続ける姿勢を表現することができる。</p>																																															
<p>【授業の流れ】（全体スケジュール・学習内容・方法等）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>日程</th> <th>1 組</th> <th>2 組</th> <th>学習内容</th> <th>方法</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>6/7</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>ヘルスアセスメントとは 健康歴とセルフケア能力のアセスメント；問診の技術 1. フィジカルアセスメントに必要な技術（視診・触診・聴診・打診） 2. 全身状態・全体印象の把握 3. 計測；身長・体重・皮下脂肪厚・腹囲</td> <td>講義 演習 ポストテスト（4）</td> <td rowspan="6">神谷有規子</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>6/13</td> <td>2</td> <td>1</td> <td>バイタルサイン測定とは バイタルサインの観察とアセスメント（体温・脈拍）</td> <td>講義 ポストテスト（3）</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>6/27</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>バイタルサインの観察とアセスメント（呼吸・血圧・spo2）</td> <td>講義 ポストテスト（3）</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>7/2</td> <td>3</td> <td>1</td> <td rowspan="2">臥床患者のバイタルサイン測定（体温・脈拍・呼吸・血圧・spo2）</td> <td rowspan="2">演習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>7/2</td> <td>4</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>7/11</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>&lt;シミュレーション&gt; 臨地でのバイタルサイン測定を想定し、測定から報告について学ぶ 正確に測定し、適切に報告する方法をリフレクションを通して考える</td> <td>演習 GW</td> </tr> </tbody> </table>						回	日程	1 組	2 組	学習内容	方法	備考	1	6/7	2	2	ヘルスアセスメントとは 健康歴とセルフケア能力のアセスメント；問診の技術 1. フィジカルアセスメントに必要な技術（視診・触診・聴診・打診） 2. 全身状態・全体印象の把握 3. 計測；身長・体重・皮下脂肪厚・腹囲	講義 演習 ポストテスト（4）	神谷有規子	2	6/13	2	1	バイタルサイン測定とは バイタルサインの観察とアセスメント（体温・脈拍）	講義 ポストテスト（3）	3	6/27	1	2	バイタルサインの観察とアセスメント（呼吸・血圧・spo2）	講義 ポストテスト（3）	4	7/2	3	1	臥床患者のバイタルサイン測定（体温・脈拍・呼吸・血圧・spo2）	演習	5	7/2	4	2	6	7/11	1	2	<シミュレーション> 臨地でのバイタルサイン測定を想定し、測定から報告について学ぶ 正確に測定し、適切に報告する方法をリフレクションを通して考える	演習 GW
回	日程	1 組	2 組	学習内容	方法	備考																																									
1	6/7	2	2	ヘルスアセスメントとは 健康歴とセルフケア能力のアセスメント；問診の技術 1. フィジカルアセスメントに必要な技術（視診・触診・聴診・打診） 2. 全身状態・全体印象の把握 3. 計測；身長・体重・皮下脂肪厚・腹囲	講義 演習 ポストテスト（4）	神谷有規子																																									
2	6/13	2	1	バイタルサイン測定とは バイタルサインの観察とアセスメント（体温・脈拍）	講義 ポストテスト（3）																																										
3	6/27	1	2	バイタルサインの観察とアセスメント（呼吸・血圧・spo2）	講義 ポストテスト（3）																																										
4	7/2	3	1	臥床患者のバイタルサイン測定（体温・脈拍・呼吸・血圧・spo2）	演習																																										
5	7/2	4	2																																												
6	7/11	1	2	<シミュレーション> 臨地でのバイタルサイン測定を想定し、測定から報告について学ぶ 正確に測定し、適切に報告する方法をリフレクションを通して考える	演習 GW																																										

7	9/11	1	1	フィジカルアセスメントとは 系統別フィジカルアセスメント；呼吸器系	講義 ポストテスト（2）	木下由理子	
8	9/13		3	系統別フィジカルアセスメント；循環器系	講義 ポストテスト（3）		
	9/20	1			講義 ポストテスト（3）		
9	9/13		4		系統別フィジカルアセスメント；腹部系/乳房・腋下		講義 ポストテスト（3）
	9/20	2					講義 ポストテスト（3）
10	9/26		4	系統別フィジカルアセスメント；神経系/筋・骨格系	講義 ポストテスト（3）		
	9/27	2			講義 ポストテスト（3）		
11	10/16		3		系統別フィジカルアセスメント；頭頸部と感覚系/外皮系		講義 ポストテスト（3）
	10/23	3					講義 ポストテスト（3）
12	10/16		4		〈シュミレーション〉 事例を用いて、必要なフィジカルアセスメントについて学ぶ（呼吸器・循環器）		GW 演習 発表
	10/23	4					GW 演習 発表
13	10/31	1	1	〈シュミレーション〉 事例を用いて、必要なフィジカルアセスメントについて学ぶ	GW 演習 発表		
12月6日（金）2限目				筆記試験・※技術試験 7/ 24 1組 1・2限目 2組 3・4限目			
<p>【準備学習内容】</p> <p>解剖生理学の学習を活用できるように復習しておきましょう。</p> <p>テキストによる事前学習をしっかりと行いましょう。テキスト学習を踏まえて授業は進んでいきます。</p> <p>重要な箇所にはマーカーする、ディスカッション時に活用できるようポイントをメモしておくなど工夫し自己学習しましょう。</p> <p>動画視聴：「わかる！できる！バイタルサイン測定」を授業前後に視聴、自己練習する際の確認で視聴するなど積極的に活用していきましょう。</p>							
<p>【使用するテキスト】</p> <p>茂野香おる著 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学 2 基礎看護技術 I 医学書院 2024</p> <p>熊谷たまき他監 看護がみえる③ フィジカルアセスメント メディックメディア 2023</p>							
<p>【参考文献】</p> <p>図書室には多数のフィジカルアセスメントに関する図書や看護雑誌がありますので自分に合うものを参考にしてください。</p>							
<p>【評価方法】</p> <p>授業終了時のポストテスト（30点）、技術試験（30点）、筆記試験（40点）</p> <p>神谷有規子：ポストテスト（10点）技術試験（30点）筆記試験（20点） ※技術試験 7/24 1組 1・2限目 2組 3・4限目</p> <p>木下由理子：ポストテスト（20点） 筆記試験（20点）</p> <p>チェックリストや技術の動画は、指定された日時までに提出してください。</p> <p>到達レベル 演習 I：身体計測、バイタルサイン測定、フィジカルアセスメント</p> <p>到達度の確認は、以下のいずれかで行う。詳細は別紙参照。</p> <p>演習中の技術確認、チェックリストを活用したグループ学習の自己評価と他者評価の提出、自己練習後の動画提出、対面による技術試験など</p>							
<p>【受講上の注意】</p> <p>看護技術は、演習のみで身につくものではありません。繰り返し練習することで対象に提供できる看護技術に到達するものです。</p> <p>事前学習や復習、自己練習を繰り返して技術を習得していきましょう。</p>							

科目 No.45

分野	専門分野	科目	基礎看護学：看護過程																													
必修・選択	必修	単位数 時間数（回数）	2 単位 30 時間（15 回）	配当時期	2 年前期																											
講師名	木下由理子	所属および実務経験	専任教員／看護師																													
<p>【科目のねらい】</p> <p>看護過程は、対象にとって必要な援助を判断し提供する際に必要となる思考過程です。ここでは看護過程を用いる意義や基本的プロセスについて理解したうえで、事例対象の反応をゴードンの機能的健康パターンを用いて分析することで、個別性のある看護実践につなげるための事前学習：個人で各パターンのアセスメント、不足情報の整理</p> <p>事後学習：個人でアセスメントの修正・追加 f c f x 思考過程を習得しましょう。対象を全人的にとらえ看護上の問題を見出し、健康増進・疾病の予防と回復・維持、安寧な死を迎えるなど様々な状況に応じた看護を考え、実践するための基礎的能力を身につけましょう。</p>																																
<p>【目的】対象を全人的にとらえ、個別性のある看護を実践するために看護過程を展開できる基礎的能力を養う。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護過程を用いることの意義を説明することができる。</li> <li>2. 看護過程を構成する要素とそのプロセスを述べることができる。</li> <li>3. ゴードンの機能的健康パターンに基づく枠組みを利用して、必要な情報を収集することができる。</li> <li>4. 11 パターンの分析の視点を踏まえ、知識や看護理論を活用しながら、情報の分析（正常か異常の判断、原因、成り行き）をすることができる。</li> <li>5. 関連図を作成し、対象の全体像を把握することができる。</li> <li>6. 対象の看護問題で、介入すべき・解決すべき優先順位を決定することができる。</li> <li>7. 看護問題に対して、目標設定し、対象の情報を活かした個別的な計画（安全・安楽性も踏まえる）を立案することができる。</li> <li>8. 計画立案の一部を実施することができる。</li> <li>9. 目標到達できたか評価し、到達できなかった場合はその原因を考察することができる。</li> <li>10. グループワークを通して主体的に学習する姿勢を身につけ、看護を考える楽しさを分かち合えることができる。</li> </ol>																																
<p>【DPとの関連】</p> <p>DP3 対象の反応から臨床判断し、健康レベルに応じた看護を科学的根拠に基づき実践することができる。</p> <p>DP4 対象のQOL（Quality Of Life：生活の質）向上を目指し、対象の持てる力を活かした看護や安心・安全な生活を支援する看護を実践することができる。</p> <p>DP5 多様な場で生活するあらゆる人々の健康に着目し、地域包括ケアシステム、チーム医療や多職種との連携・協働の視点を持ち看護を実践することができる。</p> <p>DP6 心身の健康管理能力及び社会人基礎力や情報活用能力を発展させ、看護の質の向上を目指し、自ら学び続ける姿勢を表現することができる。</p>																																
<p>【授業の流れ】（全体スケジュール・学習内容・方法等）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>日程</th> <th>1組</th> <th>2組</th> <th>学習内容</th> <th>方法</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>4/11</td> <td colspan="2">3</td> <td>看護とは 看護過程とは 科学的根拠に基づく看護実践のプロセス</td> <td rowspan="2">講義 演習 ポストテスト (5)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>4/11</td> <td colspan="2">4</td> <td>看護過程を展開する際に基盤となる考え方 問題解決思考 看護過程と看護理論</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>4/17</td> <td>1</td> <td>3</td> <td>アセスメントに活用できる看護理論について  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中範囲理論の概要</li> <li>・マズローの基本的欲求</li> <li>・セリエー ストレス適応理論</li> <li>・<b>危機理論</b></li> <li>・コーピングストレス</li> <li>・コンフォート(安楽)</li> <li>・<del>行動変容ステージモデル</del></li> <li>・<b>トランスセオレティカルモデル</b></li> <li>・エリクソンの発達論</li> </ul> </div> </td> <td rowspan="2">講義 演習 ポストテスト (5)</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>						回	日程	1組	2組	学習内容	方法	備考	1	4/11	3		看護とは 看護過程とは 科学的根拠に基づく看護実践のプロセス	講義 演習 ポストテスト (5)		2	4/11	4		看護過程を展開する際に基盤となる考え方 問題解決思考 看護過程と看護理論		3	4/17	1	3	アセスメントに活用できる看護理論について <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中範囲理論の概要</li> <li>・マズローの基本的欲求</li> <li>・セリエー ストレス適応理論</li> <li>・<b>危機理論</b></li> <li>・コーピングストレス</li> <li>・コンフォート(安楽)</li> <li>・<del>行動変容ステージモデル</del></li> <li>・<b>トランスセオレティカルモデル</b></li> <li>・エリクソンの発達論</li> </ul> </div>	講義 演習 ポストテスト (5)	
回	日程	1組	2組	学習内容	方法	備考																										
1	4/11	3		看護とは 看護過程とは 科学的根拠に基づく看護実践のプロセス	講義 演習 ポストテスト (5)																											
2	4/11	4		看護過程を展開する際に基盤となる考え方 問題解決思考 看護過程と看護理論																												
3	4/17	1	3	アセスメントに活用できる看護理論について <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中範囲理論の概要</li> <li>・マズローの基本的欲求</li> <li>・セリエー ストレス適応理論</li> <li>・<b>危機理論</b></li> <li>・コーピングストレス</li> <li>・コンフォート(安楽)</li> <li>・<del>行動変容ステージモデル</del></li> <li>・<b>トランスセオレティカルモデル</b></li> <li>・エリクソンの発達論</li> </ul> </div>	講義 演習 ポストテスト (5)																											

4	4/17	2	4	※ゴードンの機能的健康パターンの分類に基づき、紙上事例を用いて看護過程を展開する ・アセスメント（情報の収集と分析） ・全体像の把握（関連図） ・看護問題の明確化（看護診断） ・目標設定 ・看護計画の立案	講義 演習 ポストテスト (2) ×10	
5	4/23	1	3			
6	4/23	2	4			
7	4/30	1	3			
8	4/30	2	4			
9	5/14	1	3			
10	5/14	2	4			
11	5/21	3				
12	5/21	4				
13	6/7	2				
14	6/20		1	・実施	演習	
	6/26	1				
15	6/20		2	・評価 ・学習のまとめ	講義 演習	
	6/26	2				
				終了試験		
<b>【準備学習内容】</b> テキストによる事前学習をしっかりと行いましょう。テキスト学習を踏まえて授業は進んでいきます。 重要な箇所にはマーカーする、ディスカッション時に活用できるようポイントをメモしておくなど工夫し自己学習しましょう。 演習では事前課題を提示します。しっかりと準備して効果的な学習となるよう取り組みましょう。						
<b>【使用するテキスト】</b> 茂野香おる他著 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学(2) 基礎看護技術 I 医学書院 2024 リンダ J. カルペニート著 黒江ゆり子監 看護診断ハンドブック 第 12 版 医学書院 2023						
<b>【参考文献】</b> 渡邊トシ子編 ヘンダーソン・ゴードンの考えに基づく実践看護アセスメント ニューヴェルヒロカリ 2015 高木永子監 看護過程に沿った対象看護 病態生理と看護のポイント 第 5 版 学研 2018 矢田昭子編 基準看護計画 第 3 版 照林社 2016 江川隆子編 ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断 第 5 版 ニューヴェルヒロカリ 2016 石川ふみよ著 看護過程の解体新書 学研メディカル秀潤社 2015 黒田裕子監 看護診断のためのよくわかる中範囲理論 第 2 版 学研メディカル秀潤社 2018 任和子編 病期・発達段階の視点でみる疾患別看護過程 照林社						
<b>【評価方法】</b> 授業終了時のポストテスト（30点）、課題レポート（70点） 課題レポートは、指定された日時までに提出してください。指定日時までに提出されたものを評価の対象とします。 4回目以降は、講義終了後に基本毎回レポート提出になります。講義時間内にしっかりと記入できるように時間を有効に取り組みましょう。						
<b>【受講上の注意】</b> 事前学習や復習など自分で学習スケジュールを立て、計画的に行なっていきましょう。 演習の詳細は別途配布し説明します。						

科目 No.46

分野	専門分野	科目	領域横断：家族看護学																																																																				
必修・選択	必修	単位数 時間数（回数）	1 単位 16 時間（8 回）	配当時期	1 年全期																																																																		
講師名	藤木美春	所属および実務経験	専任教員/看護師																																																																				
<p>【科目のねらい】</p> <p>地域に根差した看護を担う看護職にとって、家族に着目することは非常に重要なことです。環境の変化に伴い、家族のありようは常に変化し、さらに個性が強いものです。家族の補完的機能やセルフケア能力で課題解決し家族は成長していきますが、家族を構成するメンバー（家族成員）の健康問題は家族にさまざまな影響を及ぼします。</p> <p>家族看護学を早期に学習するのは、家族全体を視野に入れて看護を考える視点を持つためです。家族論で学んだことを活かして家族への看護について様々なケースから学んでいきましょう。ここで学ぶは専門分野の各看護学において対象及び家族への看護を学ぶ基礎となるでしょう。</p>																																																																							
<p>【目的】家族看護の意義と家族機能を促進する看護を実践する基礎を理解し、専門分野の各看護学の基盤を養う。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 家族看護を学ぶ意義や看護職の役割を説明することができる。</li> <li>2. 家族を援助するときの基本姿勢について考察し具体的に表現することができる。</li> <li>3. 家族に変化をもたらすための介入について述べるすることができる。</li> <li>4. 事例演習を通して家族看護に関する気づきを表現することができる。</li> <li>5. 家族を単位とした根拠に基づく看護の重要性について考察することができる。</li> </ol>																																																																							
<p>【DPとの関連】</p> <p>DP1 人々の様々な価値観を尊重したコミュニケーションを図り、より良い人間関係を築くことができる。</p> <p>DP2 看護専門職の役割と責務を自覚し、倫理的判断に基づく、看護実践やリーダーシップを示すことができる。</p> <p>DP4 対象の QOL（Quality Of Life：生活の質）向上を目指し、対象の持てる力を活かした看護や安心・安全な生活を支援する看護を実践することができる。</p> <p>DP5 多様な場で生活するあらゆる人々の健康に着目し、地域包括ケアシステム、チーム医療や多職種との連携・協働の視点を持ち看護を実践することができる。</p>																																																																							
<p>【授業の流れ】（全体スケジュール・学習内容・方法等）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>日程</th> <th>1 組</th> <th>2 組</th> <th>学習内容</th> <th>方法</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>9/4</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>家族看護とは 身近な事例で家族への看護の意義を考えよう</td> <td>講義 演習 ポストテスト（5）</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>9/13</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>家族看護における看護職の役割と援助姿勢 家族看護を支える理論と介入法 家族発達理論、家族システム理論、家族ストレス対処理論、役割理論</td> <td>講義 ポストテスト （5）</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>10/4</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>家族看護展開の方法 家族看護、多職種連携、家族のアセスメントモデル</td> <td>講義 ポストテスト（5）</td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>10/8</td> <td>2</td> <td>2</td> <td rowspan="3">事例演習： 乳児の家族への看護 高齢者介護を行っている家族への看護 急性期・慢性期・終末期にある患者の家族への看護</td> <td rowspan="3">演習</td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>10/30</td> <td>3</td> <td>4</td> <td></td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>11/6</td> <td>1</td> <td>1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>11/6</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>各事例への家族看護</td> <td>演習</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>11/7</td> <td>2</td> <td>1</td> <td>発表と共有</td> <td>講義 ポストテスト（5）</td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="2">11月14日（木）2 限目</td> <td colspan="2"></td> <td>筆記試験</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>						回	日程	1 組	2 組	学習内容	方法	備考	1	9/4	1	1	家族看護とは 身近な事例で家族への看護の意義を考えよう	講義 演習 ポストテスト（5）		2	9/13	2	2	家族看護における看護職の役割と援助姿勢 家族看護を支える理論と介入法 家族発達理論、家族システム理論、家族ストレス対処理論、役割理論	講義 ポストテスト （5）		3	10/4	2	2	家族看護展開の方法 家族看護、多職種連携、家族のアセスメントモデル	講義 ポストテスト（5）		4	10/8	2	2	事例演習： 乳児の家族への看護 高齢者介護を行っている家族への看護 急性期・慢性期・終末期にある患者の家族への看護	演習		5	10/30	3	4		6	11/6	1	1		7	11/6	2	2	各事例への家族看護	演習		8	11/7	2	1	発表と共有	講義 ポストテスト（5）		11月14日（木）2 限目				筆記試験		
回	日程	1 組	2 組	学習内容	方法	備考																																																																	
1	9/4	1	1	家族看護とは 身近な事例で家族への看護の意義を考えよう	講義 演習 ポストテスト（5）																																																																		
2	9/13	2	2	家族看護における看護職の役割と援助姿勢 家族看護を支える理論と介入法 家族発達理論、家族システム理論、家族ストレス対処理論、役割理論	講義 ポストテスト （5）																																																																		
3	10/4	2	2	家族看護展開の方法 家族看護、多職種連携、家族のアセスメントモデル	講義 ポストテスト（5）																																																																		
4	10/8	2	2	事例演習： 乳児の家族への看護 高齢者介護を行っている家族への看護 急性期・慢性期・終末期にある患者の家族への看護	演習																																																																		
5	10/30	3	4																																																																				
6	11/6	1	1																																																																				
7	11/6	2	2	各事例への家族看護	演習																																																																		
8	11/7	2	1	発表と共有	講義 ポストテスト（5）																																																																		
11月14日（木）2 限目				筆記試験																																																																			
<p>【準備学習内容】</p> <p>テキストによる事前学習をしっかりと行いましょう。テキスト学習を踏まえて授業は進んでいきます。</p> <p>重要な箇所にはマーカーする、ディスカッション時に活用できるようポイントをメモしておくなど工夫し自己学習しましょう。</p> <p>基礎分野の家族論で学習した内容が家族看護学の土台となります。しっかりと復習しておきましょう。</p>																																																																							

<p>課題レポート：夏季休暇中にみなさんの家族に「大切な家族が病気になった時、家族は看護師にどのように看護してほしいか、家族にどのように関わってほしいか、それはなぜか」などインタビューした上で、1 回目までに「看護の対象に家族を含む理由について」、インタビュー内容の要約及び自分の考えを事前にレポートにまとめて持参してください。</p> <p>2 回目までに「家族を援助するときの基本姿勢」について自分の考えを事前にレポートにまとめ持参してください。</p> <p>課題レポートはグループディスカッションで活用していきます。課題レポートは授業終了後、提出となります。</p>
<p>【使用するテキスト】</p> <p>上別府圭子著 系統看護学講座 別巻 家族看護学 医学書院 2024</p>
<p>【参考文献】</p> <p>鈴木和子他著 家族看護学 理論と実践 第 5 版 日本看護協会出版会 2019</p> <p>谷津裕子他 監修 看護がみえる vol.5 対象の理解 1 第 1 版 メディックメディア 2023</p>
<p>【評価方法】</p> <p>授業終了時のポストテスト（20 点）、課題レポートを含む演習への取り組み（40 点）、筆記試験（40 点）</p> <p>課題レポートは指定された日時までに提出してください。指定日時までに提出されたものを評価の対象とします。</p>
<p>【受講上の注意】</p> <p>16 時間科目です。つまり自己学習が 29 時間となります。事前学習や復習など自分で学習スケジュールを立て、計画的に行っていきましょう。</p> <p>自己学習時間を活用して、グループで協力しながら事例演習を行っていきましょう。</p>

科目 No.47

分野	専門分野	科目	領域横断：対象理解と健康生活への支援			
必修・選択	必修	単位数 時間数（回数）	1 単位 30 時間（15 回）	配当時期	1 年後期	
講師名	森下美香	所属および実務経験	専任教員／看護師			
<p>【科目のねらい】</p> <p>看護の対象である人間を、ライフステージ各期の成長発達の側面から理解し、対象の特性に応じた国の施策や各発達段階に応じた学習支援について学んでいく科目です。</p> <p>特に 8 回目以降は事前課題をもとにした反転授業を行い、演習を通して各発達段階における健康生活への支援を皆でディスカッションすることで、様々な考えに触れ視野を広げる機会にしていきたいと思います。</p>						
<p>【目的】健康支援の基本的考え方や対象の特性に応じた健康生活への支援や健康増進への看護の基礎を理解し、専門分野の各看護学の基盤を養う。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 健康の概念を説明することができる。</li> <li>2. 健康への学習支援の意義を説明することができる。</li> <li>3. ライフステージの成長発達の特徴を具体的に述べるができる。</li> <li>4. 健康を守る法律や施策の概要を列記することができる。</li> <li>5. 発達的特徴を踏まえて健康課題への学習支援について考察することができる。</li> </ol>						
<p>【DPとの関連】</p> <p>DP1 人々の様々な価値観を尊重したコミュニケーションを図り、より良い人間関係を築くことができる。</p> <p>DP2 看護専門職の役割と責務を自覚し、倫理的判断に基づく、看護実践やリーダーシップを示すことができる。</p> <p>DP4 対象の QOL（Quality Of Life：生活の質）向上を目指し、対象の持てる力を活かした看護や安心・安全な生活を支援する看護を実践することができる。</p> <p>DP5 多様な場で生活するあらゆる人々の健康に着目し、地域包括ケアシステム、チーム医療や多職種との連携・協働の視点を持ち看護を実践することができる。</p>						
<p>【授業の流れ】（全体スケジュール・学習内容・方法等）</p>						
回	日程	1 組	2 組	学習内容	方法	備考
1	11/20	4	4	健康とは 健康支援に関わる意義 教育・指導・学習支援とは ICT を活用した保健指導	講義 演習 ポストテスト（3）	
2	11/27	1	1	ライフステージの成長発達と健康課題 発達理論（フロイト・ピアジェ・ハヴィグアースト・エリクソン）	講義 演習 ポストテスト（3）× 2	
3	11/27	2	2			
4	12/3	1	1	健康支援の基礎理論 ヘルスピラーフモデル、ヘルスプロモーション、成功体験モデル、 ウェルネス、アンドラゴジー、 コンプライアンスとアドヒアランスなど	講義 演習 ポストテスト（3）× 2	
5	12/3	2	2			
6	12/11	1	1	ライフステージ各期の健康を守る法律と施策	講義 演習 ポストテスト（3）	
7	12/11	2	2		ポストテスト（2）	
8	1/28	1	1	親になる人・乳児期・幼児期・学童期・青年期・成人期・老年期の健康課題と支援	事前課題 講義 演習	
9	1/28	2	2			
10	2/6	1	1			
11	2/6	2	2			
12	2/10	2	2			
13	2/13	1	1	事例演習	演習	
14	2/13	2	2	母性・小児・成人・老年の事例を通して健康増進に向けた学習支援について考える		
15	2/17	3	2	演習の成果をロールプレイ等で発表し共有する		

2月25日(火)1限目	筆記試験		
<p><b>【準備学習内容】</b></p> <p>テキストによる事前学習をしっかりと行いましょう。テキスト学習を踏まえて授業は進んでいきます。</p> <p>重要な箇所にはマーカーする、ディスカッション時に活用できるようポイントをメモしておくなど工夫し自己学習しましょう。</p> <p>7回目までに『健康生活に向けた支援として行動変容を促す方法』について、レポートにまとめて下さい。課題レポートは7日目授業終了時に提出となります。</p> <p>学習支援に関しては、教育学の学びが活用できます。</p> <p>8回目以降は授業前の演習課題が提示されます。しっかり取り組み授業の演習に活かしていきましょう。</p> <p>講義・演習では、事前課題や事後課題を提示します。しっかり準備して効果的な学習となるよう取り組みましょう。</p> <p>動画視聴：「目で見ることの保健」「目で見るとの老年看護」を視聴し、健康生活への支援に対する自己学習に役立てましょう。</p>			
<p><b>【使用するテキスト】</b></p> <p>安藤雄一他監 公衆衛生がみえる メディックメディア 2023-2024</p> <p>茂野香おる著 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学1 看護学概論 医学書院 2024</p> <p>茂野香おる著 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学2 基礎看護技術I 医学書院 2024</p> <p>香春知永著 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学4 臨床看護総論 医学書院 2024</p>			
<p><b>【参考文献】</b></p> <p>舟島なをみ他著 看護のための人間発達学 第5版 医学書院 2017</p> <p>服部祥子著 生涯人間発達 人間への深い理解と愛情を育むために 第3版 医学書院 2020</p> <p>谷津裕子他 監修 看護がみえる vol.5 対象の理解1 第1版 メディックメディア 2023</p>			
<p><b>【評価方法】</b></p> <p>授業終了時のポストテスト(20点)、課題レポート及び演習への取り組み・成果(30点)、筆記試験(50点)</p> <p>課題レポート、事前課題は指定された日時までに提出してください。</p> <p>指定日時までに提出されたものを評価の対象とします。</p>			
<p><b>【受講上の注意】</b></p> <p>法律や施策など難しいと感じやすいですが、分からない言葉は調べる、繰り返しの反復学習する、などの自己学習行動により理解につながります。</p> <p>事前学習や復習など自分で学習スケジュールを立て、計画的に行っていきましょう。</p>			

科目 No.48

分野	専門分野	科目	領域横断：健康レベルに応じた看護Ⅰ（急性期・回復期）			
必修・選択	必修	単位数 時間数（回数）	1単位 30時間（15回）	配当時期	1年後期	
講師名	クレスボ亜沙美	所属および実務経験	専任教員／看護師			
	上野ふじ美		専任教員／看護師			
	飽田みのり		九州中央病院 副看護師長			
	小川絵里子		九州中央病院 看護副師長			
	角健太郎		藤崎うら泌尿器科皮膚科/看護師			
<p>【科目のねらい】</p> <p>看護実践において、病気や治療の影響、機能障害や主要症状を踏まえて看護を考えることと合わせて、対象の健康レベルの特徴を踏まえて看護を考えていくことは重要です。なぜならば、対象の健康レベルは常に変動しており、その変化の特徴に適した看護が求められるからです。</p> <p>ここでは、健康レベル（急性期・回復期）の特徴とその時期に必要な看護の視点を学んでいきます。対象の発達の特徴と健康レベル（急性期・回復期）の特徴を踏まえて看護を考える基盤を養う機会にしていきましょう。</p>						
<p>【目的】様々な発達段階にある対象の特徴を踏まえ健康レベル（急性期・回復期）に応じた看護の基礎を理解し、専門分野の各看護学の基盤を養う。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>健康問題を持つ対象の特性を理解し、各発達段階の特性を踏まえた急性期・回復期の看護について述べることができる。</li> <li>演習を通して急性期・回復期にある対象とその家族への看護を個人及びグループで考え実施することができる。</li> <li>急性期・回復期にある対象の看護を通して地域包括ケアシステムにおける連携の重要性について述べるができる。</li> <li>リーダーシップ・メンバーシップを発揮し、主体的に演習に取り組むことができる。</li> </ol>						
<p>【DPとの関連】</p> <p>DP3 対象の反応から臨床判断し、健康レベルに応じた看護を科学的根拠に基づき実践することができる。</p> <p>DP4 対象の QOL（Quality Of Life：生活の質）向上を目指し、対象の持てる力を活かした看護や安心・安全な生活を支援する看護を実践することができる。</p> <p>DP5 多様な場で生活するあらゆる人々の健康に着目し、地域包括ケアシステム、チーム医療や多職種との連携・協働の視点を持ち看護を実践することができる。</p>						
【授業の流れ】（全体スケジュール・学習内容・方法等）						
回	日程	1組	2組	学習内容	方法	備考
1	12/23	1	1	健康問題を持つ人の看護の基本的な考え方 健康問題を持つ対象理解の基盤となる有用な理論 健康レベル別看護の視点	講義 演習 ポストテスト（5）	クレスボ亜沙美
2	12/23	2	2	急性期にある対象とその家族の心理的特徴	講義 演習 ポストテスト（3）	飽田みのり
3	12/24	3	3	急性期にある子どもとその家族の特徴と看護 事例演習Ⅰ：窒息・誤飲	課題レポート（5） ポストテスト（3）	上野ふじ美
4	12/24	4	4			
5	1/8	3	3	急性期にある成人とその家族の特徴と看護 事例演習Ⅱ：くも膜下出血	課題レポート（5） ポストテスト（3）	小川絵里子
6	1/8	4	4		ポストテスト（3）	
7	1/29	3	3	急性期にある高齢者とその家族の特徴と看護 事例演習Ⅲ：心不全	課題レポート（5） ポストテスト（3）	
8	1/29	4	4		ポストテスト（3）	
9	1/30	3	3	回復期（リハビリテーション期）にある対象とその家族の心理的特徴	講義 演習 ポストテスト（3）	角健太郎
10	2/6	3	3	回復期（リハビリテーション期）にある子どもとその家族の特徴と看護 事例演習Ⅳ：骨折	課題レポート（5） 講義 演習 ポストテスト（3）	
11	2/6	4	4			
12	2/13	3	3	回復期（リハビリテーション期）にある成人とその家族の特徴と看護	講義 演習	

13	2/13	4	4	事例演習 V：事故による下肢切断	課題レポート (5) ポストテスト (3)	角健太郎
14	2/20	3	3	回復期(リハビリテーション期)にある高齢者とその家族の特徴と看護	課題レポート (5)	
15	2/20	4	4	事例演習 VI：心不全	ポストテスト (3)	
2月28日(金)1限目				筆記試験		
<p>【準備学習内容】</p> <p>テキストによる事前学習をしっかりと行いましょう。テキスト学習を踏まえて授業は進んでいきます。</p> <p>重要な箇所にはマーカーする、ディスカッション時に活用できるようポイントをメモしておくなど工夫し自己学習しましょう。</p> <p>3回目～15回目までは、事例演習 I～VIがあります。演習までに、事例の健康障害があり、発達段階にある対象の特性を踏まえ、健康レベル（急性期・回復期）に応じた看護（対象とその家族）について調べ学習を行ない、事前にレポートにまとめておきましょう。課題レポートは、各事例演習の開始前に提出となります。</p>						
<p>【使用するテキスト】</p> <p>香春知永他著 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学 4 臨床看護総論 医学書院 2024</p>						
<p>【参考文献】</p> <p>川島みどり他監 臨床看護学 2 経過別看護 第2版 メヂカルフレンド社 2011</p> <p>疾病と治療のテキスト：系統看護学講座 専門分野 成人看護学 医学書院 2024</p>						
<p>【評価方法】</p> <p>授業終了時のポストテスト (35点)、課題レポートを含む演習への取り組み・成果 (30点)、筆記試験 (35点)</p> <p>久保 亜沙美：ポストテスト (5点)</p> <p>飽田みのり：ポストテスト (3点)</p> <p>上野ふじ美：ポストテスト (3点) 課題レポートを含む演習への取り組み・成果 (5点) 筆記試験 (5点)</p> <p>小川絵里子：ポストテスト (12点) 課題レポートを含む演習への取り組み・成果 (10点) 筆記試験 (10点)</p> <p>角 健太郎：ポストテスト (12点) 課題レポートを含む演習への取り組み・成果 (15点) 筆記試験 (20点)</p> <p>課題レポートは指定された日時までに提出してください。指定日時までに提出されたものを評価の対象とします。</p>						
<p>【受講上の注意】</p> <p>事前学習や復習など自分で学習スケジュールを立て、計画的に行っていきましょう。</p>						

科目 No.49

分野	専門分野	科目	領域横断：健康レベルに応じた看護Ⅱ（慢性期・終末期）			
必修・選択	必修	単位数 時間数（回数）	1 単位 30 時間（15 回）	配当時期	1 年後期	
講師名	浜谷千枝子	所属および実務経験	白十字病院 課長／がん看護専門看護師			
	上野ふじ美		専任教員/看護師			
	三宅ひとみ		九州中央病院／緩和ケア認定看護師			
【科目のねらい】						
<p>看護実践において、病気や治療の影響、機能障害や主要症状を踏まえて看護を考えると合わせて、対象の健康レベルの特徴を踏まえて看護を考えていくことは重要です。なぜならば、対象の健康レベルは常に変動しており、その変化の特徴に適した看護が求められるからです。</p> <p>ここでは、健康レベル（慢性期・終末期）の特徴とその時期に必要な看護の視点を学んでいきます。対象の発達の特徴と健康レベル（慢性期・終末期）の特徴を踏まえて看護を考える基盤を養う機会にしていきたいと思います。</p>						
【目的】様々な発達段階にある対象の特徴を踏まえ健康レベル（慢性期・終末期）に応じた看護の基礎を理解し、専門分野の各看護学の基盤を養う。						
【到達目標】						
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 健康問題を持つ対象の特性を理解し、各発達段階の特性を踏まえた慢性期・終末期の看護について述べることができる。</li> <li>2. 演習を通して慢性期・終末期にある対象とその家族への看護を個人及びグループで考え実施することができる。</li> <li>3. 様々な場で療養する慢性期・終末期にある対象への看護を通して、その人らしく生きることを支える看護について自分の考えを述べることができる。</li> <li>4. リーダーシップ・メンバーシップを発揮し、主体的に演習に取り組むことができる。</li> </ol>						
【DPとの関連】						
<p>DP3 対象の反応から臨床判断し、健康レベルに応じた看護を科学的根拠に基づき実践することができる。</p> <p>DP4 対象の QOL（Quality Of Life：生活の質）向上を目指し、対象の持てる力を活かした看護や安心・安全な生活を支援する看護を実践することができる。</p> <p>DP5 多様な場で生活するあらゆる人々の健康に着目し、地域包括ケアシステム、チーム医療や多職種との連携・協働の視点を持ち看護を実践することができる。</p>						
【授業の流れ】（全体スケジュール・学習内容・方法等）						
回	日程	1 組	2 組	学習内容	方法	備考
1	1/30	4	4	慢性期にある対象とその家族の心理的特徴	講義 演習 *ポストテスト（3） × 4 回 （1,3,5,7 回） *課題レポート（5） × 3 回 （2,4,6 回）	浜谷千枝子
2	2/5	3	3	慢性期にある子どもとその家族の特徴と看護		
3	2/5	4	4	事例演習Ⅰ：気管支喘息		
4	2/12	3	3	慢性期にある成人とその家族の特徴と看護		
5	2/12	4	4	事例演習Ⅱ：慢性腎不全		
6	2/19	3	3	慢性期にある高齢者とその家族の特徴と看護		
7	2/19	4	4	事例演習Ⅲ：前立腺がん		
8	1/31	4	4	終末期にある対象とその家族の心理的特徴 安楽の促進・苦痛の緩和のためのケア、精神的安寧を保つためのケア	講義 演習 ポストテスト（3）	三宅ひとみ
9	2/4	1	1	終末期にある子どもとその家族の特徴と看護 事例演習Ⅳ：小児がん	講義 演習 課題レポート（5） ポストテスト（3）× 2	上野ふじ美
10	2/4	2	2			
11	2/7	3	3	終末期にある成人とその家族の特徴と看護 事例演習Ⅴ：膵臓がん	講義 演習 課題レポート（5） ポストテスト（3）	三宅ひとみ
12	2/7	4	4			
13	2/14	3	3	終末期にある高齢者とその家族の特徴と看護 事例演習Ⅵ：肺がん		
14	2/14	4	4		ポストテスト（3）	
15	2/28	3	4	エンゼルケアの実際	ポストテスト（3）	
3月5日（水）1 限目				筆記試験		

**【準備学習内容】**

テキストによる事前学習をしっかりと行いましょう。テキスト学習を踏まえて授業は進んでいきます。

重要な箇所にはマーカーする、ディスカッション時に活用できるようポイントをメモしておくなど工夫し自己学習しましょう。

2回目～14回目までは、事例演習Ⅰ～Ⅵがあります。演習までに、事例の健康障害があり、発達段階にある対象の特性を踏まえ、健康レベル（慢性期・終末期）に応じた看護（対象とその家族）について調べ学習を行ない、事前にレポートにまとめておきましょう。課題レポートは、各事例演習の開始前に提出となります。15回目の「エンゼルケアの実際」は、基礎看護技術Ⅱ 第13章です。

**【使用するテキスト】**

香春知永他著 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学 4 臨床看護総論 医学書院 2024

任和子他著 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学 3 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 2024

**【参考文献】**

川島みどり他監 臨床看護学 2 経過別看護 第2版 メヂカルフレンド社 2011

疾病と治療のテキスト：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 医学書院 2023

**【評価方法】**

授業終了時のポストテスト（30点）、課題レポートを含む演習への取り組み・成果（30点）、筆記試験（40点）

浜谷千枝子：ポストテスト（12点）課題レポートを含む演習への取り組み・成果（15点）筆記試験（20点）

上野ふじ美：ポストテスト（6点）課題レポートを含む演習への取り組み・成果（5点）筆記試験（5点）

三宅ひとみ：ポストテスト（12点）課題レポートを含む演習への取り組み・成果（10点）筆記試験（15点）

課題レポートは指定された日時までに提出してください。指定日時までに提出されたものを評価の対象とします。

**【受講上の注意】**

事前学習や復習など自分で学習スケジュールを立て、計画的に行っていきましょう。

科目 No.50

分野	専門分野	科目	領域横断：周手術期と看護			
必修・選択	必修	単位数 時間数（回数）	1 単位 30 時間（15 回）	配当時期	2 年前期	
講師名	出嶋愛	所属および実務経験	こども病院／手術看護認定看護師			
	沼田芳瑛		九州中央病院 /副看護師長			
	武田加奈子		九州中央病院 /看護師長			
	船津丸実紀		浜の町病院 /看護師			
	角健太郎		藤崎うら泌尿器皮膚科/看護師			
【科目のねらい】						
<p>手術は生体への侵襲を伴う治療法で、その侵襲に対して人は脆弱であり、痛みを感じ、意欲が停滞し、不安や恐怖を抱く辛い体験をします。周手術期の看護では、手術侵襲の程度・侵襲に対する耐性・侵襲からの回復力などから総合的にアセスメントし、その人の持つ回復力をいかに引き出せるかが重要です。また、回復を促進するためには、根拠を踏まえた予測と予防の観点も重要となります。</p> <p>ここでは手術による影響が最小限で早期に回復できるよう支援することについて学び、対象の特徴を踏まえた周手術期の看護の基礎を身につけていきましょう。</p>						
【目的】周手術期における生体反応と看護、及び対象の特徴を踏まえた早期回復への支援についての基礎を理解し、専門分野の各看護学の基盤を養う。						
【到達目標】						
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 手術療法や集中治療を受ける対象とその家族への看護の役割について述べるができる。</li> <li>2. 周手術期にある対象の心理的特徴や精神的苦痛と精神的援助の視点を述べるができる。</li> <li>3. 侵襲に伴う生体反応を列記することができる。</li> <li>4. 術後に起こりうる合併症の理解を踏まえて、合併症予防の看護について説明することができる。</li> <li>5. 根拠を踏まえて術後ベッドを作成することができる。</li> <li>6. 術後、回復過程にある対象や家族への生活の援助について説明することができる。</li> <li>7. 対象の特徴を踏まえた周手術期の看護のポイントを考察することができる。</li> </ol>						
【DP との関連】						
DP2 看護専門職の役割と責務を自覚し、倫理的判断に基づく、看護実践やリーダーシップを示すことができる。						
DP3 対象の反応から臨床判断し、健康レベルに応じた看護を科学的根拠に基づき実践することができる。						
DP4 対象の QOL（Quality Of Life：生活の質）向上を目指し、対象の持てる力を活かした看護や安心・安全な生活を支援する看護を実践することができる。						
DP5 多様な場で生活するあらゆる人々の健康に着目し、地域包括ケアシステム、チーム医療や多職種との連携・協働の視点を持ち看護を実践することができる。						
【授業の流れ】（全体スケジュール・学習内容・方法等）						
回	日程	1組	2組	学習内容	方法	備考
1	4/4	3		周手術期の看護の概要と看護師の役割 1. 周手術期の看護 2. 周手術期にある患者の特徴 3. チーム医療と看護師の役割 4. インフォームドコンセント 5. 安全管理	講義 ポストテスト（3）	角健太郎
2	4/4	4		手術前・中・後における対象の心理的变化 1. フィンクの危機モデル 2. アギュラとメズイックの問題解決型危機モデル 3. ボディイメージ 4. 障害の受容過程	講義 演習 ポストテスト（3） 課題レポート（5）	
3	4/18	3		手術侵襲と生体の反応 1. サイトカインの作用とホルモン作動 2. ムーアの回復過程の分類	講義 ポストテスト（3）	
4	4/18	4		麻酔による侵襲 1. 麻酔とは 2. 全身麻酔と局所麻酔及び合併症 3. 術後合併症	講義 ポストテスト（3）	
5	4/24	3		手術前における対象の看護 1. 外来看護師の役割（手術前の患者の看護） 2. 術前オリエンテーションと不安の緩和 3. 術後合併症のリスクアセスメント 4. 術前指導と術前訪問	講義	沼田芳瑛

6	4/24	4	手術中における対象の看護① 1. 手術室の安全管理 2. 入室前・入室時・麻酔導入時の看護 3. 手術中の看護 4. 手術終了時・麻酔覚醒時の看護 5. 病棟への引継ぎ	講義 ポストテスト(3)	沼田芳瑛
7	5/8	4	手術中における対象の看護② 1. 環境管理（感染予防・環境の浄化・機械類の安全管理と滅菌、消毒） 2. 感染予防 手術時の手洗い・手指消毒・ガウンテクニック	講義・演習 課題レポート(5)	
8	5/16	3	手術後における対象の看護① 1. 術後の回復を促進するための看護 2. 術後合併症の予防と発生時の対応 3. 創傷治癒の看護 4. 自己管理に向けた援助：セルフケアの再構築	講義 ポストテスト(3)	武田加奈子
9	5/16	4	手術後における対象の看護② 1. 創傷処置の実際（創傷処置・ドレーンの管理） 2. 術後環境整備の実際（術後ベッドの作成）	演習 課題レポート(10)	
10	5/22	3	集中治療を受ける患者の看護 1. 集中治療・看護とは 2. 集中治療を受ける患者・家族の特徴と看護	講義・演習 ポストテスト(3) 11回目	
11	5/22	4	3. 人工呼吸器装着中の看護		
12	5/30	3	手術を受ける高齢者の看護 1. 高齢者の外科的治療 2. 高齢者の周手術期の看護 3. 手術前の看護	講義 演習 ポストテスト(3) 13回目	
13	5/30	4	4. 手術後の看護（手術が高齢者に与える影響・合併症予防と発症時に看護） 5. 退院に向けての援助		
14	5/31	3	手術を受ける子どもと家族の看護 1. 小児の外科的治療 2. 小児の周手術期の看護 3. 手術前の看護 4. 手術後の看護 5. 家族に対する援助・指導	講義 ポストテスト(6)	出嶋愛
15	5/31	4	手術を受ける性・生殖機能障害のある対象の看護 1. 性と生殖機能障害のある対象の特性 2. 症状とその病態に対する看護 3. 主な疾患（子宮がん・卵巣がんなど）とその看護  まとめ	講義 ポストテスト(5)	船津丸美紀
6月7日(金) 1限目			終了試験		
<p>【準備学習内容】</p> <p>既習科目である解剖生理学、疾病と治療、薬理学の知識を前提として授業が進みます。授業範囲の予習復習をして臨みましょう。</p> <p>講義・演習では、事前課題・事後課題を提示します。しっかり準備して効果的な学習となるよう取り組みましょう。</p> <p>動画視聴：「目で見る周術期看護の基礎知識」：このシリーズの動画は授業前後の自己学習に活用してください。</p>					
<p>【使用するテキスト】</p> <p>矢永勝彦他編 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 医学書院 2024</p> <p>北島政樹他編 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論 医学書院 2024</p> <p>末岡浩他著 系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [9] 女性生殖器 医学書院 2024</p>					
<p>【参考文献】</p> <p>中島恵美子他編 ナーシング・グラフィカ 成人看護学④ 周術期看護 メディカ出版 2024</p> <p>川島みどり他監修 臨床看護学 2 経過別看護 第2版 メチカルフレンド社 2011</p> <p>谷津裕子他 監修 看護がみえる vol.5 対象の理解 1 第1版 メディックメディア 2023</p>					
<p>【評価方法】</p> <p>授業終了時のポストテスト（35点）、課題レポートを含む演習への取り組み・成果（20点）、筆記試験（45点）</p> <p>角 健太郎先生：ポストテスト（12点）、課題レポートを含む演習への取り組み・成果（5点）、筆記試験（15点）</p> <p>沼田芳瑛先生：ポストテスト（3点）、課題レポートを含む演習への取り組み・成果（5点）、筆記試験（10点）</p> <p>武田加奈子先生：ポストテスト（9点）、課題レポートを含む演習への取り組み・成果（10点）、筆記試験（20点）</p> <p>出嶋愛先生：ポストテスト（6点） 船津丸美紀先生：ポストテスト（5点）</p>					

課題レポートは指定された日時までに提出してください。指定日時までに提出されたものを評価の対象とします。

**【受講上の注意】**

事前学習や復習など自分で学習スケジュールを立て、計画的に行っていきましょう。

科目 No.51

分野	専門分野	科目	領域横断：薬物療法と看護			
必修・選択	必修	単位数 時間数（回数）	1 単位 30 時間（15 回）	配当時期	2 年前期	
講師名	森下美香	所属および実務経験	専任教員／看護師			
<p>【科目のねらい】</p> <p>看護師のヒヤリハット事象の最多数は「誤薬」です。ここでは薬理学と基礎看護技術Ⅳ（与薬）の学びを活かし、看護実践に役立つ知識・技術として統合することで、薬物治療における看護職の役割認識や臨床看護実践の基盤を養う機会にしていきたいと思います。</p>						
<p>【目的】薬物療法における看護職の役割を認識し、専門分野の各看護学における臨床看護実践の基盤を養う。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 薬物療法における看護職の役割を列記することができる。</li> <li>2. 薬品の体内動態と相互作用について説明することができる。</li> <li>3. 薬物療法における対象のコンプライアンスとアドヒアランスの重要性について説明することができる。</li> <li>4. 対症療法薬と看護について説明することができる。</li> <li>5. 主要疾患の薬物療法と看護について説明することができる。</li> <li>6. 薬物療法の安全管理や Medikation エラーを踏まえ、与薬における看護の機能について説明することができる。</li> <li>7. リーダーシップ・メンバーシップを発揮し、主体的に演習に取り組むことができる。</li> </ol>						
<p>【DP との関連】</p> <p>DP2 看護専門職の役割と責務を自覚し、倫理的判断に基づく、看護実践やリーダーシップを示すことができる。</p> <p>DP3 対象の反応から臨床判断し、健康レベルに応じた看護を科学的根拠に基づき実践することができる。</p> <p>DP4 対象の QOL（Quality Of Life：生活の質）向上を目指し、対象の持てる力を活かした看護や安心・安全な生活を支援する看護を実践することができる。</p> <p>DP5 多様な場で生活するあらゆる人々の健康に着目し、地域包括ケアシステム、チーム医療や多職種との連携・協働の視点を持ち看護を実践することができる。</p>						
【授業の流れ】（全体スケジュール・学習内容・方法等）						
回	日程	1 組	2 組	学習内容	方法	備考
1	5/8	3		薬物療法における看護師の役割 薬物療法と看護の基礎知識 医薬品の取り扱い	講義・演習 ポスター（各 4） 1.2.3 回	
2	5/13	1		麻薬毒薬劇薬及び抗悪性腫瘍薬の管理 人体へのリスクが大きい薬剤の曝露予防		
3	5/13	2		薬物治療の実際 対象の発達の特徴や場に応じた看護のポイント		
4	5/29	1		事例演習 1 対症療法薬と看護（病態と分類・薬物療法の基本・看護師の役割）	講義・演習 ポスター（各 4） 5.6 回 課題レポート 6 回	グループ学習を行う。メンバーシップを図りながら主体的に演習に取り組んでいきます。
5	5/29	2		輸血用血液製剤の取り扱い		
6	6/6	2	1	まとめの発表と共有		
7	6/6	3		事例演習 2	講義・演習 （ロールプレイ） ポスター（各 4） 7.8.12 回  課題レポート 12 回	
8	6/10	3		主要疾患の薬物療法と看護		
9	6/10	4		（病態と症状・薬物療法の基本・看護師の役割・指導案作成など）		
10	6/18		1	簡易血糖測定、インスリン、抗生物質		
	6/20	1				
11	6/18		2	まとめの発表と共有		
	6/20	2				
12	6/27	1	2			
13	6/27	3		専門職連携協働（IPW）：薬剤師との協同学習	演習 ポスター（4 点） 14 回	専門職連携教育（IPE）
14	6/27	4		「高齢者の服薬の自己管理 薬剤師と看護師の連携」		
15	7/1	1		薬物療法における安全管理・ Medikation エラーについて	講義 ポスター（4 点）	

			15回
7月11日(木) 1限目	終了試験		
<p><b>【準備学習内容】</b></p> <p>薬理学や基礎看護技術Ⅳ（与薬）の学習を活用できるように復習しておきましょう。</p> <p>テキストによる事前学習をしっかりと行いましょう。テキスト学習を踏まえて授業は進んでいきます。</p> <p>重要な箇所にはマーカーする、ディスカッション時に活用できるようポイントをメモしておくなど工夫し自己学習しましょう。</p> <p>13～14 回目は専門職連携について、学びます。事前に事例を提示します。看護の視点を持ち、テーマに対して思考し、グループの見解をまとめ、レポートしたものを持参してください。</p> <p>動画視聴：薬の基礎知識 Vol.1 薬とは Vol. 2～5 主な疾患と薬(1)～(4)の動画を視聴しておきましょう。授業前後の自己学習に活用してください。</p>			
<p><b>【使用するテキスト】</b></p> <p>井上智子他編 系統看護学講座 別巻 臨床薬理学 医学書院 2024</p> <p>吉岡充弘他著 系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進 [3] 薬理学 医学書院 2024</p> <p>任和子他著 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 2024</p> <p>近藤一郎他監 看護がみえる② 臨床看護技術 メディックメディア 2022</p>			
<p><b>【参考文献】</b></p> <p>島田和幸他編 今日の治療薬 解説と便覧 南江堂 2022</p> <p>医療情報科学研修所編 薬がみえる No1～No4 メディックメディア 最新出版年</p>			
<p><b>【評価方法】</b></p> <p>授業終了時のポストテスト（40点）、課題レポートを含む演習への取り組み・成果（20点）、筆記試験（40点）</p> <p>6回目終了後、対症療法における看護師の役割についてレポート提出し。12回目終了後、疾患に応じた薬物療法の指導案の提出。</p> <p>課題レポートは指定された日時までに提出してください。指定日時までに提出されたものを評価の対象とします。</p>			
<p><b>【受講上の注意】</b></p> <p>分からない言葉は調べて繰り返し反復学習するなどの自己学習行動により理解につながります。</p> <p>グループ学習が効果的となるためにメンバーで円滑なコミュニケーションを図りながら取り組んでいきましょう。</p> <p>事前学習や復習など自分で学習スケジュールを立て、計画的に行っていきましょう。</p>			



科目 No.52

分野	専門分野	科目	領域横断：看護の思考			
必修・選択	必修	単位数 時間数（回数）	1 単位 30 時間（15 回）	配当時期	2 年全期	
講師名	藤木美春	所属および実務経験	専任教員／看護師			
	木下由理子		専任教員／看護師			
<p>【科目のねらい】</p> <p>対象の発達的特徴やニード及び健康状態に応じた看護を実践し、対象中心の看護を創造していく上で、看護職には問題解決能力や実践力及び臨床判断力が求められます。そのような力を培うために、看護過程の展開や臨床判断の学習は重要な位置づけとなります。</p> <p>対象にとって何が重要かを見極める力をつける為に「看護師のように学ぶ」視点が大切です。ここでの学習は、各領域別の看護方法の土台となりますので、主体的に学んでいきましょう。</p>						
<p>【目的】発達的特徴を踏まえて対象の反応を捉え、科学的根拠に基づき看護を思考していく基礎を習得し、専門分野の各看護学における基盤を養う。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 臨床判断のプロセスとそのポイントを説明することができる。</li> <li>2. 看護過程や臨床判断能力が必要な意義を説明することができる。</li> <li>3. 対象の反応、病態や治療の影響などを踏まえて健康状態を判断することができる。</li> <li>4. 一般論や理論を用いて、科学的根拠を踏まえて判断することができる。</li> <li>5. 対象の発達的特徴や家族の視点を踏まえて看護計画を立案することができる。</li> <li>6. 対象の持てる力を活かし、安心・安全な看護を追求することができる。</li> <li>7. 多職種との連携の視点と看護の役割を説明することができる。</li> <li>8. 対象中心の看護を根拠に基づき実践し、リフレクションから自己の課題を明確にすることができる。</li> </ol>						
<p>【DPとの関連】</p> <p>DP3 対象の反応から臨床判断し、健康レベルに応じた看護を科学的根拠に基づき実践することができる。</p> <p>DP4 対象の QOL（Quality Of Life：生活の質）向上を目指し、対象の持てる力を活かした看護や安心・安全な生活を支援する看護を実践することができる。</p> <p>DP5 多様な場で生活するあらゆる人々の健康に着目し、地域包括ケアシステム、チーム医療や多職種との連携・協働の視点を持ち看護を実践することができる。</p>						
【授業の流れ】（全体スケジュール・学習内容・方法等）						
回	日程	1 組	2 組	学習内容	方法	備考
1	5/1	2		領域判断（クリニカルジャッジメント）と臨床推論（クリニカルリーザニング） 臨床判断のプロセス（ターナーの 4 フェーズ）	講義・演習	基礎看護学実習Ⅱの前（前期）に受講します。 藤木美春
2	5/1	3				
3	5/1	4		状況設定事例で臨床判断を体験 各看護学の方法へのつながりについて	ポストテスト(各 3) 1.2.3 回	
4	10/17	3	4	基礎看護学実習Ⅱ（看護過程）を終えて、改めて「看護過程とは」を考える 看護過程とクリティカルシンキング	講義・演習 ポストテスト(3)	基礎看護学実習Ⅱの後（後期）に受講します。 木下由理子
5	10/18	1		地域・在宅看護論、精神看護学、母性看護学、小児看護学、成人看護学、老年看護学における看護過程の展開の特徴	講義・演習 ポストテスト(3)	
6	10/18	2		演習：対象の特性、その人が暮らす地域特性を踏まえた看護過程の展開グループ学習まとめ発表と共有	演習の導入	藤木美春
7	10/22	1			事例 1 妊娠高血圧のある妊婦（第 2 子妊娠中、第 1 子 2 歳）とその家族へ看護	
8	10/22	2		事例 2 思春期のこころの健康と看護	講義・演習 ポストテスト(3) 10 回	藤木美春
9	10/31	1				
10	10/31	2		事例 3 成人（肝硬変）とその家族への看護	講義・演習 ポストテスト(3) 12 回	木下由理子
11	11/7	3				
12	11/7	4				

13	11/12	3		事例 4 高齢者（変形性膝関節症）とその家族（介護者）への看護	講義・演習 ポストテスト(3) 14回
14	11/12	4			
15	11/13	3		まとめ	講義・演習 ポストテスト(3) 15回
			試験		
<p><b>【準備学習内容】</b></p> <p>看護過程の復習や基礎看護学実習Ⅱの経験と学びは、この科目の学び成立の要です。看護過程や基礎看護学実習Ⅱのリフレクションをし、この科目における自己目標を明確にしておきましょう。</p> <p>自己の課題から必要と考えた学習内容については文献検索し、活用できるように準備しておきましょう。重要な箇所にはマーカーする、ディスカッション時に活用できるようポイントをメモしておくなど工夫し自己学習しましょう。</p> <p>演習では、下記の事前課題を、演習前日までにC-ランニングへ提出してから、演習に参加してください。</p> <p>事例1 事前課題 ①妊婦の健康相談・教育の実際（母性看護学各論） ②親になるための準備教育 ③妊娠高血圧症</p> <p>事例2 事前課題 ①思春期とは（小児概論・小児臨床総論） ②AYA世代の問題（精神看護の基礎）</p> <p>事例3 事前課題 ①肝硬変の基礎的知識（消化器） ②成人期の発達課題（成人看護学総論）</p> <p>事例4 事前課題 ①変形性膝関節症（老年看護病態・疾患論） ②退院調整・退院支援（老年看護学）</p> <p>演習時に課題レポートを提示します。</p>					
<p><b>【使用するテキスト】</b></p> <p>系統看護学講座 専門分野 専門基礎分野 全ての教科書 医学書院 2024</p>					
<p><b>【参考文献】</b></p> <p>瀬戸奈津子他監 事例で学ぶ疾患別看護過程 Vol.1 学研 2020</p> <p>瀬戸奈津子他監 事例で学ぶ疾患別看護過程 Vol.2 学研 2020</p> <p>エビデンスに基づく関連図シリーズ 中央法規出版</p>					
<p><b>【評価方法】</b></p> <p>授業終了時のポストテスト（30点）、課題レポートを含む演習への取り組み・成果（70点）</p> <p>事前課題及び課題レポートは、試験と同じ取り扱いです。指定された日時までに提出してください。</p> <p>指定日時までに提出されたものを評価の対象とします。</p>					
<p><b>【受講上の注意】</b></p> <p>事前学習や復習など自分で学習スケジュールを立て、計画的に行っていきましょう。</p> <p>分からない言葉は調べて繰り返し反復学習するなどの自己学習行動により理解につながります。</p> <p>グループ学習が効果的となるためにメンバーで円滑なコミュニケーションを図りながら取り組んでいきましょう。</p>					

科目 No.53

分野	専門分野	科目	地域・在宅看護論：地域・在宅看護の概論			
必修・選択	必修	単位数 時間数（回数）	1 単位 30 時間（15 回）	配当時期	1 年前期	
講師名	池田倫子	所属および実務経験	元佐賀大学医学部看護学科 助教			
<p>【科目のねらい】</p> <p>地域とは、暮らしとはいったい何でしょうか？みなさんが当たり前で生活を送っている地域や暮らしについて考えてみたいと思います。そして、在宅看護を必要とする地域で生活する人やその家族の特徴を理解し、住み慣れた場所で暮らししていくためにはどのようなことが必要なかをこの科目では学んでいきます。高齢化が進む昨今、地域看護の必要性が問われています。講義や演習を通して、地域の課題点や今後の展望、看護職の役割について皆さんで考えていきましょう。</p>						
<p>【目的】暮らしの拠点として地域を知り、地域で生活しながら療養する人々とその家族を支援するための基礎的な知識を養う。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域とは暮らしとはについて説明することができる。</li> <li>2. 地域・在宅看護の変遷とその社会背景について述べるができる。</li> <li>3. 地域・在宅看護の役割について述べるができる。</li> <li>4. 地域・在宅看護の対象者について述べるができる。</li> <li>5. 地域・在宅看護における倫理について考察することができる。</li> <li>6. 地域包括ケアシステムにおける多職種連携・協働の必要性について述べるができる。</li> <li>7. 地域で生活する人々の健康の保持・増進、疾病の予防、回復、障害のための看護活動について具体的に述べるができる。</li> <li>8. 看護の対象を地域における生活者の視点で説明することができる。</li> </ol>						
<p>【DPとの関連】</p> <p>DP1 人々の様々な価値観を尊重したコミュニケーションを図り、より良い人間関係を築くことができる。</p> <p>DP2 看護専門職の役割と責務を自覚し、倫理的判断に基づく看護実践やリーダーシップを示すことができる。</p> <p>DP4 対象のQOL（Quality Of Life：生活の質）向上を目指し、対象の持てる力を活かした看護や安心・安全な生活を支援する看護を実践することができる。</p> <p>DP5 多様な場で生活するあらゆる人々の健康に着目し、地域包括ケアシステム、チーム医療や多職種との連携・協働の視点を持ち看護を実践することができる。</p> <p>DP6 心身の健康管理能力及び社会人基礎力や情報活用能力を発展させ、看護の質の向上を目指し、自ら学び続ける姿勢を表現することができる。</p>						
【授業の流れ】（全体スケジュール・学習内容・方法等）						
回	日程	1 組	2 組	学習内容	方法	備考
1	4/23	1	1	地域とは、暮らしとは、日本の暮らし様子、地域に目を向けた看護とは 演習；事前学習で調べたことをもとにグループメンバーで整理してみよう。 演習の成果を発表し、学びを共有する。	講義・演習 ポストテスト（3）	
2	4/23	2	2	生活環境と健康 演習；事前学習で調べたことをもとにグループメンバーで整理してみよう。 演習の成果を発表し、学びを共有する。	講義・演習 ポストテスト（3）	
3	5/14	1	1	地域・在宅看護の背景 演習；事前学習で調べたことをもとに地域・在宅看護の背景についてまとめてみよう。	講義・演習 ポストテスト（3）	
4	5/14	2	2	地域・在宅看護の基盤／地域療養を支える在宅看護の役割・機能 演習；あらゆる対象への地域活動：健康増進・一次予防・ハイリスクアプローチ について考えてみよう。	講義・演習 ポストテスト（3）	
5	5/21	1	1	地域・在宅看護の基本理念・理論 ソーシャル・キャピタル、ソーシャル・インクルージョン、ローカル・オブ・コントロール、ヘルスプロモーション、ストレングスマodel、アドボカシー、エンパワメント、レジリエンス、自己効力感、プライマリヘルスクア、家族理論、役割理論、パートナーシップ 演習；事前学習で調べたことをもとに、地域・在宅看護の基本理念・理論についてグループメンバーで整理してみよう。それを踏まえて自助・公助・共助・互助の意義について考えてみよう。	講義・演習 ポストテスト（3）	

6	5/21	2	2	地域・在宅看護の対象者と在宅療養の成立要件 演習；地域・在宅看護の対象者について考えてみよう。	講義・演習 ポストテスト（3）	
7	5/28	1	1	地域・在宅看護の倫理 演習；事例をもとに、グループメンバーで地域・在宅看護の倫理について考えよう。 演習の成果を発表し、学びを共有する。	演習 ポストテスト（3）	
8	5/28	2	2	地域共生社会への実現にむけて 演習；事前学習で調べたことをもとにグループメンバーで整理してみよう。 演習の成果を発表し、学びを共有する。	演習 ポストテスト（3）	
9	6/4	1	1	地域包括ケアシステム 演習；事例をもとに、地域包括ケアシステムの理解を深めよう。	講義・演習 ポストテスト（3）	
10	6/4	2	2	多職種連携協働 演習；事例をもとに、グループメンバーで多職種連携協働について考えよう。 演習の成果を発表し、学びを共有する。	講義・演習 ポストテスト（3）	
11	7/18	1	1	地域診断：市民の健康とその支援：福岡市の支援内容について 事例演習 まとめの発表と共有	演習	
12	7/18	2	2			
13	7/23	1	2			
14	9/3	1	1	地域活動（健康づくりセミナーの当日運営への参加） 主催：福岡県保健・医療・福祉推進協議会 セミナーの聴講、セミナー後に市民の方にインタビュー	演習 課題レポート (20)	※セミナー参加が困難な場合は、オンデマンド視聴と演習となる
15	9/3	2	2			
9月14日（土）1限目				筆記試験		
<p>【準備学習内容】</p> <p>1 回目までに地域とは、暮らしとは、日本の暮らし様子とは、地域に目を向けた看護とはについて調べ学習を行い、事前にレポートにまとめておきましょう。授業後提出となります。</p> <p>2 回目までに生活環境と健康について調べ学習を行い、事前にレポートにまとめておきましょう。授業後提出となります。</p> <p>3 回目までに地域・在宅看護の背景について調べ学習を行い、事前にレポートにまとめておきましょう。授業後提出となります。</p> <p>4 回目までに地域・在宅看護の基盤／地域療養を支える在宅看護の役割・機能 あらゆる対象への地域活動：健康増進・一次予防・ハイリスクアプローチについて調べ学習を行い、事前にレポートにまとめておきましょう。授業後提出となります。</p> <p>6 回目までに地域・在宅看護の対象者と在宅療養の成立要件について調べ学習を行い事前にレポートにまとめておきましょう。授業後提出となります。</p> <p>8 回目までに地域共生社会への実現にむけての調べ学習を行い、事前にレポートにまとめておきましょう。授業後提出となります。</p> <p>11 回目までに福岡市の特徴や、福岡市で行われている地域活動について調べ学習し、事前にレポートにまとめておきましょう。（福岡市ホームページ、市政だより、各区ホームページなど参照可）</p> <p>テキストによる事前学習をしっかりと行いましょう。テキスト学習を踏まえて授業は進んでいきます。</p> <p>重要な箇所にはマーカーする、ディスカッション時に活用できるようポイントをメモしておくなど工夫し自己学習しましょう。</p> <p>わからない語句について調べておくようにしましょう。</p>						
<p>【使用するテキスト】</p> <p>臺有桂他編 ナーシング・グラフィカ 在宅看護論① 地域療養を支えるケア 2024</p>						
<p>【参考文献】</p> <p>安藤雄一他監 公衆衛生がみえる メディックメディア 2022-2023</p> <p>河原加代子他編 系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論 1 地域・在宅看護の基盤 医学書院 2024</p> <p>谷津裕子他 監修 看護がみえる vol.5 対象の理解 1 第1版 メディックメディア 2023</p>						
<p>【評価方法】</p> <p>授業終了時のポストテスト（30点）、課題レポートを含む演習への取り組み・成果（20点）、筆記試験（50点）</p> <p>14～15 回目の地域活動に参加し、学びをレポートし指定日までに提出してください。</p>						
<p>【受講上の注意】</p> <p>事前学習や復習など自分で学習スケジュールを立て、計画的に行っていきましょう。</p> <p>11 回目～13 回目の演習では、グループ学習を行い、メンバーシップを図りながら主体的に取り組んでいきましょう。</p> <p>14 回目～15 回目は、4月～7月に1回参加予定になっています。参加状況も出欠に関係します。詳細は決定次第お伝えしますが主体的に参加しましょう。</p>						

科目 No.54

分野	専門分野	科目	地域・在宅看護論：地域・在宅看護の方法 I			
必修・選択	必修	単位数 時間数（回数）	1 単位 30 時間（15 回）	配当時期	2 年前期	
講師名	安藤真由美	所属および実務経験	株式会社 Nano テックス 代表取締役/ 保健師・社会福祉士・主任介護支援専門員			
<p>【科目のねらい】</p> <p>社会資源とは日常生活上の人々が抱えている様々な問題を解決する福祉サービスの総称のことです。地域で暮らす人が、住み慣れた場所で自分らしい生活を人生の最期まで送れるようにするためには、これからは地域全体で支えなくてはなりません。そのためには、社会資源や法制度を学んでおくことが必要になります。そして、これらを理解したうえで、多職種と連携・協働していくことが求められます。この科目を通して、地域・在宅療養支援への活用やサービスのつながりについて、しっかりと学習し理解を深めていきましょう。そして、地域看護活動に参加し、地域住民や地域組織の健康増進に向けた協働に参加し、その意義について考えてみましょう。</p>						
<p>【目的】地域・在宅における多様な場で療養する人々の支援やサービス内容のつながりとなる知識を養う。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域・在宅療養における多様な場について列記することができる。</li> <li>2. 地域・在宅療養における家族の特徴について述べるができる。</li> <li>3. 個人・家族を取り巻く地域包括ケアシステムにおける多職種連携について説明することができる。</li> <li>4. 地域・在宅で暮らす人々に必要な制度や社会資源と看護のつながりについて、制度別に説明することができる。</li> <li>5. 地域住民や地区組織活動の健康増進に向けた協働に参加し、その意義について考察することができる。</li> </ol>						
<p>【DPとの関連】</p> <p>DP1 人々の様々な価値観を尊重したコミュニケーションを図り、より良い人間関係を築くことができる。</p> <p>DP2 看護専門職の役割と責務を自覚し、倫理的判断に基づく看護実践やリーダーシップを示すことができる。</p> <p>DP4 対象のQOL（Quality Of Life：生活の質）向上を目指し、対象の持てる力を活かした看護や安心・安全な生活を支援する看護を実践することができる。</p> <p>DP5 多様な場で生活するあらゆる人々の健康に着目し、地域包括ケアシステム、チーム医療や多職種との連携・協働の視点を持ち看護を実践することができる。</p> <p>DP6 心身の健康管理能力及び社会人基礎力や情報活用能力を発展させ、看護の質の向上を目指し、自ら学び続ける姿勢を表現することができる。</p>						
<p>【授業の流れ】（全体スケジュール・学習内容・方法等）</p>						
回	日程	1 君	2 組	学習内容	方法	備考
1	4/18	1		地域・在宅療養の場における家族のとらえ方 地域・在宅療養者の家族への看護	講義・演習 ポストテスト(4)	安藤真由美
2	4/18	2		個人・家族を取り巻く地域包括ケアシステムにおける地域・在宅看護 自助・公助・共助・互助の視点	講義・演習 ポストテスト(4)	
3	4/25	1		地域包括ケアシステムにおける多職種・多機関連携 在宅看護におけるケースマネジメント/ケアマネジメント	講義・演習 ポストテスト(4)	
4	4/25	2		看護が提供される多様な場（病院（外来・入院）、診療所、居宅（自宅、施設）、療養通所介護事業所、訪問看護事業所、看護小規模多機能型居宅介護、通所サービス、地域包括支援センター、介護施設、老人保健施設など）	演習 ポストテスト(4)	
5	5/2	1		地域・在宅で生活する療養者；医療保険制度 事例演習 演習の成果を発表し、学びを共有する。	演習 ポストテスト(4)	
6	5/2	2		地域・在宅で生活する療養者；後期高齢者医療制度・高齢者施策 事例演習 演習の成果を発表し、学びを共有する。	演習 ポストテスト(4)	

7	5/9	1	地域・在宅で生活する療養者；介護保険制度 事例演習 演習の成果を発表し、学びを共有する。	演習 ポストテスト(4)	安藤真由美	
8	5/9	2	地域・在宅で生活する療養者；生活保護制度 事例演習 演習の成果を発表し、学びを共有する。	演習 ポストテスト(4)		
9	5/16	1	地域・在宅で療養する障害者；障害者に関連する法律 事例演習 演習の成果を発表し、学びを共有する。	演習 ポストテスト(4)		
10	5/16	2	地域・在宅で療養する難病患者；難病法 事例演習 演習の成果を発表し、学びを共有する。	演習 ポストテスト(4)		
11	5/23	1	地域・在宅で生活する療養者；子どもの在宅療養を支える制度と社会資源 事例演習 演習の成果を発表し、学びを共有する。	講義・演習 ポストテスト(4)		
12	5/23	2	地域・在宅療養者の権利を擁護する制度と社会資源	講義・演習 ポストテスト(4)		
13	5/30	1	地域・在宅における対象の特徴や場の特徴を捉えた看護の概要 (介護予防、虐待防止、精神障害、重症心身障害児、認知症、要介護高齢者、リハビリテーション、エンドオブライフケア)	講義・演習 ポストテスト(4)		
14	5/30	2		講義・演習 ポストテスト(4)		
15	6/6	1	2	地域活動（調べ学習）・発表 演習 (4)		
6月17日(月) 1限目			終了試験			
【準備学習内容】 制度や施策など難しいと感じやすいですが、分からない言葉は調べる、繰り返しの反復学習する、などの自己学習行動により理解につながります。 自分で学習スケジュールを立て、計画的に行っていきましょう。事前学習や復習など自分で学習スケジュールを立て、計画的に行っていきましょう						
【使用するテキスト】 臺有桂他編 ナーシング・グラフィカ 在宅看護論① 地域療養を支えるケア 2024						
【参考文献】 河原加代子他編 系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論 1 地域・在宅看護の基盤 医学書院 2024 河原加代子他編 系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論 2 地域・在宅看護の実践 医学書院 2024 安藤雄一他監 公衆衛生がみえる メディックメディア 2022-2023						
【評価方法】 授業終了後のポストテスト（56点）、演習への取り組み・成果(4点)、筆記試験（40点）						
【受講上の注意】						

科目 No.55

分野	専門分野	科目	地域・在宅看護論：地域・在宅看護の方法Ⅱ			
必修・選択	必修	単位数 時間数（回数）	1単位 30時間（15回）	配当時期	2年前期	
講師名	田中道	所属および実務経験	訪問看護ステーション白十字／看護師			
	小野早苗		専任教員/看護師			
【科目のねらい】 訪問看護とは、訪問看護師が医師の指導に基づき、対象者の療養上の世話や医療処置などを定期的に訪問し提供する看護サービスです。また、ご家族の精神面のケアや看護指導なども訪問看護師の仕事です。この科目では、訪問看護がどのようなしくみなのか、そして地域での療養生活を継続的に支えるために訪問看護がどのような役割を担うのかを具体的に学んでいきます。地域・在宅における安全管理や危機管理も共に考えていきましょう。また、訪問看護師としての多職種連携の視点として福祉用具専門相談員との連携の実際を学んでいきます。						
【目的】療養の場の移行に伴う看護および地域・在宅療養者とその家族を支える訪問看護の基礎知識を養う。						
【到達目標】						
<ol style="list-style-type: none"> <li>療養の場の移行に伴う看護と多職種連携の必要性について説明することができる。</li> <li>訪問看護の役割と機能および訪問看護の流れについて説明することができる。</li> <li>訪問看護における家族支援について述べるができる。</li> <li>訪問看護制度の課題について述べるができる。</li> <li>訪問看護における多職種連携協働について説明することができる。</li> <li>地域・在宅看護における危機管理、日常生活における安全管理について説明することができる。</li> <li>地域・在宅看護における在宅療養者と健康危機管理について説明することができる。</li> <li>地域・在宅看護の必要性を考察することができる。</li> </ol>						
【DPとの関連】						
DP1 人々の様々な価値観を尊重したコミュニケーションを図り、より良い人間関係を築くことができる。						
DP2 看護専門職の役割と責務を自覚し、倫理的判断に基づく看護実践やリーダーシップを示すことができる。						
DP4 対象のQOL（Quality Of Life：生活の質）向上を目指し、対象の持てる力を活かした看護や安心・安全な生活を支援する看護を実践することができる。						
DP5 多様な場で生活するあらゆる人々の健康に着目し、地域包括ケアシステム、チーム医療や多職種との連携・協働の視点を持ち看護を実践することができる。						
DP6 心身の健康管理能力及び社会人基礎力や情報活用能力を発展させ、看護の質の向上を目指し、自ら学び続ける姿勢を表現することができる。						
【授業の流れ】（全体スケジュール・学習内容・方法等）						
回	日程	1組	2組	学習内容	方法	備考
1	5/13	3		療養の場の移行に伴う看護 退院調整 退院支援 継続看護 サービス担当者会議 病院との連携 地域連携 演習：調べたことをグループメンバーで整理してみよう。 演習の成果を発表し、学びを共有する。	講義・演習 ポストテスト(3)	田中道
2	5/20	3		訪問看護の特徴（制度と現状、提供方法と種類、様々な場への訪問） 介護老人福祉施設 小規模多機能型居宅介護 サービス付き高齢者向け住宅 グループホーム 有料老人ホーム デイケア デイサービス 演習：訪問看護の特徴について、グループで整理してみよう。	講義・演習 ポストテスト(3)	
3	5/20	4		在宅ケアを支える訪問看護 （開設基準、従事者、対象者、サービス内容、サービス開始までの流れ） 演習：調べたことをグループメンバーで整理してみよう。 演習の成果を発表し、学びを共有する。	講義・演習 ポストテスト(3)	

4	5/27	3	在宅ケアを支える訪問看護（利用料、訪問看護サービスの質保証、訪問看護指示書、特別訪問看護指示書、訪問看護記録、報告書、訪問看護サービスの管理・運営）	講義・演習 ポストテスト(3)	田中道	
5	5/27	4	演習：調べたことをグループメンバーで整理してみよう。 演習の成果を発表し、学びを共有する。	講義・演習 ポストテスト(3)		
6	6/3	3	在宅ケアを支える訪問看護（家族支援）	演習 ポストテスト(3)		
7	6/3	4	事例演習 演習の成果を発表し、学びを共有する。	演習 ポストテスト(3)		
8	6/17	3	在宅を支える訪問看護（訪問看護制度の課題） 演習：訪問看護制度の課題についてグループメンバーで整理してみよう。 演習の成果を発表し学びを共有する。	講義・演習 ポストテスト(3)		
9	6/24	3	訪問看護における多職種連携協働	講義・演習 ポストテスト(3)		
10	6/24	4	事例演習 演習の成果を発表し、学びを共有する。	講義・演習 ポストテスト(3)		
11	7/1	3	在宅看護における危機管理 住宅改修 福祉用具購入 福祉用具貸与 日常生活における安全管理	演習 ポストテスト(3)		
12	7/1	4	事例演習 演習の成果を発表し学びを共有する。	演習 ポストテスト(3)		
13	7/8	3	災害時における在宅療養者と家族の健康危機管理 医療機器	演習 ポストテスト(3)		
14	7/8	4	事例演習 演習の成果を発表し、学びを共有する。	演習 ポストテスト(3)		
15	7/19		病院から地域への移行と看護及び多職種連携協働 （福祉用具の選定基準と活用方法の実際） 退院時から在宅療養を支える福祉用具の選定に対する訪問看護師との協働／物品と環境・利用目的の関係／対象に応じた物品の選定に関する多職種連携の実際（福祉用具のショールーム見学を受講する）	演習 課題レポート （13）		小野早苗
7月27日(土) 1限目			終了試験			
【準備学習内容】 動画視聴：看護教育シリーズ「目で見える訪問看護」を活用しましょう。						
【使用するテキスト】 臺有桂他編 ナーシング・グラフィカ 在宅看護論① 地域療養を支えるケア 2024						
【参考文献】 河原加代子他編 系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論 1 地域・在宅看護の基盤 医学書院 2024 河原加代子他編 系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論 2 地域・在宅看護の実践 医学書院 2024 安藤雄一他監 公衆衛生がみえる メディックメディア 2022-2023						
【評価方法】 授業終了後のポストテスト（42点）、課題レポートを含む演習への取り組み・成果（10点+3点）、筆記試験（45点） 15回目の福祉用具のショールーム見学に参加し、学びをレポートし指定日までに提出してください。						
【受講上の注意】 15回目は福祉用具のショールームを見学します。主体的に参加しましょう。						

科目 No.56

分野	専門分野	科目	地域・在宅看護論：地域・在宅看護の方法Ⅲ			
必修・選択	必修	単位数 時間数（回数）	1 単位 30 時間（15 回）	配当時期	2 年後期	
講師名	安藤真由美	所属および実務経験	株式会社 Nano テックス 代表取締役/ 保健師・社会福祉士・主任介護支援専門員			
【科目のねらい】 昨今、療養の場は地域・在宅に移行しています。地域・在宅で療養者を支えていくためには、対象の健康課題や生活上の問題に対する確かな判断能力を養うとともに、療養者の生活に合わせた基本的技術を身につける必要があります。また地域・在宅では家族が主となり介護を行うので、家族に対する相談的・教育的対応技術も必要になります。基礎看護学で学んだ基本技術や生活の援助・医療処置に伴う援助を、地域・在宅という生活の場に適応させるために、応用する力を身につけていきましょう。						
【目的】地域・在宅における臨床判断と日常生活を支えるための基礎看護技術を応用する基礎的能力を養う。						
【到達目標】						
1. 訪問看護技術を実践することができる。						
2. 地域在宅における臨床判断プロセスとそのポイントを説明することができる。						
3. 地域・在宅療養者の特性に応じた日常生活援助および医療的援助の基本的なアセスメントを実施することができる。						
4. 医療管理を必要とする地域・在宅看護の特徴と支援の方法について説明することができる。						
5. 地域・在宅における看護技術の工夫と家族への指導技術について説明することができる。						
【DPとの関連】						
DP1 人々の様々な価値観を尊重したコミュニケーションを図り、より良い人間関係を築くことができる。						
DP2 看護専門職の役割と責務を自覚し、倫理的判断に基づく看護実践やリーダーシップを示すことができる。						
DP3 対象の反応から臨床判断し、健康レベルに応じた看護を科学的根拠に基づき実践することができる。						
DP4 対象のQOL（Quality Of Life：生活の質）向上を目指し、対象の持てる力を活かした看護や安心・安全な生活を支援する看護を実践することができる。						
DP5 多様な場で生活するあらゆる人々の健康に着目し、地域包括ケアシステム、チーム医療や多職種との連携・協働の視点を持ち看護を実践することができる。						
DP6 心身の健康管理能力及び社会人基礎力や情報活用能力を発展させ、看護の質の向上を目指し、自ら学び続ける姿勢を表現することができる。						
【授業の流れ】（全体スケジュール・学習内容・方法等）						
回	日程	1 組	2 組	学習内容	方法	備考
1	10/16	1		訪問看護技術（家庭訪問・初回訪問） 訪問マナー コミュニケーション 演習；訪問技術を体験し、どのようなことが必要かを考えてみよう。	演習 ポストテスト(各 3)	安藤真由美
	10/17		1			
2	10/16	2		演習の成果を発表し、学びを共有する。	1.2 回	
	10/17		2			
3	10/23	1	1	在宅におけるヘルスアセスメントと臨床判断 生命や暮らしを支える 演習；在宅でのヘルスアセスメントからどのように臨床判断をするのか、グループで整理してみよう。	演習 ポストテスト(各 3) 3.4 回	
4	10/23	2	2	演習の成果を発表し、学びを共有する。		
5	10/31	1	1	在宅における環境アセスメントと臨床判断 演習；在宅での環境アセスメントからどのように臨床判断するのか、グループで整理してみよう。 演習の成果を発表し、学びを共有する。	演習 ポストテスト(3)	
6	10/31	2	2	在宅における感染防止対策 演習；グループメンバーで整理してみよう。 演習の成果を発表し、学びを共有する。	演習 ポストテスト(3)	
7	11/6	1		在宅における生活リハビリテーション 肢位の保持と移動 転倒予防 事例演習；事例をもとに、在宅におけるリハビリテーションについて考えてみよう。	演習 ポストテスト(3)	
	11/7		1			演習の成果を発表し、学びを共有する。

8	11/6	2		在宅療養の場における食生活と臨床判断 経管栄養 胃瘻 事例演習；事例をもとに、在宅での食のアセスメントからどのように臨床判断するかを考えてみよう。演習の成果を発表し、学びを共有する。	演習 ポストテスト(3)	安藤真由美
	11/7		2			
9	11/13	1		在宅療養の場における排泄と臨床判断 排尿ケア 尿留置カテーテル ストーマ 事例演習；事例をもとに、在宅での排泄のアセスメントからどのように臨床判断するかを考えてみよう。 演習の成果を発表し、学びを共有する。	演習 ポストテスト(3)	
	11/14		1			
10	11/13	2		在宅療養の場における清潔と更衣と臨床判断 事例演習；事例をもとに、在宅での清潔と更衣のアセスメントからどのように臨床判断するかを考えてみよう。 演習の成果を発表し、学びを共有する。	演習 ポストテスト(3)	
	11/14		2			
11	11/20	1		在宅における褥瘡管理と臨床判断・在宅における足病変のケアと臨床判断 事例演習；①事例をもとに、在宅での褥瘡管理におけるアセスメントからどのように臨床判断するかを考えてみよう。②事例をもとに、在宅での足病変のアセスメントからどのように臨床判断するかを考えてみよう。演習の成果を発表し、学びを共有する。	演習 ポストテスト(3)	
	11/21		1			
12	11/20	2		在宅における医療ケアの原理原則 在宅における輸液療法（在宅中心静脈栄養法、末梢静脈栄養法）と臨床判断 事例演習；事例をもとに、在宅での輸液管理のアセスメントからどのように臨床判断するかを考えてみよう。演習の成果を発表し、学びを共有する。	講義・演習 ポストテスト(3)	
	11/21		2			
13	11/27	1	2	在宅における CAPD 管理と臨床判断 事例演習；事例をもとに、在宅での CAPD 管理におけるアセスメントからどのように臨床判断するかを考えてみよう。 演習の成果を発表し、学びを共有する。	演習 ポストテスト(3)	
14	12/4	1		在宅における技術 在宅での工夫 家族指導技術 事例演習；事例をもとに在宅における技術の実施と家族への指導技術について考えてみよう。 演習の成果を発表し、学びを共有する。	演習 ポストテスト(各 3) 14.15 回	
	12/5		1			
15	12/4	2				
	12/5		2			
12月16日(月) 1限目				終了試験		
<p>【準備学習内容】</p> <p>テキストによる事前学習をしっかりと行いましょう。テキスト学習を踏まえて授業は進んでいきます。</p> <p>重要な箇所にはマーカーする、ディスカッション時に活用できるようポイントをメモしておくなど工夫し自己学習しましょう。</p> <p>動画視聴：看護教育シリーズ「目で見える訪問看護」VOⅠ.2, 4, 5の動画を活用しましょう。</p> <p>日常生活援助については、教科書「基礎看護技術Ⅰ、Ⅱ」にて復習をしておいてください。</p>						
<p>【使用するテキスト】</p> <p>臺有桂他編 ナーシング・グラフィカ 在宅看護論② 在宅療養を支える技術 2023</p>						
<p>【参考文献】</p> <p>河原加代子他編 系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論 1 地域・在宅看護の基盤 医学書院 2024</p> <p>河原加代子他編 系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論 2 地域・在宅看護の実践 医学書院 2024</p> <p>押川真喜子監 写真でわかる訪問看護アドバンス 新訂第2版 インターメディカ 2023</p>						
<p>【評価方法】</p> <p>授業終了後のポストテスト（45点）、筆記試験（55点）</p> <p>課題レポートは指定された日時までに提出してください。指定日時までに提出されたものを評価の対象とします。</p>						
<p>【受講上の注意】</p> <p>事前学習や復習など自分で学習スケジュールを立て、計画的に行っていきましょう。</p>						

科目 No.57

分野	専門分野	科目	地域・在宅看護論：地域・在宅看護の方法Ⅳ			
必修・選択	必修	単位数 時間数(回数)	1単位 30時間(15回)	配当時期	2年後期	
講師名	粟生美帆	所属および実務経験	訪問看護ステーション さんらいと／看護師			
【科目のねらい】 地域・在宅における特徴的な事例から、在宅療養者の価値観、人生観、自己決定、家族介護力、社会資源の活用などについて学習します。在宅療養者の特徴をふまえて在宅療養者への援助や支援を学びましょう。						
【目的】：地域・在宅看護における紙上事例を通し、在宅療養者とその家族に対する看護につなげる思考過程と必要な援助方法についての知識を養う。						
【到達目標】 1. 地域・在宅看護の特徴を列記することができる。 2. 事例から、療養者と家族の希望に着目し、背景や経過から生活上の課題を考察することができる。 3. 事例から、対象の特性に応じたアセスメントと、今後を予測した看護介入について説明することができる。 4. 事例から、療養者と家族の状況に対して活用できる社会資源を述べるすることができる。 5. 事例から、地域・在宅での臨床判断について具体的に述べるすることができる。						
【DPとの関連】 DP1 人々の様々な価値観を尊重したコミュニケーションを図り、より良い人間関係を築くことができる。 DP2 看護専門職の役割と責務を自覚し、倫理的判断に基づく看護実践やリーダーシップを示すことができる。 DP3 対象の反応から臨床判断し、健康レベルに応じた看護を科学的根拠に基づき実践することができる。 DP4 対象のQOL（Quality Of Life：生活の質）向上を目指し、対象の持てる力を活かした看護や安心・安全な生活を支援する看護を実践することができる。 DP5 多様な場で生活するあらゆる人々の健康に着目し、地域包括ケアシステム、チーム医療や多職種との連携・協働の視点を持ち看護を実践することができる。 DP6 心身の健康管理能力及び社会人基礎力や情報活用能力を発展させ、看護の質の向上を目指し、自ら学び続ける姿勢を表現することができる。						
【授業の流れ】（全体スケジュール・学習内容・方法等）						
回	日程	1組	2組	学習内容	方法	備考
1	10/24	1		対象および家族の特徴を踏まえた地域・在宅看護の特徴 演習；事前学習で調べたことをもとに、地域・在宅看護の特徴についてまとめてみよう。	講義・演習	
2	11/1	3		事例；COPD HOT、排痰ケア、呼吸ケア、口腔ケア 事例演習；事前学習をもとにグループ学習	演習 ポストテスト（5） 4回 課題レポート(20) 4回	
3	11/1	4				
4	11/20	3		学びの発表と共有		
5	11/20	4		事例；ALS NPPV、TPPV、気管カニューレ管理 事例演習；事前学習をもとにグループ学習	演習 ポストテスト（5） 7回 課題レポート(20) 7回	
6	12/2	3				
7	12/2	4		学びの発表と共有		
8	12/11	3		事例；小児療養者 脳性麻痺、医療的ケアを必要とする小児 事例演習；事前学習をもとにグループ学習	演習 ポストテスト（5） 10回 課題レポート(20) 10回	
9	12/11	4				
10	12/18	2		学びの発表と共有		
11	12/18	3		事例；終末期 がん 看取り、疼痛コントロール、ACP 事例演習；事前学習をもとにグループ学習	演習 ポストテスト（5） 13回 課題レポート(20) 13回	
12	1/15	1				
13	1/15	2		学びの発表と共有		
14	1/20	1		事例演習：臨床判断	演習	

15	1/20	2	事例演習；事例をもとに、在宅における臨床判断について考えてみよう。 学びの発表と共有		
			試験		
<p>【準備学習内容】</p> <p>2 回目までに COPD の学習（疾患、社会資源、多職種連携）し、レポートにまとめておきましょう。授業後提出となります。</p> <p>5 回目までに ALS の学習（疾患、社会資源、多職種連携）をし、レポートにまとめておきましょう。授業後提出となります。</p> <p>8 回目までに小児の療養者（疾患、社会資源、多職種連携）について学習をし、レポートにまとめておきましょう。授業後提出となります。</p> <p>11 回目までに終末期療養者（疾患、社会資源、多職種連携）について学習をし、レポートにまとめておきましょう。授業後提出となります。</p>					
<p>【使用するテキスト】</p> <p>臺有桂他編 ナーシング・グラフィカ 在宅看護論① 地域療養を支えるケア 2024</p> <p>臺有桂他編 ナーシング・グラフィカ 在宅看護論② 在宅療養を支える技術 2024</p>					
<p>【参考文献】</p> <p>河原加代子他編 系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論 1 地域・在宅看護の基盤 医学書院 2024</p> <p>河原加代子他編 系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論 2 地域・在宅看護の実践 医学書院 2024</p> <p>安藤雄一他監 公衆衛生がみえる メディックメディア 2022-2023</p> <p>押川真喜子監 写真でわかる訪問看護アドバンス 新訂第 2 版 インターメディカ 2023</p>					
<p>【評価方法】</p> <p>授業終了時のポストテスト（20 点）、課題レポートを含む演習への取り組み・成果（個人・グループ）（80 点）</p> <p>課題レポートは指定された日時までに提出してください。指定日時までに提出されたものを評価の対象とします。</p>					
<p>【受講上の注意】</p> <p>事前学習や復習など自分で学習スケジュールを立て、計画的に行っていきましょう。</p> <p>演習は周囲に迷惑をかけないようにしましょう。</p>					

科目 No.58

分野	専門分野	科目	精神看護学：精神看護の概論			
必修・選択	必修	単位数 時間数（回数）	1 単位 30 時間（15 回）	配当時期	2 年前期	
講師名	藤松正行	所属および実務経験	専任教員／看護師			
	畝地祥治		地域活動支援センター心の春希望/ 精神保健福祉士			
	松本和奈		福岡保養院/公認心理師			
	井上直樹		宮松病院/作業療法士			
【科目のねらい】 現代社会における生活を営む上での視点から、人間の成長発達、精神の健康段階、人間関係、生活の場と環境の関係性を学び、精神を病む危険性は誰にでもあることを理解し、精神医療・看護の歴史の変遷、倫理と人権の学習を踏まえ精神看護の基本的な考え方、役割を学んでいきましょう。						
【目的】精神看護の基本的な概念、理論、歴史の変遷、治療について理解し、こころの健康および障害のある人への看護の基礎を養う。						
【到達目標】 1. こころの健康保持・増進について説明することができる。 2. 精神障がい者の処遇と医療、看護の歴史を学び現在の問題点と今後の展望について説明することができる。 3. 精神看護の対象及び看護の特徴、患者の思いについて説明することができる。 4. プロセスレコードを理解し、自己洞察、患者—看護師関係についてのアセスメントの重要性を説明することができる。						
【DPとの関連】 DP1 人々の様々な価値観を尊重したコミュニケーションを図り、より良い人間関係を築くことができる。 DP2 看護専門職の役割と責務を自覚し、倫理的判断に基づく看護実践やリーダーシップを示すことができる。 DP5 多様な場で生活するあらゆる人々の健康に着目し、地域包括ケアシステム、チーム医療や多職種との連携・協働の視点を持ち看護を実践することができる。						
【授業の流れ】（全体スケジュール・学習内容・方法等）						
回	日程	1組	2組	学習内容	方法	備考
1	4/15	3		・「心のケア」と日本社会 ・精神障害をもつ人の病いの体験と精神看護	講義 演習 課題レポート(5)	畝地祥治
2	4/15	4		・精神看護の課題 ・精神看護学とは何か	講義 演習 ポストテスト(3)	藤松正行
3	4/19	3		・精神の健康とは ・心身の健康に及ぼすストレスの影響 ・コーピング ・精神的安寧を保つためのケア	講義 演習	
4	4/19	4		・心的外傷（トラウマ）と回復 ・レジリエンス ・精神障害という考え方 ・3つの予防概念	講義 ポストテスト(5)	
5	4/22	3		・精神障害という考え方 ・心の理論 ・エリクソン ・ポウルビー・コフト ・トラベルビー 人間対人間の関係モデル ・ペプロウ 人間関係の看護論 ・オレム セルフケア理論 ・ピアジェ 発生的認識論	講義 演習	
6	4/22	4			講義 演習 ポストテスト(5) 課題レポート(5)	
7	4/26	4		・システムとしての人間関係 ・全体としての家族 ・人間と集団	講義 ポストテスト(3)	
8	5/8	1		・精神障害と治療の歴史 ・日本における精神医学、精神医療の流れ ・精神障害と文化 ・精神障害と社会学	講義	
9	5/8	2			講義 ポストテスト(3)	
10	5/15	1		医療の場におけるメンタルヘルスと看護	講義	
11	5/15	2		看護における感情労働と看護師のメンタルヘルス バーンアウトシンドローム	講義 ポストテスト(3)	

12	5/22	1	プロセスレコード	講義 演習	
13	5/22	2		講義 演習 ポストテスト(3) 課題(5)	
14	5/27	1	・心理検査 ・精神療法 ・個人療法 ・集団精神療法 ・家族療法 ・SST の体験 ・さまざまな回復のためのプログラム ・心身の健康に及ぼすストレスの影響、心的外傷（トラウマ）	講義 演習 ポストテスト(5)	松本和奈
15	5/27	2	・回復の意味 ・リカバリーのビジョン ・環境療法 社会療法	講義 演習 ポストテスト(5)	井上直樹
6月3日(月) 1限目			終了試験		
<p><b>【準備学習内容】</b></p> <p>テキストによる事前学習をしっかりと行いましょう。テキスト学習をふまえて授業は進んでいきます。</p> <p>重要な箇所にはマーカーする、ディスカッション時に活用できるようポイントをメモしておくなど工夫し自己学習しましょう。</p> <p>1 回目の前に『目で見える精神看護（第2版） 精神科医療と福祉の現状』、『目で見える精神看護（第2版） 病院から地域社会へ 知っておきたい社会資源』を視聴し、講義を受講しましょう。また 2 回目講義後にレポート課題の提出があります。事前に心の問題に関するニュースに関心を持ち調べてきたこと、思ったことを含め、講義で当事者の体験を聞き、精神看護とは何か、看護師としてどのような関わりをする必要があるのか考えたことを記載して提出します。</p> <p>3・4 回目の講義までに「精神的安寧を保つためのケア」についてノートを作成しておきましょう。グループワークに活用します。</p> <p>5 回目～6 回目の学習内容に掲載されている理論家や理論について図書室の本やテキストで調べ、どのような人物か、理論の内容について具体的にノートにまとめておきましょう。学習した内容については、授業後課題レポートとして提出となります。</p> <p>12 回目の講義までに、今までの基礎実習などによる患者とのやり取りをプロセスレコードとして記載し、課題として提出して下さい。プロセスレコードは授業終了後、再提出となります。</p>					
<p><b>【使用するテキスト】</b></p> <p>武井麻子他著 系統看護学講座 専門分野 精神看護学 [1] 精神看護の基礎 医学書院 2021</p> <p>武井麻子他著 系統看護学講座 専門分野 精神看護学 [2] 精神看護の展開 医学書院 2021</p> <p>城ヶ端初子著 実践に活かす 看護理論 サイオ出版 2020</p>					
<p><b>【参考文献】</b></p> <p>岩崎弥生他著 新体系 看護学全書 精神看護学① 精神看護学概論/精神保健 第6版 メヂカルフレンド社 2021</p> <p>岩崎弥生他著 新体系 看護学全書 精神看護学② 精神障害をもつ人の看護 第6版 メヂカルフレンド社 2021</p> <p>山本勝則他編著 看護実践のための根拠がわかる 精神看護技術 第2版 メヂカルフレンド社 2015</p> <p>ニュートン別冊 精神科医が語る精神の病気 増補第2版 ニュートンプレス 2021</p>					
<p><b>【評価方法】</b></p> <p>授業終了時のポストテスト（35点）、課題・レポートを含む演習への取り組み・成果（15点）、筆記試験(50点)</p> <p>課題レポートは指定された日時までに提出してください。指定日時までに提出されたものを評価の対象とします。</p>					
<p><b>【受講上の注意】</b></p> <p>現代社会は、心の健康問題を抱える人が多くいます。皆さんと同じ世代でも起こっている悲しい事件もあります。自然災害によって心の傷を負っている人も少なからずいます。そういう現実を目を向けると、精神的看護の需要が高まっています。看護師として基盤となる、精神的看護は重要です。だからこそ真剣に受講し、主体的に学んでください。事前学習や復習など自分で学習スケジュールを立て、計画的に行なっていきましょう。</p>					

科目 No.59

分野	専門分野	科目	精神看護学：精神看護の方法Ⅰ			
必修・選択	必修	単位数 時間数（回数）	1 単位 30 時間(15 回)	配当時期	2 年前期	
講師名	永山博史	所属および実務経験	医療法人緑心会 福岡保養院 師長／看護師			
	西原勝幸		医療法人緑心会 福岡保養院 副師長／看護師			
	入江正光		セノーテ訪問看護ステーション所長／精神看護専門看護師			
【科目のねらい】 精神障がい者のもつ疾患からくる生活のしづらさに焦点をあて、そこで必要な看護、具体的技術について学びます。精神における治療場面での患者－看護師関係の構築の仕方、治療的関わりを形成するための対人関係の技術を学びます。また、地域の精神疾患患者が、その人らしく生活するための看護を法律も含め学びましょう。						
【目的】主な精神症状のある対象への看護や心の健康維持を看護の場の違いから理解し、こころのケア（精神看護）の基礎を養う。						
【到達目標】 1. 治療的人間関係について説明することができる。 2. 安全を守るための病棟環境、人権を守りながら治療のための行動制限について説明することができる。 3. 主な精神症状に対する看護を説明することができる。 4. 精神障がい者が地域で、その人らしく生活するための支援について説明することができる。						
【DPとの関連】 DP1 人々の様々な価値観を尊重したコミュニケーションを図り、より良い人間関係を築くことができる。 DP3 対象の反応から臨床判断し、健康レベルに応じた看護を科学的根拠に基づき実践することができる。 DP4 対象のQOL（Quality Of Life：生活の質）向上を目指し、対象の持てる力を活かした看護や安心・安全な生活を支援する看護を実践することができる。 DP5 多様な場で生活するあらゆる人々の健康に着目し、地域包括ケアシステム、チーム医療や多職種との連携・協働の視点を持ち看護を実践することができる。						
【授業の流れ】（全体スケジュール・学習内容・方法等）						
回	日程	1組	2組	学習内容	方法	備考
1	6/7	3		ケアの人間関係 ・ケアの前提 ・ケアの原則 ・ケアの方法	講義 ポストテスト(3)	永山博史
2	6/7	4		・患者－看護師関係における感情体験 ・関係の視点からみた困難事例 ・チームのダイナミクス	講義 ポストテスト(3)	
3	6/14	3		・回復の意味 ・リカバリーのビジョン ・ストレングスモデル ・治療の場におけるリカバリーの試みと看護の視点 ・リカバリーを促す環境 ・リカバリーのプロセス	講義	
4	6/14	4		・精神科病棟における安全管理 ・病棟環境の整備 自殺・自殺企図・自傷行為	講義 ポストテスト(3)	
5	6/21	3		・離院 ・隔離身体拘束 ・抑制体験	講義 演習 課題レポート(5)	
6	6/21	4		主な疾患症状に対する看護 統合失調症 妄想性障害 双極性障害 うつ病 アルコール依存症 認知症	講義 ポストテスト(3)	
7	6/28	3		・障がいを持つ子どもへの看護	講義 ポストテスト(3)	
8	6/28	4		自閉スペクトラム障害 注意欠如・多動性障害 強迫性障害 神経性やせ症摂食制限型	講義 ポストテスト(3)	
9	7/4	3		入院治療の意味 ・精神科を受診するということ ・治療の器としての病院・病棟 ・入院中の観察とアセスメント	講義 ポストテスト(各3)	西原勝幸
10	7/4	4		・ケアの方向性を考える ・退院に向けての支援とその実際	9.10 回	
11	7/11	4				
12	7/18	3		・身体をケアする ・精神科における身体のケア ・精神科における身体を通じた看護ケアの実際 精神科の治療に伴う身体のケア ・薬物療法を受ける患者のケア ・身体合併症のアセスメントとケア ・精神科における終末期ケア	講義・演習 ポストテスト(各3)	11.12.13 回
	7/25		3			
13	7/18	4				
	7/25		4			

14	7/23	2	・地域におけるケアと支援 ・「器」としての地域 ・地域における生活支援の方法 ・地域におけるケアの方法と実際 ・学校におけるメンタルヘルスと看護 ・職場におけるメンタルヘルスと精神看護	講義・演習 ポストテスト(3)	入江正光
15	7/23	3		講義・演習 ポストテスト(3)	
8月26日(月) 2限目			終了試験		
<p><b>【準備学習内容】</b></p> <p>疾病と治療Ⅴや社会保障・社会福祉と連携の学習を活用できるように復習しておきましょう。</p> <p>テキストによる事前学習をしっかりと行いましょう。テキスト学習を踏まえて授業は進んでいきます。</p> <p>重要な箇所にはマーカーする、ディスカッション時に活用できるようポイントをメモしておくなど工夫し自己学習しましょう。</p> <p>5回目演習の後に自身の考えをまとめたレポート提出があります。</p> <p>4回目～8回目、11回目～13回目の講義内容は実習に直接活かされる内容です。授業前に余白を開けてルーズリーフにまとめておきましょう。授業後、さらに余白に追加し実習前に提出してください。</p> <p>動画視聴：</p> <p>1回目は精神疾患・障害の基礎知識 02 今日の精神科医療を視聴し、講義を受講しましょう。</p> <p>6～8回目までに精神疾患・障害の基礎知識</p> <p>01 精神機能と障害、03 統合失調症、04 うつ病 双極性障害、05 不安症 強迫症、06 物質依存症、07 認知症</p> <p>08 児童の精神障害 発達障害、09 青年期の精神障害、10 睡眠障害 を視聴し、講義を受講しましょう。</p>					
<p><b>【使用するテキスト】</b></p> <p>武井麻子他著 系統看護学講座 専門分野 精神看護学 [1] 精神看護の基礎 医学書院 2024</p> <p>武井麻子他著 系統看護学講座 専門分野 精神看護学 [2] 精神看護の展開 医学書院 2024</p>					
<p><b>【参考文献】</b></p> <p>岩崎弥生他著 新体系 看護学全書 精神看護学① 精神看護学概論/精神保健 第6版 メヂカルフレンド社 2024</p> <p>岩崎弥生他著 新体系 看護学全書 精神看護学② 精神障害をもつ人の看護 第6版 メヂカルフレンド社 2024</p> <p>山本勝則他編著 看護実践のための根拠がわかる 精神看護技術 第2版 メヂカルフレンド社 2015</p> <p>ニュートン別冊 精神科医が語る精神の病気 増補第2版 ニュートンプレス 2021</p>					
<p><b>【評価方法】</b></p> <p>授業終了時のポストテスト（39点）、課題レポートを含む演習への取り組み・成果（5点）、</p> <p>筆記試験(永山先生：24点・西原先生：20点・入江先生：12点)</p>					
<p><b>【受講上の注意】</b></p> <p>実習で活用できる具体的な内容を学べます。予習復習でノートをまとめておくと、実習にも役立ちますので、主体的に授業に参加してください。</p> <p>事前学習や復習など自分で学習スケジュールを立て、計画的に行なっていきましょう。</p>					

科目 No.60

分野	専門分野	科目	精神看護学：精神看護の方法Ⅱ			
必修・選択	必修	単位数 時間数（回数）	1 単位 30 時間(15 回)	配当 時期	2 年後期	
講師名	藤松正行	所属および実務経験	専任教員／看護師			
	畝地祥治		地域活動支援センター心の春希望/ 精神保健福祉士			
【科目のねらい】 精神看護の概論、精神看護の方法Ⅰの知識を統合し、看護事例を看護過程展開し、実践します。また、精神福祉の社会資源について学びを活かし、実際福岡の地域ではどのような支援がなされているのか、支援の現状とニーズを知りましょう。地域の特性や個別の状態によって支援の内容が違いを知り、今後どのような支援が必要か考えてみましょう。						
【目的】精神疾患及び精神症状のある患者への看護の理解、及び精神における社会資源の活用や多職種連携について学び、精神看護を実践する基礎を養う。						
【到達目標】 1. 精神科における安全を守るための具体的対策を説明することができる。 2. 災害時のメンタルヘルスの支援について説明することができる。 3. ストレンクスやリカバリーに着目した看護を実践するための対策や方法について説明できる。 4. 地域で生活するための支援や多職種連携の実際を調べ、説明し、全員で共有することができる。 5. 当事者の気持ちを知り、相手の立場になって考え、授業で学んだことも含めた自分の看護観を表現することができる。						
【DPとの関連】 DP1 人々の様々な価値観を尊重したコミュニケーションを図り、より良い人間関係を築くことができる。畝 DP2 看護専門職の役割と責務を自覚し、倫理的判断に基づく看護実践やリーダーシップを示すことができる。 DP3 対象の反応から臨床判断し、健康レベルに応じた看護を科学的根拠に基づき実践することができる。 DP4 対象のQOL（Quality Of Life：生活の質）向上を目指し、対象の持てる力を活かした看護や安心・安全な生活を支援する看護を実践することができる。 DP5 多様な場で生活するあらゆる人々の健康に着目し、地域包括ケアシステム、チーム医療や多職種との連携・協働の視点を持ち看護を実践することができる。 DP6 心身の健康管理能力及び社会人基礎力や情報活用能力を発展させ、看護の質の向上を目指し、自ら学び続ける姿勢を表現することができる。						
【授業の流れ】（全体スケジュール・学習内容・方法等）						
回	日程	1 組	2 組	学習内容	方法	備考
1	7/26	3		福岡市で行われている精神障がい者、家族、地域住民に対する支援の現状とニーズを捉える。 (精神障がい者に対する、福岡県内の各市区町村に現存する福祉サービスを調べる。事業所や施設など、支援や関わる多職種連携など活動内容を調べてまとめ、さらに今後どのような支援が各地域に必要かを考え、学生が福祉サービスの内容を考え、発表会を実施する。)	演習	藤松正行
2	7/26	4			演習	
3	8/29	4		学習内容の発表（福岡県各地での福祉サービスの現状と学生の考える福祉サービス）	演習 課題レポート(10)	畝地祥治 藤松正行
4	10/16	4		・うつ病患者の自殺願望のある患者の看護 ロールプレイ ・精神的安寧を保つためのケア、コミュニケーション ・対象の状況や症状に対応したコミュニケーション ・傾聴技術	演習 講義 ポストテスト（3）	藤松正行
5	10/21	4		・ゲートキーパー養成講座（自殺予防） 出前授業 60 分 ・精神的安寧を保つためのケア ・教員によるまとめ	講義 課題レポート(5)	
6	10/29	1		・安全をまもるための行動制限について 賛成か反対か	演習	
7	10/29	2		ディバートのための調べ学習に 市立図書館、精神保健センターなど行ってよい	演習	

8	11/14	3	・災害時のメンタルヘルスと看護	演習 講義 課題レポート(5)	藤松正行	
9	11/14	4		演習 講義 ポストテスト (4)		
10	11/18	1	・実習で活かす看護論 ・オレムアンダーウッドモデル ・ストレングスマデル ・メンタルステータス イグザミネーション 精神科で使用する主な看護診断 ・記録用紙説明	講義 ポストテスト (3)		
11	11/18	3	2	・統合失調症 事例展開 情報収集 ・情報収集は模擬患者にて行う ・対象の状況や症状に対応したコミュニケーション		演習
12	11/28	3	・統合失調症 事例展開 看護計画 ロールプレイに向け演習	演習		
13	11/28	4	実施 評価 (ロールプレイ) 対象の状況やアセスメント病状に対応したコミュニケーション	演習		
14	12/2	1	実施後のプロセスレコード発表 リフレクション	演習 講義 課題レポート(5)		
15	12/2	2	看護観発表 授業のまとめ	演習 課題レポート(5)		
12月9日(月) 1限目			終了試験			
<p>【準備学習内容】</p> <p>テキストによる事前学習をしっかりと行いましょう。テキスト学習を踏まえて授業は進んでいきます。事前学習はノートを作って、実習に活かせるように整理をしておきましょう。</p> <p>重要な箇所にはマーカーする、ディスカッション時に活用できるようポイントをメモしておくなど工夫し自己学習しましょう。</p> <p>1・2回目は、グループワークです。講義計画を確認し、県内に現存する就労支援や生活支援に関する福祉サービスの資料の収集と障がい者総合支援法に関する学習を事前に行っておき持参しましょう。3回目は1・2回目の学習成果の発表会を行います。発表会は計画書を確認し準備をしましょう。</p> <p>4回目～5回目は、うつ病患者の看護に関する授業資料を予習し持参しておきましょう。5回目の講座で学んだことの課題レポートの提出をしてください。ゲートキーパー養成講座後に参加者は受講終了証を授与されます。</p> <p>6・7回目は、ディベートのためにまとめた個人の資料と自身の意見を書いた用紙を用意してください。書いた用紙はグループ編成のために事前に一旦提出してもらいます。</p> <p>8回目までに、『災害時のこころのケア』に関する事例を調べましょう、災害が被災者にどのような影響・被害を及ぼすのか調べ事前にまとめましょう、レポートとして授業時、持参して下さい。授業終了後、学びや所感を課題レポートとして提出となります。</p> <p>11・12回目は、事前に自宅で統合失調症の患者の看護について学習し、講義資料を持参しておきましょう。授業終了後、情報収集・アセスメント・看護計画の続きは自己学習の時間を活用しましょう。</p> <p>13回目は、授業終了後、実施・評価・プロセスレコードの課題は自己学習の時間を活用しましょう。</p> <p>15回目は、看護観の発表及び提出となります。</p> <p>課題の提出日はその都度提示します。課題は自己学習の時間を活用して計画的に行いましょう。</p>						
<p>【使用するテキスト】</p> <p>武井麻子他著 系統看護学講座 専門分野 精神看護学 [1] 精神看護の基礎 医学書院 2024</p> <p>武井麻子他著 系統看護学講座 専門分野 精神看護学 [2] 精神看護の展開 医学書院 2024</p>						
<p>【参考文献】</p> <p>岩崎弥生他著 新体系 看護学全書 精神看護学① 精神看護学概論/精神保健 第6版 メヂカルフレンド社 2021</p> <p>岩崎弥生他著 新体系 看護学全書 精神看護学② 精神障害をもつ人の看護 第6版 メヂカルフレンド社 2021</p> <p>武藤教志著 他科に誇れる精神科看護の専門技術 MENTAL STATUS EXAMINATION 1 第2版 精神看護出版 2021</p> <p>武藤教志著 他科に誇れる精神科看護の専門技術 MENTAL STATUS EXAMINATION 2 第2版 精神看護出版 2021</p> <p>ニュートン別冊 精神科医が語る精神の病気 増補第2版 ニュートンプレス 2021</p>						
<p>【評価方法】</p> <p>ポストテスト (10点) .課題レポートを含む演習への取り組み・成果 (30点) 、筆記試験 (60点) 、 課題レポートは指定された日時までに提出してください。指定日時までに提出されたものを評価の対象とします。</p>						
<p>【受講上の注意】</p> <p>実習に関係する看護過程を行います。実習で活用できるように、主体的に学習していきましょう。グループワークは、学生であること、学習の一環であること</p>						

とを忘れず、真剣に取り組みましょう。

発表会や演習は学生が主体的に進めるよう計画書を確認し、学習委員を中心に取り組みましょう。

事前学習や復習などテキストを見るだけ、線を引くだけでなく、ノートを作りましょう。自分で学習スケジュールを立て、計画的に行なっていきましょう。

不明な点があれば、C-ラーニングを活用し、連絡調整を行いましょう。

科目 No.61

分野	専門分野	科目	母性看護学：母性看護の概論			
必修・選択	必修	単位数 時間数（回数）	1 単位 30 時間（15 回）	配当時期	2 年前期	
講師名	坂井美緒	所属および実務経験	専任教員／助産師			
<p>【科目のねらい】</p> <p>母性看護学はリプロダクティブヘルス/ライツの理念を看護の基盤として、看護の対象及び看護の機能と役割を理解し、看護実践に必要な基礎的な能力を養うことを目指しています。</p> <p>ここでは、時代の変遷とともに拡大する母性看護の役割と、女性の生涯を通じた健康の維持・増進のための看護を基盤として、次世代の健全育成を目指す看護について学習していきましょう。また、女性ホルモンの状態からライフサイクルごとに生じる健康問題、母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状、女性とリプロダクティブヘルス/ライツをめぐる課題についても、考えてみましょう。</p>						
<p>【目的】リプロダクティブヘルス/ライツの観点から、母性看護を実践する基盤を養う。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 母性看護の基盤となる概念や理論について記述することができる。</li> <li>2. 母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状について考察することができる。</li> <li>3. 女性のライフステージ各期における健康障害と看護について記述することができる。</li> <li>4. リプロダクティブヘルスケアについて記述することができる。</li> <li>5. 性と生殖にかかわる倫理について考察することができる。</li> </ol>						
<p>【DPとの関連】</p> <p>DP1 人々の様々な価値観を尊重したコミュニケーションを図り、より良い人間関係を築くことができる。</p> <p>DP2 看護専門職の役割と責務を自覚し、倫理的判断に基づく看護実践やリーダーシップを示すことができる。</p> <p>DP4 対象のQOL（Quality Of Life：生活の質）向上を目指し、対象の持てる力を活かした看護や安心・安全な生活を支援する看護を実践することができる。</p> <p>DP5 多様な場で生活するあらゆる人々の健康に着目し、地域包括ケアシステム、チーム医療や多職種との連携・協働の視点を持ち看護を実践することができる。</p> <p>DP6 心身の健康管理能力及び社会人基礎力や情報活用能力を発展させ、看護の質の向上を目指し、自ら学び続ける姿勢を表現することができる。</p>						
<p>【授業の流れ】（全体スケジュール・学習内容・方法等）</p>						
回	日程	1 組	2 組	学習内容	方法	備考
1	4/3	1		母性看護の基盤となる概念 母性とは、ヘルスプロモーション	講義	坂井 美緒
2	4/3	2		母子関係と家族発達：愛着・母子相互作用と母子関係形成（発達理論、アタッチメント理論、母親役割獲得、母子相互作用）家族機能と発達課題 リプロダクティブヘルス/ライツ	講義	
3	4/9	3		セクシュアリティ：セクシュアリティに関する概念、性的マイノリティ	講義 ポストテスト（3）	
4	4/9	4		母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状 母性看護の歴史的変遷と現状：母性看護にかかわる指標とその推移、母性看護にかかわる法律	講義 ポストテスト（3）	
5	4/15	1		母性看護の歴史的変遷と現状：母性看護にかかわる施策 母性看護の提供システム	講義 ポストテスト（4）	
6	4/15	2		母性看護の対象理解 女性のライフサイクルにおける形態・機能の変化：生殖器の形態・機能（月経周期）、性分化、妊娠の成立	講義 ポストテスト（4） 課題レポート(5)	
7	5/17	3		女性のライフサイクルと家族（家族理論）	講義	
8	5/17	4		女性のライフステージ各期における看護、リプロダクティブヘルスケア 思春期の健康と看護 性感染症とその予防	講義 演習 課題レポート(5)	

9	5/24	3	家族計画 人工妊娠中絶と看護	講義	坂井 美緒
10	5/24	4	月経異常 成熟期の健康と看護	講義・演習 課題レポート(5)	
11	5/28	3	性暴力を受けた女性に対する看護	講義	
12	5/28	4	喫煙と女性の健康 国際化社会と看護	演習 課題レポート(5)	
13	6/4	3	更年期・老年期の健康と看護	演習 課題レポート(5)	
14	6/4	4	出生前からのリプロダクティブヘルスケア 不妊治療と看護	講義 ポストテスト (3)	
15	6/10	1	遺伝相談・出生前診断	講義 ポストテスト (3)	
6月17日(月) 2限目			終了試験		
<p>【準備学習内容】</p> <p>テキストによる事前学習をしっかりと行いましょう。テキスト学習を踏まえて授業は進んでいきます。</p> <p>重要な箇所にはマーカーする、ディスカッション時に活用できるようポイントをメモしておくなど工夫し自己学習しましょう。</p> <p>わからない語句について調べておきましょう。一人ひとりが調べ学習をしっかりと行い、演習が効果的な時間となるよう努めましょう。</p> <p>6回目までに、女性生殖器の解剖生理についてワークシートに取り組み、授業時、持参してください。授業後提出となります。</p> <p>8回目までに、思春期女性の特徴についてワークシートに取り組み授業時持参してください。授業後提出となります。</p> <p>10回目までに、成熟期女性の特徴についてワークシートに取り組み授業時持参してください。授業後提出となります。</p> <p>12回目までに、喫煙の健康への影響についてワークシートに取り組み授業時持参してください。授業後提出となります。</p> <p>13回目までに、更年期女性・老年期女性の特徴について、ワークシートに取り組み授業時持参してください。授業後提出となります。</p> <p>動画視聴：6回目までに「看護教育シリーズ 生体のしくみ vol.20 生殖のしくみ」を視聴しイメージ化を図っておきましょう。</p> <p>15回目までに「医学教育シリーズ 目で見える病気 vol.6 先天異常と遺伝子異常」を視聴しイメージ化を図っておきましょう。</p>					
<p>【使用するテキスト】</p> <p>森恵美他著 系統看護学講座 専門分野 母性看護学 [1] 母性看護学概論 医学書院 2024</p> <p>森恵美他著 系統看護学講座 専門分野 母性看護学 [2] 母性看護学各論 医学書院 2024</p>					
<p>【参考文献】</p> <p>安藤雄一他監 公衆衛生がみえる メディックメディア 2022-2023</p>					
<p>【評価方法】</p> <p>授業終了時のポストテスト(20点)、課題レポートを含む演習への取り組み・成果(25点)、筆記試験(55点)</p> <p>課題レポートは指定された日時までに提出してください。指定日時までに提出されたものを評価の対象とします。</p>					
<p>【受講上の注意】</p> <p>事前学習や復習など自分で学習スケジュールを立て、計画的に行っていきましょう。</p>					

科目 No.62

分野	専門分野	科目	母性看護学：母性看護の方法Ⅰ			
必修・選択	必修	単位数 時間数（回数）	1 単位 30 時間（15 回）	配当時期	2 年全期	
講師名	椎葉美千代	所属および実務経験	助産師			
	坂井美緒		専任教員／助産師			
<p>【科目のねらい】</p> <p>母性看護学はリプロダクティブ/ライツの理念を看護の基盤として、看護の対象及び看護の機能と役割を理解し、看護実践に必要な基礎的な能力を養うことを目指しています。ここでは、妊娠・分娩・産褥期にある対象、および新生児の正常な経過を理解しましょう。ウェルネスの視点から、妊娠および出産に関わる健康課題や、健康問題を明らかにし、基礎的な看護の方法を理解していきましょう。</p>						
<p>【目的】妊娠・分娩・産褥・新生児の身体的・精神的・社会的変化および胎児の成長発達と新生児の生理的特徴とその看護について理解し、基礎的知識を養う。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 妊娠・分娩・産褥期各期の生理的变化を説明することができる。</li> <li>2. 妊娠・分娩・産褥期各期にある対象者へ看護の方法について説明することができる。</li> <li>3. 新生児の生理、および体外生活の適応への援助について述べるができる。</li> </ol>						
<p>【DPとの関連】</p> <p>DP1 人々の様々な価値観を尊重したコミュニケーションを図り、より良い人間関係を築くことができる。</p> <p>DP2 看護専門職の役割と責務を自覚し、倫理的判断に基づく看護実践やリーダーシップを示すことができる。</p> <p>DP3 対象の反応から臨床判断し、健康レベルに応じた看護を科学的根拠に基づき実践することができる。</p> <p>DP4 対象のQOL（Quality Of Life：生活の質）向上を目指し、対象の持てる力を活かした看護や安心・安全な生活を支援する看護を実践することができる。</p> <p>DP5 多様な場で生活するあらゆる人々の健康に着目し、地域包括ケアシステム、チーム医療や多職種との連携・協働の視点を持ち看護を実践することができる。</p> <p>DP6 心身の健康管理能力及び社会人基礎力や情報活用能力を発展させ、看護の質の向上を目指し、自ら学び続ける姿勢を表現することができる。</p>						
<p>【授業の流れ】（全体スケジュール・学習内容・方法等）</p>						
回	日程	1 組	2 組	学習内容	方法	備考
1	6/12	1		妊娠期の看護：妊娠期の身体的特性	講義	椎葉美千代
2	6/12	2		妊娠期の看護：妊娠期の心理・社会的特性	講義	
3	6/18	1		妊娠期の看護：妊婦と胎児のアセスメント	講義 ポストテスト(3)	
	6/26		1	妊婦の健康相談・教育、親になるための準備教育		
4	6/18	2		妊娠期の看護の実際：	演習 ポストテスト(3)	
	6/26		2	内診時の介助、レオポルド触診法、腹囲・子宮底測定、胎児心音聴取		
5	6/28	1		分娩期の看護：分娩の要素、分娩の経過	講義	坂井美緒
6	6/28	2		分娩期の看護：産婦・胎児・家族のアセスメント	講義 ポストテスト(3)	
7	6/26	3		分娩期の看護：産婦と家族の看護	講義	
8	7/2	3		分娩期の看護の実際：産痛緩和法 基本的ニードへの看護 母子早期接触	演習 ポストテスト(3)	
9	7/3	3	4	新生児期の看護：新生児の生理	講義	
10	7/5	1		新生児期の看護：新生児のアセスメント 出生直後の看護、出生後から退院までの看護、生後1か月健診に向けた退院時の看護	講義 ポストテスト(3)	
		1	3	新生児の看護の実際：新生児の抱き方 オムツ交換 臍処置 バイタルサイン 測定 沐浴		
12	7/9	2	4	産褥期の看護：産褥期の経過	講義	

13	7/17	1	産褥期の看護：褥婦のアセスメント	講義	坂井美緒
14	7/17	2	産褥期の看護：褥婦と家族の看護 退院後の看護	講義 ポストテスト(3)	
15	7/17	4	3	産褥期の看護の実際：乳房の手当て 授乳介助 悪露の観察 産褥体操	
7月23日(火) 1限目			終了試験		
<p><b>【準備学習内容】</b></p> <p>テキストによる事前学習をしっかりと行いましょう。テキスト学習を踏まえて授業は進んでいきます。</p> <p>重要な箇所にはマーカーする、ディスカッション時に活用できるようなポイントをメモしておくなど工夫し自己学習しましょう。わからない語句について調べておきましょう。</p> <p>4回目の演習に向けてテキスト巻末にある QR コード（レオポルド触診法、母体計測法、超音波）を読み取り動画を視聴しイメージ化を図っておきましょう。</p> <p>8回目の演習に向けてテキスト巻末にある QR コード（圧迫法、腹部のマッサージ法、腹部以外のマッサージ法、分娩時の安楽な体位）を読み取り動画を視聴しイメージ化を図っておきましょう。</p> <p>11回目の演習に向けて、テキスト「周産期マニュアル」を見て新生児の沐浴の手順書をレポートにまとめて、授業時持参してください。授業後提出となります。また、テキスト巻末にある QR コード（新生児の看護全般）を読み取り動画を視聴しイメージ化を図っておきましょう。</p> <p>15回目の演習に向けて、乳房の観察と授乳支援、子宮復古の観察とケアについてワークシートに取り組み、授業時持参してください。授業後提出となります。</p> <p><b>動画視聴：</b></p> <p>1回目の講義開始までに、「看護教育シリーズ 周産期の実際と支援 vol.1 周産期の実際」を視聴しイメージ化を図っておきましょう。</p> <p>5回目の講義開始までに、「看護教育シリーズ 目で見える新生児看護 vol.3 胎外環境への適応生理（1）呼吸機能の観察とアセスメント」を視聴しイメージ化を図っておきましょう。</p> <p>9回目の講義開始までに、「看護教育シリーズ目で見える新生児看護 vol.3 胎外環境への適応生理（1）,（2）」を全て視聴しイメージ化を図っておきましょう。</p> <p>12回目の講義開始までに、「看護教育シリーズ 産褥経過のアセスメントと支援の実際 vol.2 産褥早期の母親へのアセスメントと支援」を視聴しイメージ化を図っておきましょう。</p>					
<p><b>【使用するテキスト】</b></p> <p>森恵美他著 系統看護学講座 専門分野 母性看護学〔1〕 母性看護学概論 医学書院 2024</p> <p>森恵美他著 系統看護学講座 専門分野 母性看護学〔2〕 母性看護学各論 医学書院 2024</p> <p>立岡弓子他 新訂版 周産期ケアマニュアル 第3版 サイオ出版 2020</p>					
<p><b>【参考文献】</b></p> <p>佐世正勝他 ウエルネスからみた母性看護過程＋病態関連図 第4版 医学書院 2021</p>					
<p><b>【評価方法】</b></p> <p>授業終了時のポストテスト（25点）、課題レポート（10点）、チェックリストを用いた沐浴技術試験（10点）、筆記試験（55点）</p> <p>椎葉美千代：ポストテスト（6点）、筆記試験（15点）</p> <p>坂井美緒：ポストテスト（19点）、課題レポートを含む演習への取り組み（10点）、実技試験（10点）、筆記試験（40点）</p> <p>課題レポートやチェックリストは指定された日時までに提出してください。指定日時までに提出されたものを評価の対象とします。</p> <p>到達レベル 演習Ⅰ：新生児の沐浴・清拭</p> <p>到達度の確認は、以下のいずれかで行う。詳細は別紙参照。</p> <p>演習中の技術確認、チェックリストを活用したグループ学習の自己評価と他者評価の提出、自己練習後の動画提出、対面による技術試験など</p>					
<p><b>【受講上の注意】</b></p> <p>事前学習や復習など自分で学習スケジュールを立て、計画的に行っていきましょう。</p> <p>チェックリストを用いて自己評価を行ないながら技術練習していきましょう。</p>					

科目 No.63

分野	専門分野	科目	母性看護学：母性看護の方法Ⅱ			
必修・選択	必修	単位数 時間数（回数）	1 単位 30 時間（15 回）	配当時期	2 年後期	
講師名	尾上純子	所属および実務経験	九州医療センター／助産師			
	池田百華		九州医療センター／助産師			
	森下佳子		九州医療センター／助産師			
	坂井美緒		専任教員／助産師			
【科目のねらい】						
<p>母性看護学はプロダクティブ/ライツの理念を看護の基盤として、看護の対象及び看護の機能と役割を理解し、看護実践に必要な基礎的な能力を養うことを目指しています。ここでは、正常な経過から逸脱し異常な状態にある妊娠・分娩・産褥期にある対象、および新生児の経過を理解し、適切な看護を行うための知識と方法を学んでいきます。また身体的特徴と心理・社会的特性を踏まえて、対象者の看護を考える基盤を養う機会にしていましよう。</p>						
【目的】正常な経過から逸脱し異常な状態にある妊娠・分娩・産褥期および新生児の特徴と看護及び科学的根拠に基づき母性看護を実践できる基礎的能力を養う。						
【到達目標】						
<p>1. 妊娠・分娩・産褥期各期の異常と看護について述べるができる。</p> <p>2. 新生児の異常と看護について述べるができる。</p>						
【DPとの関連】						
<p>DP1 人々の様々な価値観を尊重したコミュニケーションを図り、より良い人間関係を築くことができる。</p> <p>DP2 看護専門職の役割と責務を自覚し、倫理的判断に基づく看護実践やリーダーシップを示すことができる。</p> <p>DP3 対象の反応から臨床判断し、健康レベルに応じた看護を科学的根拠に基づき実践することができる。</p> <p>DP4 対象のQOL（Quality Of Life：生活の質）向上を目指し、対象の持てる力を活かした看護や安心・安全な生活を支援する看護を実践することができる。</p> <p>DP5 多様な場で生活するあらゆる人々の健康に着目し、地域包括ケアシステム、チーム医療や多職種との連携・協働の視点を持ち看護を実践することができる。</p> <p>DP6 心身の健康管理能力及び社会人基礎力や情報活用能力を発展させ、看護の質の向上を目指し、自ら学び続ける姿勢を表現することができる。</p>						
【授業の流れ】（全体スケジュール・学習内容・方法等）						
回	日程	1 組	2 組	学習内容	方法	備考
1	11/5	1		妊娠期の異常と看護：1. ハイリスク妊娠 2. 妊娠期の感染	講義 ポストテスト（5）	尾上純子
2	11/5	2		妊娠期の異常と看護：1. 妊娠疾患 2. 異所性妊娠 3. 多胎妊娠	講義 ポストテスト（5）	
3	11/12	1		妊娠期の異常と看護：1. 妊娠高血圧症候群 2. 切迫流・早産 3. 妊娠糖尿病	講義 ポストテスト（5）	
4	11/12	2		分娩期の異常と看護：1. 産道の異常 2. 娩出力の異常 3. 胎児の異常による分娩障害	講義 ポストテスト（5）	池田百華
5	11/19	1		分娩期の異常と看護：1. 胎児付属物の異常 2. 胎児機能不全 3. 分娩時異常出血	講義 ポストテスト（5）	
6	11/19	2		分娩期の異常と看護：1. 帝王切開術をうける産婦の看護	講義 ポストテスト（5）	
7	11/26	1		新生児期の異常と看護：1. 新生児仮死 2. 低出生体重児 3. 高ビリルビン血症	講義 ポストテスト（5）	森下佳子
8	11/26	2		産褥期の異常と看護：1. 子宮復古不全 2. 産褥期の発熱	講義 ポストテスト（5）	
9	12/3	1		産褥期の異常と看護：1. 産褥血栓症 2. 精神障害	講義 ポストテスト（5）	

10	12/3	2	産褥期の異常と看護：1. 感染症を有する褥婦 2. 乳房トラブル		講義 ポストテスト (5)		
11	12/3	3	紙上事例による臨床判断 (産褥期・新生児期) 1. 母性看護におけるアセスメントの視点 (ウェルネス) 2. 情報収集・アセスメント技術 3. 褥婦への看護計画		講義・演習 ポストテスト (5)	坂井美緒	
12	12/3	4			講義・演習 ポストテスト (5)		
13	12/9				3		レポート 演習の成果 (40)
	12/10	3					
14	12/9				4		
	12/10	4					
15	12/16	3	4	発表 まとめ			
<p>【準備学習内容】</p> <p>テキストによる事前学習をしっかりと行いましょう。テキスト学習を踏まえて授業は進んでいきます。 重要な箇所にはマーカーする、ディスカッション時に活用できるポイントメモしておくなど工夫し自己学習しましょう。わからない語句について調べておきましょう。</p> <p>1 1 回目までに、正常な新生児の生理的特徴、また、麻酔が身体に及ぼす影響、術後合併症について事前にレポートにまとめておきましょう。授業時に持参してください。授業後提出となります。</p> <p>動画視聴：1 回目の講義開始までに、「看護教育シリーズ 周産期の実際と支援 vol.3 周産期の異常とケア」を視聴しイメージ化を図っておきましょう。</p>							
<p>【使用するテキスト】</p> <p>森恵美他著 系統看護学講座 専門分野 母性看護学〔1〕 母性看護学概論 医学書院 2024 森恵美他著 系統看護学講座 専門分野 母性看護学〔2〕 母性看護学各論 医学書院 2024 立岡弓子他著 新訂版 周産期ケアマニュアル 第3版 サイオ出版 2020</p>							
<p>【参考文献】</p> <p>佐世正勝他 ウェルネスからみた母性看護過程＋病態関連図 第4版 医学書院 2021 村越毅編著 術前・術中・術後のアセスメント&amp;ケアを時系列で網羅！帝王切開バイブル メディカ出版 ペリネイタルケア 2018 竹内正人編著 助産師だからこそ知っておきたい術前・術後の管理とケアの実践 帝王切開のすべて メディカ出版 ペリネイタルケア 2013</p>							
<p>【評価方法】</p> <p>授業終了時のポストテスト (60 点)、課題レポートを含む演習への取り組み・成果 (40 点) 尾上純子：ポストテスト (15 点) 池田百華：ポストテスト (15 点) 森下佳子：ポストテスト (20 点) 坂井美緒：ポストテスト (10 点)、課題レポートを含む演習への取り組み・成果 (40 点) 課題レポートは指定された日時までに提出してください。指定日時までに提出されたものを評価の対象とします。</p>							
<p>【受講上の注意】</p> <p>事前学習や復習など自分で学習スケジュールを立て、計画的に行っていきましょう。</p>							

科目 No.64

分野	専門分野	科目	小児看護学：小児看護の概論			
必修・選択	必修	単位数 時間数（回数）	1 単位 30 時間（15 回）	配当時期	2 年前期	
講師名	木下さゆり	所属および実務経験	専任教員／看護師			
	濱畑善行		福岡市児童相談所 / 児童福祉司			
<p>【科目のねらい】</p> <p>超高齢化社会を迎え、子どもを取り巻く環境は急速に変化しています。子どもの心の問題、子どもの自殺、育児不安や児童虐待など、子どもを取り巻く社会や家族の影響から、多くの問題について考えることが重要です。さまざまな健康レベルの子どもがすこやかに発達し幸せに生きていくことができるように、子どもの権利の尊重、子どもの理解、各期における発達段階の特徴について学びます。また小児看護の役割を考え、小児看護で用いられる理論について学び、子どもを育む家族に対して看護ができるように、小児看護の基盤を学習していきます。</p>						
<p>【目的】さまざまな子どもの特徴を踏まえ、小児看護の基盤となる考え方・理論、援助方法論を理解し、子どもの看護における基礎的能力を養う。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 子どもの特性および小児看護の役割について述べることができる。</li> <li>2. 子どもの権利を尊重した看護について考察することができる。</li> <li>3. 子どもと家族を取り巻く社会について理解し、小児看護との関連性を説明することができる。</li> <li>4. 小児各期の成長・発達について基本的な知識を身につけ他者に説明することができる。</li> <li>5. 子どもにとっての栄養の意義と小児各期の栄養について述べるができる。</li> <li>6. 小児看護の目ざすところについて、考察することができる。</li> </ol>						
<p>【DPとの関連】</p> <p>DP1 人々の様々な価値観を尊重したコミュニケーションを図り、より良い人間関係を築くことができる。</p> <p>DP2 看護専門職の役割と責務を自覚し、倫理的判断に基づく、看護実践やリーダーシップを示すことができる。</p> <p>DP3 対象の反応から臨床判断し、健康レベルに応じた看護を科学的根拠に基づき実践することができる。</p> <p>DP4 対象の QOL（Quality Of Life：生活の質）向上を目指し、対象の持てる力を活かした看護や安心・安全な生活を支援する看護を実践することができる。</p> <p>DP5 多様な場で生活するあらゆる人々の健康に着目し、地域包括ケアシステム、チーム医療や多職種との連携・協働の視点を持ち看護を実践することができる。</p>						
<p>【授業の流れ】（全体スケジュール・学習内容・方法等）</p>						
回	日程	1組	2組	学習内容	方法	備考
1	4/3	3		小児看護の特徴と理念：子どもとは 小児看護とは 小児医療の変遷 小児看護の変遷 小児看護の対象 小児看護の目標と役割	講義	木下 さゆり
2	4/3	4		小児看護の特徴と理念：小児看護における倫理 小児看護の課題	講義 ポストテスト(3)	
3	4/11	1		小児に関する諸統計：小児保健の動向 子ども保健統計	講義 ポストテスト(3)	
4	4/11	2		子どもと家族を取り巻く社会：児童福祉 虐待防止について考える	講義 ポストテスト(5)	濱畑 善行
5	4/19	1		子どもと家族を取り巻く社会：母子保健 医療費の支援 学校保健 予防接種 特別支援教育 臓器移植	講義 ポストテスト(3) 課題レポート(5)	木下 さゆり
6	4/19	2		小児看護において用いられる理論：エリクソンの自我発達理論 認知発達理論 セルフケア理論 家族理論 アタッチメント理論	講義 ポストテスト(5)	
7	5/17	1		子どもの成長・発達：成長発達の概念 成長発達の影響因子	講義 ポストテスト(3) 課題レポート(5)	
8	5/17	2		家族の特徴とアセスメント：子どもにとっての家族とは	講義・演習 課題レポート(5)	

9	5/24	1	子どもの各期と成長発達・健康増進のための看護：日常生活への援助	演習	木下 さゆり
10	5/24	2	子どもの睡眠：睡眠の特徴 夜泣き	演習	
11	5/28	1	子どもの栄養：子どもにとっての栄養の意義 発達段階別の栄養の特徴 食育	演習	
12	5/28	2	排泄の援助：トイレトレーニング 演習：事前学習したことをもとにグループメンバーで整理してみよう。 演習の結果を発表し、学びを共有する。	講義 ポストテスト(8) 課題レポート(5)	
13	6/4	1	子どもにとっての遊びと学習：遊びと学習の意義 演習：各グループで各期の遊びと学習の方法について考え、整理してみよう。	講義 課題レポート(5)	
14	6/4	2	演習の結果を発表し、学びを共有する。	演習	
15	6/14	1	小児看護のめざすところ 演習：各グループで小児看護のめざすところについて学習したことを整理してみよう 演習の結果を発表し、学びを共有する。	演習 課題レポート(5)	
6月21日(金) 1限目			終了試験		
<p>【準備学習内容】</p> <p>テキストによる事前学習をしっかりと行いましょう。テキスト学習を踏まえて授業は進んでいきます。</p> <p>重要な箇所にはマーカーする、ディスカッション時に活用できるようなポイントをメモしておくなど工夫し、自己学習しましょう。</p> <p>事前学習は以下の通りです。課題レポートは授業前に調べ学習し、事前にレポートにまとめておきましょう。</p> <p>1回目～3回目は1章 小児看護の特徴と理念について熟読しておいてください。</p> <p>4回目は7章 A 児童福祉 8章 子どもの虐待と看護について熟読しておいてください。</p> <p>5回目は7章 B～Hを事前にレポートにまとめておきましょう。(Fは子どもの栄養でまとめておきましょう)</p> <p>6回目はシラバスの内容をみて各理論について調べ学習しておきましょう。</p> <p>7回目は2章 子どもの成長発達について学習し、事前にレポートにまとめておきましょう。</p> <p>8回目は6章 家族の特徴とアセスメントについて学習し、演習終了後に各自提出してもらいます。</p> <p>9回目～12回目は3～5章でシラバスの内容を確認して、必要なところを学習し、成長発達の年表を作成し、12回目終了後に提出となります。</p> <p>13回目～14回目は遊びのレポートは各自で考えて事前（講義前）に提出し、その後グループで遊びの援助をプレゼンテーションしましょう。</p> <p>15回目は今までの講義より小児看護のめざすところについて各自考えたことを事前にレポートしてきましょう。演習後に提出となります。</p>					
<p>【使用するテキスト】</p> <p>奈良間美保他著 系統看護学講座 専門分野 小児看護学〔1〕 小児看護学概論 小児看護学総論 医学書院 2024</p>					
<p>【参考文献】</p> <p>中野綾美他著 ナーシング・グラフィカ 小児看護学① 小児の発達と看護 メディカ出版 2024</p> <p>谷津裕子他 監修 看護がみえる vol.5 対象の理解 1 第1版 メディックメディア 2023</p>					
<p>【評価方法】</p> <p>授業終了後のポストテスト（30点）、課題レポートを含む演習への取り組み・成果（30点）、筆記試験（40点）</p> <p>課題レポートは指定された日時までに提出してください。指定日時までに提出されたものを評価の対象とします。</p>					
<p>【受講上の注意】</p> <p>子どもの成長発達についてしっかりと覚えていくことは難しいことですが、身近な子どもの様子を注意して観察してみてください。テキストや参考書と照らし合わせて覚えていくと意外と記憶にのり、覚えることができると思います。</p> <p>事前学習や復習など自分で学習スケジュールを立て、計画的に行なっていきましょう。</p>					

科目 No.66

分野	専門分野	科目	小児看護学：小児看護の方法Ⅱ																																																												
必修・選択	必修	単位数 時間数（回数）	1 単位 30 時間（15 回）	配当時期	2 年後期																																																										
講師名	永友久美	所属および実務経験	訪問看護ステーション akari／看護師																																																												
	上野ふじ美		専任教員／看護師																																																												
<p>【科目のねらい】</p> <p>子どもたちの最善の利益が守られ、安全で安楽な援助を提供していくために、科学的根拠に基づいた看護実践能力を習得する必要があります。また小児医療の高度化、多様化に伴い専門的な技術を発達段階や子どもや家族の置かれている状況に応じた実践が求められます。そのためこの科目では、症状別看護、臨床判断能力を養うための演習、そして紙上事例で看護過程を展開し、実際に看護援助を行い、これまでの小児看護における一連の学びを関連付けていきます。また演習を通して、子どもの身体的アセスメントを行い、健康状態や看護援助の必要性が判断でき、子どもの成長・発達過程を踏まえた健康の維持・増進、回復や疾病予防のための生活援助に必要な情報を得る力を深めていきます。これらの学習過程から 1 人でも多くの子どもたちが社会の中でその子らしく生活できることや家族が家族としていられるかかわりを考えましょう。</p>																																																															
<p>【目的】症状を示す小児への看護、及び小児の代表的な疾患に伴う看護を臨床判断や科学的根拠に基づき小児看護を実践できる基礎的能力を養う。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 子どもの苦痛や症状を緩和する援助や演習を通して、考察することができる。</li> <li>2. 小児の代表的な疾患（紙上事例）について看護過程を展開することができる。</li> <li>3. 小児看護学の既習の知識・技術・経験を基盤として子どもと家族への看護援助を考え、一部実施することができる。</li> <li>4. 子どもと家族の看護を展開していく中で、演習や事前学習を通して、主体的に学習する姿勢やコミュニケーション、協調性を身につけることができる</li> <li>5. 小児看護において必要な臨床判断能力について述べるることができる。</li> </ol>																																																															
<p>【DPとの関連】</p> <p>DP1 人々の様々な価値観を尊重したコミュニケーションを図り、より良い人間関係を築くことができる。</p> <p>DP2 看護専門職の役割と責務を自覚し、倫理的判断に基づく、看護実践やリーダーシップを示すことができる。</p> <p>DP3 対象の反応から臨床判断し、健康レベルに応じた看護を科学的根拠に基づき実践することができる。</p> <p>DP4 対象の QOL（Quality Of Life：生活の質）向上を目指し、対象の持てる力を活かした看護や安心・安全な生活を支援する看護を実践することができる。</p> <p>DP5 多様な場で生活するあらゆる人々の健康に着目し、地域包括ケアシステム、チーム医療や多職種との連携・協働の視点を持ち看護を実践することができる。</p> <p>DP6 心身の健康管理能力及び社会人基礎力や情報活用能力を発展させ、看護の質の向上を目指し、自ら学び続ける姿勢を表現することができる。</p>																																																															
<p>【授業の流れ】（全体スケジュール・学習内容・方法等）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>日程</th> <th>1 組</th> <th>2 組</th> <th>学習内容</th> <th>方法</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>11/1</td> <td>1</td> <td></td> <td>症状を示す子どもの看護</td> <td rowspan="5">講義・演習  ポストテスト(15) 6 回目</td> <td rowspan="5">永友久美</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>11/1</td> <td>2</td> <td></td> <td>不機嫌、啼泣、痛み、呼吸困難、チアノーゼ、ショック、意識障害、痙攣、</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>11/8</td> <td>1</td> <td></td> <td>発熱、嘔吐、下痢、便秘、脱水、浮腫、出血、貧血、発疹、黄疸</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>11/8</td> <td>2</td> <td></td> <td>上記の症状別看護について、グループ学習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>11/15</td> <td>1</td> <td></td> <td>共有とまとめ発表</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>11/15</td> <td>2</td> <td></td> <td>事例演習 1：事例より疾患からくるさまざまな症状を軽減するための看護を考える。 グループ学習：共有とまとめ発表</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>11/22</td> <td>1</td> <td></td> <td rowspan="3">事例演習 2：臨床判断能力を養う 事例（急性リンパ性または骨髄性白血病）より気づきの演習 グループ学習、ディスカッション</td> <td>演習</td> <td rowspan="3">上野ふじ美</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>11/27</td> <td>3</td> <td></td> <td>ポストテスト(5) 7 回</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>11/27</td> <td>4</td> <td></td> <td>課題レポート(20) 9 回</td> </tr> </tbody> </table>						回	日程	1 組	2 組	学習内容	方法	備考	1	11/1	1		症状を示す子どもの看護	講義・演習  ポストテスト(15) 6 回目	永友久美	2	11/1	2		不機嫌、啼泣、痛み、呼吸困難、チアノーゼ、ショック、意識障害、痙攣、	3	11/8	1		発熱、嘔吐、下痢、便秘、脱水、浮腫、出血、貧血、発疹、黄疸	4	11/8	2		上記の症状別看護について、グループ学習	5	11/15	1		共有とまとめ発表	6	11/15	2		事例演習 1：事例より疾患からくるさまざまな症状を軽減するための看護を考える。 グループ学習：共有とまとめ発表			7	11/22	1		事例演習 2：臨床判断能力を養う 事例（急性リンパ性または骨髄性白血病）より気づきの演習 グループ学習、ディスカッション	演習	上野ふじ美	8	11/27	3		ポストテスト(5) 7 回	9	11/27	4		課題レポート(20) 9 回
回	日程	1 組	2 組	学習内容	方法	備考																																																									
1	11/1	1		症状を示す子どもの看護	講義・演習  ポストテスト(15) 6 回目	永友久美																																																									
2	11/1	2		不機嫌、啼泣、痛み、呼吸困難、チアノーゼ、ショック、意識障害、痙攣、																																																											
3	11/8	1		発熱、嘔吐、下痢、便秘、脱水、浮腫、出血、貧血、発疹、黄疸																																																											
4	11/8	2		上記の症状別看護について、グループ学習																																																											
5	11/15	1		共有とまとめ発表																																																											
6	11/15	2		事例演習 1：事例より疾患からくるさまざまな症状を軽減するための看護を考える。 グループ学習：共有とまとめ発表																																																											
7	11/22	1		事例演習 2：臨床判断能力を養う 事例（急性リンパ性または骨髄性白血病）より気づきの演習 グループ学習、ディスカッション	演習	上野ふじ美																																																									
8	11/27	3			ポストテスト(5) 7 回																																																										
9	11/27	4			課題レポート(20) 9 回																																																										

10	11/28	1		事例演習 3： 臨床判断能力を養う 事例（ネフローゼ症候群） （ 10回 調べ学習 11回 計画・立案 12.13回 実践とリフレクション・学び発表 ）	講義 演習 ポストテスト(5) 10回 課題レポート(20) 13回	上野ふじ美
11	11/28	2				
12	12/4		1			
	12/5	1				
13	12/4		2			
	12/5	2				
14	12/9	3		看護の実際：展開した事例で看護を実施する リフレクション 終了後のレポート	演習	
	12/10		3			
15	12/9	4		14.15回 再実践・リフレクション・学びの発表	演習	
	12/10		4			課題レポート(20)
				試験		
<p>【準備学習内容】</p> <p>テキストによる事前学習をしっかりと行いましょう。テキスト学習を踏まえて授業は進んでいきます。 重要な箇所にはマーカーする、ディスカッション時に活用できるようなポイントをメモしておくなど工夫し、自己学習しましょう。</p>						
<p>【使用するテキスト】</p> <p>奈良間美保他著 系統看護学講座 専門分野 小児看護学〔1〕 小児看護学概論 小児看護学総論 医学書院 2024 奈良間美保他著 系統看護学講座 専門分野 小児看護学〔2〕 小児臨床看護各論 医学書院 2024</p>						
<p>【参考文献】</p> <p>浅野みどり他著 発達段階から見た 小児看護過程 +病態関連図 第4版 医学書院 2021 浅野みどり他著 根拠と事故防止から見た小児看護技術 第3版 医学書院 2020 中野綾美他著 ナーシング・グラフィカ 小児看護学① 小児の発達と看護 メヂカ出版 2024 中野綾美他著 ナーシング・グラフィカ 小児看護学② 小児看護技術 メヂカ出版 2024</p>						
<p>【評価方法】</p> <p>授業終了後のポストテスト（25点）、課題レポートを含む演習への取り組み・成果（75点） 永友久美：ポストテスト(15点) 演習への取り組み・成果（15点） 上野ふじ美：ポストテスト（10点） 課題レポートを含む演習への取り組み・成果（60点） 課題レポートは指定された日時までに提出してください。指定日時までに提出されたものを評価の対象とします。</p>						
<p>【受講上の注意】</p> <p>演習で授業は進んでいきます。各自がしっかりと事前学習した上で、参加してください。お互いの知識を高めあえるよう、学習していきます。 事前学習や復習など自分で学習スケジュールを立て、計画的に行なっていきましょう。</p>						

科目 No.67

分野	専門分野	科目	成人看護学：成人看護の概論																																																																								
必修・選択	必修	単位数 時間数（回数）	1 単位 30 時間（15 回）	配当時 期	2 年前期																																																																						
講師名	クレスポ亜沙美	所属および実務経験	専任教員／看護師																																																																								
<p>【科目のねらい】</p> <p>本科目は、成人期にある対象の特徴と基盤となる考え方・理論、援助方法論について学びます。成人期にある人は、人生の中でも最も長い期間、多くの役割を持ち、今を生きています。成人期にある対象の特徴や看護援助の基盤となる考え方・理論について理解し、様々な考え方や価値観を持つ大人の個別的な看護実践につなげていきましょう。</p>																																																																											
<p>【目的】成人期にある対象の特徴と、基盤となる考え方・理論、援助方法論について理解し、成人看護の基礎的能力を養う。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 成人期にある対象の特徴を多角的な視点で説明することができる。</li> <li>2. わが国の社会状況を踏まえ成人期にある人の生活の特徴について説明することができる。</li> <li>3. 成人期にある人の健康課題と健康レベルに応じた看護について説明することができる。</li> <li>4. 成人看護に関連する概念・理論について説明することができる。</li> <li>5. 成人看護における質の高い看護実践と看護の役割について説明することができる。</li> </ol>																																																																											
<p>【DP との関連】</p> <p>DP1 人々の様々な価値観を尊重したコミュニケーションを図り、より良い人間関係を築くことができる。</p> <p>DP2 看護専門職の役割と責務を自覚し、倫理的判断に基づく、看護実践やリーダーシップを示すことができる。</p> <p>DP3 対象の反応から臨床判断し、健康レベルに応じた看護を科学的根拠に基づき実践することができる。</p> <p>DP4 対象の QOL（Quality Of Life：生活の質）向上を目指し、対象の持てる力を活かした看護や安心・安全な生活を支援する看護を実践することができる。</p> <p>DP5 多様な場で生活するあらゆる人々の健康に着目し、地域包括ケアシステム、チーム医療や多職種との連携・協働の視点を持ち看護を実践することができる。</p>																																																																											
<p>【授業の流れ】（全体スケジュール・学習内容・方法等）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>日程</th> <th>1 組</th> <th>2 組</th> <th>学習内容</th> <th>方法</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>4/5</td> <td colspan="2">1</td> <td>成人と生活</td> <td>講義・演習</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>4/5</td> <td colspan="2">2</td> <td>1. 生涯発達の特徴：成人各期の発達段階・発達課題（ Erickson, ビンソンの「イグ」-スト） 2. 青年期、壮年期・中年期の身体的・心理的・社会的特徴</td> <td>演習 ポストテスト（5）</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>4/12</td> <td colspan="2">1</td> <td>成人と生活</td> <td>講義・演習</td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>4/12</td> <td colspan="2">2</td> <td>3. 成人と生活：家族形態と機能、社会状況の変化と成人の生活 生活と健康 1. 生活状況の特徴 2. 健康の状況、成人の健康</td> <td>演習 課題レポート</td> <td>※終了後レポート課題</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>4/24</td> <td colspan="2">1</td> <td>生活と健康をまもりはぐくむシステム</td> <td>講義・演習</td> <td></td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>4/24</td> <td colspan="2">2</td> <td>1. 保健・医療・福祉システムの概要・連携 2. 退院支援のためのアセスメント</td> <td>演習 ポストテスト（5）</td> <td></td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>5/9</td> <td colspan="2">3</td> <td>成人への看護アプローチの基本① 1. 生活のなかで健康行動を生み、はぐくむ援助：大人の学習 アンドラゴジー</td> <td>講義・演習</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>5/9</td> <td colspan="2">4</td> <td>2. 健康問題を持つ大人と看護師の人間関係 3. 集団における調和や変化を促す看護のアプローチ 4. チームアプローチ：関連職種との連携 5. 看護におけるマネジメント</td> <td>ポストテスト（5） 8 回目</td> <td></td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>5/21</td> <td colspan="2">1</td> <td>成人への看護アプローチの基本③ 6. 倫理的判断：個人の尊厳、患者の権利 7. 意思決定支援：自己決定権と患者の意思 成人期における倫理的課題</td> <td>講義・演習 ポストテスト（5） 9 回目</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>						回	日程	1 組	2 組	学習内容	方法	備考	1	4/5	1		成人と生活	講義・演習		2	4/5	2		1. 生涯発達の特徴：成人各期の発達段階・発達課題（ Erickson, ビンソンの「イグ」-スト） 2. 青年期、壮年期・中年期の身体的・心理的・社会的特徴	演習 ポストテスト（5）		3	4/12	1		成人と生活	講義・演習		4	4/12	2		3. 成人と生活：家族形態と機能、社会状況の変化と成人の生活 生活と健康 1. 生活状況の特徴 2. 健康の状況、成人の健康	演習 課題レポート	※終了後レポート課題	5	4/24	1		生活と健康をまもりはぐくむシステム	講義・演習		6	4/24	2		1. 保健・医療・福祉システムの概要・連携 2. 退院支援のためのアセスメント	演習 ポストテスト（5）		7	5/9	3		成人への看護アプローチの基本① 1. 生活のなかで健康行動を生み、はぐくむ援助：大人の学習 アンドラゴジー	講義・演習		8	5/9	4		2. 健康問題を持つ大人と看護師の人間関係 3. 集団における調和や変化を促す看護のアプローチ 4. チームアプローチ：関連職種との連携 5. 看護におけるマネジメント	ポストテスト（5） 8 回目		9	5/21	1		成人への看護アプローチの基本③ 6. 倫理的判断：個人の尊厳、患者の権利 7. 意思決定支援：自己決定権と患者の意思 成人期における倫理的課題	講義・演習 ポストテスト（5） 9 回目	
回	日程	1 組	2 組	学習内容	方法	備考																																																																					
1	4/5	1		成人と生活	講義・演習																																																																						
2	4/5	2		1. 生涯発達の特徴：成人各期の発達段階・発達課題（ Erickson, ビンソンの「イグ」-スト） 2. 青年期、壮年期・中年期の身体的・心理的・社会的特徴	演習 ポストテスト（5）																																																																						
3	4/12	1		成人と生活	講義・演習																																																																						
4	4/12	2		3. 成人と生活：家族形態と機能、社会状況の変化と成人の生活 生活と健康 1. 生活状況の特徴 2. 健康の状況、成人の健康	演習 課題レポート	※終了後レポート課題																																																																					
5	4/24	1		生活と健康をまもりはぐくむシステム	講義・演習																																																																						
6	4/24	2		1. 保健・医療・福祉システムの概要・連携 2. 退院支援のためのアセスメント	演習 ポストテスト（5）																																																																						
7	5/9	3		成人への看護アプローチの基本① 1. 生活のなかで健康行動を生み、はぐくむ援助：大人の学習 アンドラゴジー	講義・演習																																																																						
8	5/9	4		2. 健康問題を持つ大人と看護師の人間関係 3. 集団における調和や変化を促す看護のアプローチ 4. チームアプローチ：関連職種との連携 5. 看護におけるマネジメント	ポストテスト（5） 8 回目																																																																						
9	5/21	1		成人への看護アプローチの基本③ 6. 倫理的判断：個人の尊厳、患者の権利 7. 意思決定支援：自己決定権と患者の意思 成人期における倫理的課題	講義・演習 ポストテスト（5） 9 回目																																																																						

10	5/21	2	ヘルス・プロモーションと看護 健康をおびやかす要因と看護 ストレスコーピング、生活習慣病の発生因子と予防	講義・演習 課題レポート	※終了後レポート課題
11	5/31	1	健康生活の急激な破綻から回復を促す看護 危機理論：フランク、アギユララとメズニック	講義・演習	
12	5/31	2	治療過程にある患者への看護技術 ボディイメージ	ポストテスト (5) 12 回目	
13	6/5	1	慢性病との共存を支える看護 エンパワメント、自己効力、病みの軌跡、 トランスセオレティカモデル (行動変容ステージモデル)	講義・演習	
14	6/5	2	障害がある人の生活とリハビリテーション 国際生活機能分類 (ICF) の概念、価値転換理論	ポストテスト (5) 14 回目	
15	6/10	2	人生の最期のときを支える看護 死の受容過程、悲嘆	講義・演習	
6月25日(火) 1限目		終了試験			
<p>【準備学習内容】</p> <p>テキストによる事前学習をしっかりと行いましょう。テキスト学習を踏まえて授業は進んでいきます。</p> <p>重要な箇所にはマーカーする、ディスカッション時に活用できるようポイントをメモしておくなど工夫し自己学習しましょう。</p> <p>※課題はCラーニングの「レポート」へ提出です。各自で計画的に取り組みましょう。</p> <p>10 回目終了したら「私のライフスタイルから起こりうる生活習慣病とその予防」についてレポートにまとめましょう。</p>					
<p>【使用するテキスト】</p> <p>小松浩子他著 系統看護学講座 専門分野 成人看護学〔1〕成人看護学総論 医学書院 2024</p>					
<p>【参考文献】</p> <p>安藤雄一他 監修 公衆衛生がみえる メディックメディア 2022-2023</p> <p>谷津裕子他 監修 看護がみえる vol.5 対象の理解 1 第1版 メディックメディア 2023</p>					
<p>【評価方法】</p> <p>授業終了後のポストテスト (30 点)、課題レポートを含む演習への取り組み・成果 (40 点)、筆記試験 (30 点)</p> <p>課題レポートは指定された日時までに提出してください。指定日時までに提出されたものを評価の対象とします。</p>					
<p>【受講上の注意】</p> <p>事前学習や復習など自分で学習スケジュールを立て、計画的に行なっていきましょう。</p>					

科目 No.68

分野	専門分野	科目	成人看護学：成人看護の方法 I			
必修・選択	必修	単位数 時間数（回数）	1 単位 30 時間（15 回）	配 当 時 期	2 年全期	
講師名	クレスポ亜沙美	所属および実務経験	専任教員／看護師			
【科目のねらい】						
<p>本科目では、成人期に多い健康障害として代表的な急性疾患・慢性疾患にある対象の事例を通して、疾患による機能障害や主要症状における対象とその家族の看護について学びます。役割の多い成人期を対象にとつて、疾病を患い、治療や療養を維持・継続することは、生活スタイルや役割に大きく影響を及ぼすことから、対象と家族に対する個別的な身体的・心理的・社会的支援が必要です。事例を通して対象理解を深める視点を養うとともに、活用できる理論を用いて 3 側面における個別的な看護の方法について学んでいきましょう。</p>						
【目的】成人期にある対象と家族を理解する視点を踏まえ、疾患による機能障害や主要症状に対する看護の方法について理解し、成人看護の基礎的能力を養う。						
【到達目標】						
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 疾患による機能障害や症状に対する看護のポイントについて述べるができる。</li> <li>2. 疾患による機能障害が患者の生活に及ぼす影響について述べるができる。</li> <li>3. 成人期にある対象とその家族の心理・社会的な特徴を理解し、看護の役割について説明することができる。</li> <li>4. 対象に出現している症状の状態やその場の状況を判断し、適切な看護を提供することができる。</li> </ol>						
【DPとの関連】						
<p>DP1 人々の様々な価値観を尊重したコミュニケーションを図り、より良い人間関係を築くことができる。</p> <p>DP2 看護専門職の役割と責務を自覚し、倫理的判断に基づく、看護実践やリーダーシップを示すことができる。</p> <p>DP3 対象の反応から臨床判断し、健康レベルに応じた看護を科学的根拠に基づき実践することができる。</p> <p>DP4 対象の QOL（Quality Of Life：生活の質）向上を目指し、対象の持てる力を活かした看護や安心・安全な生活を支援する看護を実践することができる。</p> <p>DP5 多様な場で生活するあらゆる人々の健康に着目し、地域包括ケアシステム、チーム医療や多職種との連携・協働の視点を持ち看護を実践することができる。</p>						
【授業の流れ】（全体スケジュール・学習内容・方法等）						
回	日程	1 組	2 組	学習内容	方法	備考
1	6/14	2		急性・慢性疾患を持つ成人・家族の特徴、対象への看護 成人期の発達段階、活用できる代表的な理論 ・危機理論 ・ストレスコーピング理論 ・アンドラゴジー ・自己効力理論 ・病みの軌跡 ・トランスセオレティカモデル（行動変容ステージモデル） ・障害受容過程 ・悲嘆、予期悲嘆 ・ボディイメージ	講義 演習	
2	6/19	1		事例患者①（壮年期の急性心筋梗塞） 身体的・心理的・社会的側面に対する看護 活用する理論（フインクの危機理論 ストレスコーピング理論）	演習 ポストテスト(6)	
3	6/19	2		グループで考えた事例患者①の看護	演習	
4	6/24	1		事例患者②（壮年期の糖尿病） 身体的・心理的・社会的側面に対する看護 活用する理論（自己効力理論 行動変容ステージモデル アンドラゴジー）	演習 ポストテスト(6)	
5	6/24	2		グループで考えた事例患者②の看護	演習	
6	7/2	1		事例患者③（中年期の COPD） 身体的・心理的・社会的側面に対する看護 活用する理論（病みの軌跡）	演習 ポストテスト(6)	

7	7/5	4		グループで考えた事例患者③の看護	演習	
8	7/10	1		事例患者④（壮年期の乳がん） 身体的・心理的・社会的側面に対する看護 活用する理論（ボディイメージ 予期悲嘆、悲嘆 障害受容過程）	演習 ポストテスト(6)	
9	7/10	2		グループで考えた事例患者④の看護	演習	
10	7/25	1		事例患者⑤（中年期の直腸がん） 身体的・心理的・社会的側面に対する看護 活用する理論（ボディイメージ 予期悲嘆、悲嘆 障害受容過程）	演習 ポストテスト(6)	
11	7/25	2		グループで考えた事例患者⑤の看護	演習	
12	8/27	1	3	事例患者の主要症状への対応（臨床判断）	演習	
13	8/27	2	4	悪心・嘔吐、胸痛 シミュレーション		
14	8/28	3	1	事例患者の主要症状への対応（臨床判断）		
15	8/28	4	2	疼痛、呼吸困難 シミュレーション		

【準備学習内容】

テキストによる事前学習をしっかりと行いましょう。テキスト学習を踏まえて授業は進んでいきます。

重要な箇所にはマーカーする、ディスカッション時に活用できるようポイントをメモしておくなど工夫し自己学習しましょう。

※授業では授業前までに学習した知識を活用してグループワークと発表を行います。各自で計画的に取り組みましょう。

2回目までに解剖生理学や疾病と治療で学んだ正常な循環機能や急性心筋梗塞の病態・主要症状・治療を復習しプレテストを解いておきましょう。

4回目までに解剖生理学や疾病と治療で学んだ正常な糖代謝機能や糖尿病の病態・主要症状・治療を復習しプレテストを解いておきましょう。

6回目までに解剖生理学や疾病と治療で学んだ正常な呼吸機能や COPD の病態・主要症状・治療を復習しプレテストを解いておきましょう。

8回目までに解剖生理学や疾病と治療で学んだ正常な乳房の構造・機能や乳がんの病態・主要症状・治療を復習しプレテストを解いておきましょう。

10回目までに解剖生理学や疾病と治療で学んだ正常な消化・吸収機能や直腸がんの病態・主要症状・治療を復習しプレテストを解いておきましょう。

【使用するテキスト】

小松浩子他著 系統看護学講座 専門分野 成人看護学〔1〕成人看護学総論 医学書院 2024

飯野京子他著 系統看護学講座 専門分野 成人看護学〔4〕血液・造血器 医学書院 2024

香原知永他著 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学〔4〕臨床看護総論 医学書院 2024

吉岡成人他著 系統看護学講座 専門分野 成人看護学〔6〕内分泌・代謝 医学書院 2024

南川雅子他著 系統看護学講座 専門分野 成人看護学〔5〕消化器 医学書院 2024

川村雅文他著 系統看護学講座 専門分野 成人看護学〔2〕呼吸器 医学書院 2024

末岡浩他著 系統看護学講座 専門分野 成人看護学〔9〕女性生殖器 医学書院 2024

【参考文献】

近藤一郎他監 看護がみえる② 臨床看護技術 メディックメディア 2022

【評価方法】

授業終了後のポストテスト（30点）、課題レポートを含む演習への取り組み・成果（70点）

課題レポートは指定された日時までに提出してください。指定日時までに提出されたものを評価の対象とします。

【受講上の注意】

グループワーク、技術演習には予習を行ってから臨み、主体的・積極的に参加すること。

事前学習や復習など自分で学習スケジュールを立て、計画的に行なっていきましょう。

科目 No.69

分野	専門分野	科目	成人看護学：成人看護の方法Ⅱ			
必修・選択	必修	単位数 時間数（回数）	1 単位 30 時間（15 回）	配当時期	2 年後期	
講師名	衛藤理奈	所属および実務経験	九州中央病院 看護師長／看護師			
	加藤妙子		九州中央病院 副看護師長／看護師			
	舩田加奈恵		済生会福岡総合病院救命救急センター／看護師			
	原妙子		訪問看護ステーション One Heart／看護師			
	クレスポ亜沙美		専任教員／看護師			
【科目のねらい】 本科目では、成人期に多い健康障害として代表的な急性疾患・慢性疾患にある対象事例を通して、治療・特殊療法とそれに伴う看護について学びます。また、役割の多い成人期の対象が、治療や療養を継続していくためには、病気と家庭・社会と折り合いをつけながらセルフマネジメントできるように支援することが重要です。基礎看護技術で学んだ技術を活用しながら、事例を通して様々な場面での対処方法やセルフマネジメント推進への支援について学んでいきましょう。						
【目的】成人期にある対象が安全・安楽に治療や療養を継続するために必要な看護の方法について理解し、成人看護の基礎的能力を養う。 【到達目標】 1. セルフマネジメントを必要とする対象の身体的・心理・社会的特徴を踏まえ、その人らしく生きるとはどのようなことであるか述べるができる。 2. 代表的な疾病に対する治療・特殊療法とそれに伴う看護のポイントについて説明することができる。 3. 事例をもとに対象のアセスメントから援助計画を立案し実施・評価することができる。 4. 看護師とはどのような役割をもち、多職種と連携して活躍できるのか表現することができる。						
【DP との関連】 DP1 人々の様々な価値観を尊重したコミュニケーションを図り、より良い人間関係を築くことができる。 DP2 看護専門職の役割と責務を自覚し、倫理的判断に基づく、看護実践やリーダーシップを示すことができる。 DP3 対象の反応から臨床判断し、健康レベルに応じた看護を科学的根拠に基づき実践することができる。 DP4 対象の QOL（Quality Of Life：生活の質）向上を目指し、対象の持てる力を活かした看護や安心・安全な生活を支援する看護を実践することができる。 DP5 多様な場で生活するあらゆる人々の健康に着目し、地域包括ケアシステム、チーム医療や多職種との連携・協働の視点を持ち看護を実践することができる。						
【授業の流れ】（全体スケジュール・学習内容・方法等）						
回	日程	1 組	2 組	学習内容	方法	備考
1	7/5	2		循環機能障害のある患者の看護 心臓カテーテル検査、心電図検査、運動負荷試験 経皮的冠状動脈インターベンション（PCI）、ステントグラフト内挿術	講義 ポストテスト（5）	衛藤理奈
2	7/12	1		事例患者（壮年期の急性心筋梗塞） ・点滴、ドレーン等を留置している患者の寝衣交換	演習	
3	7/12	2		（リスクマネジメント：KYT の視点を活用する）	演習	
4	7/19	1		ME 機器と看護： ・心電図モニタ、パルスオキシメータ、人工呼吸器、除細動器使用時の留意点	講義 演習	
	7/24		1	・輸液ポンプ、シリンジポンプの使用方法和留意点	ポストテスト（5）	
5	7/19	2		急変時の応援要請：一次救命処置	演習	
	7/24		2			
6	10/16	3		消化・吸収機能障害のある患者の看護 ・上部消化管内視鏡検査 ・大腸内視鏡検査 ・上部・下部消化管造影	講義 ポストテスト（5）	加藤妙子
7	10/30		3	事例患者（中年期の直腸がん）	演習	
	11/6	3		・ストーマケア、装具交換		
8	10/30		4	（スタンダードプリコーションを用いる）	演習	
	11/6	4				

9	11/8	3	栄養代謝機能障害のある患者の看護 ・肝生検・食道静脈瘤硬化療法・肝動脈塞栓術	講義 ポストテスト(5)	舛田加奈恵
10	11/8	4	ドレーン管理	講義・演習	
11	11/11	4	内分泌・代謝機能障害のある患者の看護 ・ホルモン負荷試験・ホルモン血中・尿中濃度測定検査 ・血糖測定(デモンストレーション)	講義 ポストテスト(5)	原妙子
12	11/21	3	事例患者(壮年期の糖尿病)	演習	
13	11/21	4	・食事指導(学習支援を用いる)	演習	
14	11/22	3	専門職連携協働(IPW)	講義・演習	クスボ 亜沙美
15	11/22	4	理学療法士養成と看護師養成の学生間協同学習 「成人期にある対象とその家族への支援」 協同学習を終えての学び・まとめ	講義・演習 ポストテスト(5)	

【準備学習内容】

テキストによる事前学習をしっかりと行いましょう。テキスト学習を踏まえて授業は進んでいきます。  
重要な箇所にはマーカーする、ディスカッション時に活用できるようポイントをメモしておくなど工夫し自己学習しましょう。  
技術演習の前日まではテキストや参考書にて手順や留意点について確認しておきましょう。  
4回目は、臨床看護総論のテキストの付章を使用します。  
5回目は、基礎看護技術Ⅱのテキストを使用します。  
※授業では予習課題を活用して個人ワーク、グループワークと発表を行います。各自で計画的に取り組みましょう。  
IPWでは、事前に提示された事例をもとに学習し、14回目・15回目に協同学習できる準備を整えておきましょう。  
15回目が終了したら「協同学習を終えての学び」をレポートしましょう。  
動画視聴：「診療に関わる技術：検査時の看護Ⅰ・Ⅱ」「ME機器の知識と技術」「目で見える臨床検査 No.4 代謝内分泌検査」  
「クリティカルケア看護 vol.2」「看護のためのアセスメント事例集 vol.3,4」このシリーズの動画は授業前後の自己学習に活用してください。

【使用するテキスト】

吉田俊子他著 系統看護学講座 専門分野 成人看護学(3) 循環器 医学書院 2024  
吉岡成人他著 系統看護学講座 専門分野 成人看護学(6) 内分泌・代謝 医学書院 2024  
南川雅子他著 系統看護学講座 専門分野 成人看護学(5) 消化器 医学書院 2024  
井手隆文他著 系統看護学講座 専門分野 成人看護学(7) 脳・神経 医学書院 2024  
茂野香おる他著 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学(2) 基礎看護技術Ⅰ 医学書院 2024  
任和子他著 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学(3) 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 2024  
武田宣子他著 系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護 医学書院 2024

【参考文献】

藤本真紀子他監 看護がみえる① 基礎看護技術 メディックメディア 2022  
近藤一郎他監 看護がみえる② 臨床看護技術 メディックメディア 2022

【評価方法】

授業終了後のポストテスト(30点)、課題レポートを含む演習への取り組み・成果(70点)  
加藤妙子：ポストテスト(5点) 課題レポートを含む演習への取り組み・成果(10点)  
舛田加奈恵：ポストテスト(5点) 課題レポートを含む演習への取り組み・成果(10点)  
原妙子：ポストテスト(5点) 課題レポートを含む演習への取り組み・成果(10点)  
衛藤 理奈：ポストテスト(10点) 課題レポートを含む演習への取り組み・成果(20点)  
クスボ 亜沙美：ポストテスト(5点) 課題レポートを含む演習への取り組み・成果(20点)  
課題レポートは指定された日時までに提出してください。指定日時までに提出されたものを評価の対象とします。  
チェックリストや技術の動画は、指定された日時までに提出してください。  
到達レベル 演習Ⅰ：点滴・ドレーンを留置している患者の寝衣交換、一時救命処置、緊急時の応援要請  
到達度の確認は、以下のいずれかで行う。詳細は別紙参照。  
演習中の技術確認、チェックリストを活用したグループ学習の自己評価と他者評価の提出、自己練習後の動画提出、対面による技術試験など

【受講上の注意】

グループワーク、技術演習には予習を行ってから臨み、主体的・積極的に参加すること。  
事前学習や復習など自分で学習スケジュールを立て、計画的に行なっていきましょう。  
チェックリストを用いて自己評価を行ないながら技術練習していきましょう。指定された技術の動画を提出してもらい技術の到達度を確認します。

科目 No.70

分野	専門分野	科目	成人看護学：成人看護の方法Ⅲ			
必修・選択	必修	単位数 時間数（回数）	1 単位 30 時間（15 回）	配当時 期	2 年後期	
講師名	クレスポ亜沙美	所属および実務経験	専任教員／看護師			
	木下由理子		専任教員／看護師			
<p>【科目のねらい】</p> <p>本科目では、成人期に多い健康障害として代表的な疾患にある対象の事例で看護過程を展開し、対象とその家族に対する個別的な支援について学びます。役割の多い成人期の対象にとって、病状や治療・療養方法を維持・継続していくことは、生活スタイルに大きく影響を及ぼすことから、対象の個別的な問題点の抽出と、具体的な支援が必要です。成人看護の概論、成人看護の方法Ⅰと方法Ⅱで学んだ知識を統合して看護過程を展開し、対象の個性性を踏まえた看護の実践力を高めていきましょう。</p>						
<p>【目的】成人期にある対象を全人的にとらえ、個性のある看護を実践するために看護過程を展開できる基礎的能力を養う。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ゴードンの機能的健康パターンに基づく枠組みを利用してアセスメントし問題点を導き出す事ができる。</li> <li>2. 関連図を作成し、対象の全体像を把握することができる。</li> <li>3. 対象の看護問題・共同問題の優先順位を決定することができる。</li> <li>4. 看護問題に対して、目標設定し、対象の情報を活かした個別的な計画（安全・安楽性も踏まえる）を立案することができる。</li> <li>5. 初期計画の一部を実施し、評価・考察からより個別的な計画へ修正することができる。</li> <li>6. グループワークを通して主体的に学習する姿勢を身につけ、看護を考える楽しさを分かち合うことができる。</li> </ol>						
<p>【DPとの関連】</p> <p>DP1 人々の様々な価値観を尊重したコミュニケーションを図り、より良い人間関係を築くことができる。</p> <p>DP2 看護専門職の役割と責務を自覚し、倫理的判断に基づく、看護実践やリーダーシップを示すことができる。</p> <p>DP3 対象の反応から臨床判断し、健康レベルに応じた看護を科学的根拠に基づき実践することができる。</p> <p>DP4 対象の QOL（Quality Of Life：生活の質）向上を目指し、対象の持てる力を活かした看護や安心・安全な生活を支援する看護を実践することができる。</p> <p>DP5 多様な場で生活するあらゆる人々の健康に着目し、地域包括ケアシステム、チーム医療や多職種との連携・協働の視点を持ち看護を実践することができる。</p>						
<p>【授業の流れ】（全体スケジュール・学習内容・方法等）</p>						
回	日程	1 組	2 組	学習内容	方法	備考
1	10/18	3		1. 急性期・回復期の看護過程オリエンテーション 2. アセスメントの視点 3. 事例紹介「直腸がん・直腸切断術を受ける向老期の対象」 4. 患者の病態・麻酔・術式・再建方法・看護の理解	講義 演習	クレスポ 亜沙美
2	10/18	4		グループにて関連図の検討 問題の抽出（看護診断・共同問題）	演習	
3	10/28	4		グループにて術前・術中・術後の問題点の明確化・計画立案	演習	
4	11/5	4		術後の観察とアセスメント（臨床判断）	演習	
5	11/11	2	3	離床の援助とアセスメント（臨床判断）	演習	
6	11/15	3		1. 慢性期の看護過程オリエンテーション 2. アセスメントの視点 3. 事例紹介「直腸がん術後で退院に向けた支援を受けている向老期の対象」	講義 演習	木下 由理子
7	11/15	4		模擬患者へのインタビュー 仮診断の抽出	演習	
8	11/19	3			演習	木下 由理子
<p>事前学習：事例患者の病態・麻酔・術式・再建方法の学習事後学習：上記復習</p> <p>事前学習：個人にて関連図作成 事後学習：個人にて関連図の修正</p> <p>事後学習：グループでの計画作成</p> <p>事後学習：臨床判断記録の記載</p> <p>事後学習：臨床判断記録の記載</p> <p>事前学習：ゴードンの機能的健康パターン、アセスメントの視点（各パターン）について 事後学習：病態・検査・治療について復習</p> <p>事前学習：各パターンのアセスメント、不足情報の整理 事後学習：アセスメントの修正・追加</p>						

9	11/19	4	グループでの関連図作成、統合、問題の明確化、優先順位の検討	演習	事前学習：関連図作成 事後学習：関連図の追加・修正	
10	11/29	1	優先度の高い問題点とその根拠 全体像・問題リスト (関連図を用いてプレゼンテーション)	演習	事前学習：全体像作成 事後学習：全体像の追加・修正	
11	11/29	2	目標設定、初期計画立案	演習	事前学習：目標設定、計画立案 事後学習：目標・計画の追加・修正	
12	11/29	3	目標、初期計画の発表会	演習	事前学習：発表準備 事後学習：計画の追加修正	
13	12/6	1	2	各グループで計画の実践 (ロールプレイ：グループで役割を決めて実践する) 例) ・ボディイメージの変容に対する支援 ・ストーマ管理の指導 ・日常生活 (食事、衣類、運動、旅行・外出、仕事、 セクシュアリティ、災害時の備え等) について ・内服薬管理の指導 ・社会保障制度についての指導 ・患者会、ストーマ外来でのフォローについての 情報提供 ・排便方法(洗腸法)の指導 ※指導技術の場合は要学習支援計画書(グループ で作成)	演習	事前学習：実践の練習・実施・発表 準備 ロールプレイにて発表 事後学習：SOAP 記入
14	12/6	3	グループにて SOAP 共有 計画の追加・修正	演習	事前学習：SOAP 記入 事後学習：SOAP の修正 計画の追加・修正	
15	12/6	4	SOAP、計画の追加・修正について	演習	事前学習：発表準備 事後学習：個人での提出物の整理・ 自己評価	
			終了試験			

#### 【準備学習内容】

テキストによる事前学習をしっかりと行いましょう。テキスト学習を踏まえて授業は進んでいきます。

重要な箇所にはマーカーする、ディスカッション時に活用できるようポイントをメモしておくなど工夫し自己学習しましょう。

※予習課題は全て授業前までに提出です。授業では予習課題を活用してグループワークと発表を行います。各自で計画的に取り組ましましょう。

記録用紙は実習と同様のものを使用します。教員の許可なくコピーはしないようにしましょう。

2 回目までに「事例患者の関連図」を作成し、問題点(看護問題・共同問題)を抽出しておきましょう。

3 回目までに標準看護計画を参考にして「術直後の看護計画」を立案しておきましょう。

臨床判断のシミュレーションが終わったら、その場面についての臨床判断(4つのフェーズ)を記載しましょう。

8 回目までに個人でゴードンの機能的健康パターンを利用してアセスメントし、不足情報を明らかにしておき模擬患者へのインタビューに備えましょう。

9 回目までに個人で「事例患者の関連図」を記載し、問題点(看護問題・共同問題)を抽出しておきましょう。

11 回目までに優先度 1 位の問題点について個人で「目標設定、計画立案」しておきましょう。

13 回目までにグループメンバーで役割を決めて計画を一部実践し、みんなの前でロールプレイできるように準備しておきましょう。

14 回目までにグループで実施した内容の場面の「経過記録(SOAP)」を個人で記載しておきましょう。

15 回目終了時に慢性期の看護過程のレポート用紙をすべて提出して頂きます。(提出日時：15 回目 講義終了時)

#### 【使用するテキスト】

南川雅子他著 系統看護学講座 専門分野 成人看護学(5) 消化器 医学書院 2024

茂野香おる他著 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学(2) 基礎看護技術 I 医学書院 2024

任和子他著 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学(3) 基礎看護技術 II 医学書院 2024

矢永勝彦他編 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 医学書院 2024

北島政樹他編 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論 医学書院 2024

リング J. カルベント著 黒江ゆり子監 看護診断ハンドブック 第 12 版 医学書院 2023

#### 【参考文献】

渡邊トシ子編 ヘンダーソン・ゴードンの考えに基づく 実践看護アセスメント ニューベルヒロカワ 2015

中島恵美子他編 ナーシング・グラフィカ 成人看護学④ 周術期看護 メディカ出版 2024

【評価方法】

事例を用いた看護過程の展開におけるレポート課題及びグループワーク・演習参加態度（100 点）

外スル° 亜沙美：課題レポートを含む演習への取り組み・成果（30 点）

木下由理子：課題レポートを含む演習への取り組み・成果（70 点）

課題レポートは指定された日時までに提出してください。指定日時までに提出されたものを評価の対象とします。

【受講上の注意】

グループワーク、技術演習には予習を行ってから臨み、主体的・積極的に参加すること。

事前学習や復習など自分で学習スケジュールを立て、計画的に行なっていきましょう。

科目 No.71

分野	専門分野	科目	老年看護学：老年看護の概論																																																
必修・選択	必修	単位数 時間数（回数）	1 単位 30 時間（15 回）	配当時期	2 年前期																																														
講師名	木下由理子	所属および実務経験	専任教員／看護師																																																
<p>【科目のねらい】</p> <p>医療の発達による高齢化は今後も加速し、「人生 100 年時代」に突入するといわれています。高齢化の進んだわが国では、病院でも地域でも、看護の対象の多くは高齢者です。老年看護の目標は、高齢者のもつ健康あるいは生活上のリスクの最小化と可能性の最大化をはかる看護を通して、その人の望む自律的な生き方の実現と安らかな死に貢献することであり、高齢者のニーズを中心に、家族、日々を営む生活環境、医療や介護保険制度のヘルスケアシステムに注目し、必要な看護はなにかアセスメントしていくことが重要となります。ここでは、老年看護を实践する上で必要な知識として、高齢者の理解、高齢者をとりまく社会、老年看護の基本について学んでいきます。</p>																																																			
<p>【目的】老年看護を实践する上で、必要な知識（高齢者の理解、高齢者をとりまく社会、老年看護の基本）を養う。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 老年期をライフサイクルの流れの中で説明することができる。</li> <li>2. 高齢者疑似体験を通して、高齢者の身体機能の変化と心理状態について述べるができる。</li> <li>3. 高齢者疑似体験から、加齢現象が高齢者の日常生活にどのように影響しているかを考察することができる。</li> <li>4. 日本の超高齢社会の統計的輪郭を概観し、これまでの保健医療福祉の変遷と将来予測について説明することができる。</li> <li>5. 高齢者の権利擁護について、看護師の役割を述べるができる。</li> <li>6. 老年看護の基本的な考え方について説明することができる。</li> <li>7. 高齢者の理解や老年看護の实践にかかわる基本的な理論について説明することができる。</li> <li>8. 事例演習を通して、ヘルスアセスメント（身体的・精神的・社会的な視点から総合的に査定すること）ができる。</li> <li>9. 加齢変化が事故発生に与える影響と、その安全対策について考察することができる。</li> </ol>																																																			
<p>【DPとの関連】</p> <p>DP1 人々の様々な価値観を尊重したコミュニケーションを図り、より良い人間関係を築くことができる。</p> <p>DP2 看護専門職の役割と責務を自覚し、倫理的判断に基づく看護実践やリーダーシップを示すことができる。</p> <p>DP3 対象の反応から臨床判断し、健康レベルに応じた看護を科学的根拠に基づき実践することができる。</p> <p>DP4 対象のQOL（Quality Of Life：生活の質）向上を目指し、対象の持てる力を活かした看護や安心・安全な生活を支援する看護を実践することができる。</p> <p>DP5 多様な場で生活するあらゆる人々の健康に着目し、地域包括ケアシステム、チーム医療や多職種との連携・協働の視点を持ち看護を实践することができる。</p>																																																			
<p>【授業の流れ】（全体スケジュール・学習内容・方法等）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>日程</th> <th>1 組</th> <th>2 組</th> <th>学習内容</th> <th>方法</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>4/2</td> <td colspan="2">4</td> <td>老いるということ、老いを生きているということ</td> <td>講義 演習 ポストテスト（5）</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>4/10</td> <td>1</td> <td>3</td> <td rowspan="2">高齢者疑似体験：校内を探索し、高齢者が感じる不自由さを体験する 身体的な機能低下や機能低下に伴う高齢者の心理状態について</td> <td rowspan="2">演習</td> <td rowspan="2"></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>4/10</td> <td>2</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>4/16</td> <td colspan="2">1</td> <td>高齢者疑似体験から、加齢現象が高齢者の日常生活にどのように影響しているかを考える 演習の成果を発表し共有する</td> <td>演習</td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>4/25</td> <td colspan="2">3</td> <td>超高齢社会と社会保障 超高齢社会の統計的輪郭（現況、高齢者と家族、高齢者の健康、高齢者の生活と暮らし） 高齢社会における保健医療福祉の動向 演習：「2025 年問題」で議論されている課題について</td> <td>講義 演習 ポストテスト（5）</td> <td></td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>5/2</td> <td colspan="2">3</td> <td>超高齢社会と社会保障 高齢者の権利擁護 演習：高齢者虐待について</td> <td>講義 演習 ポストテスト（5）</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>						回	日程	1 組	2 組	学習内容	方法	備考	1	4/2	4		老いるということ、老いを生きているということ	講義 演習 ポストテスト（5）		2	4/10	1	3	高齢者疑似体験：校内を探索し、高齢者が感じる不自由さを体験する 身体的な機能低下や機能低下に伴う高齢者の心理状態について	演習		3	4/10	2	4	4	4/16	1		高齢者疑似体験から、加齢現象が高齢者の日常生活にどのように影響しているかを考える 演習の成果を発表し共有する	演習		5	4/25	3		超高齢社会と社会保障 超高齢社会の統計的輪郭（現況、高齢者と家族、高齢者の健康、高齢者の生活と暮らし） 高齢社会における保健医療福祉の動向 演習：「2025 年問題」で議論されている課題について	講義 演習 ポストテスト（5）		6	5/2	3		超高齢社会と社会保障 高齢者の権利擁護 演習：高齢者虐待について	講義 演習 ポストテスト（5）	
回	日程	1 組	2 組	学習内容	方法	備考																																													
1	4/2	4		老いるということ、老いを生きているということ	講義 演習 ポストテスト（5）																																														
2	4/10	1	3	高齢者疑似体験：校内を探索し、高齢者が感じる不自由さを体験する 身体的な機能低下や機能低下に伴う高齢者の心理状態について	演習																																														
3	4/10	2	4																																																
4	4/16	1		高齢者疑似体験から、加齢現象が高齢者の日常生活にどのように影響しているかを考える 演習の成果を発表し共有する	演習																																														
5	4/25	3		超高齢社会と社会保障 超高齢社会の統計的輪郭（現況、高齢者と家族、高齢者の健康、高齢者の生活と暮らし） 高齢社会における保健医療福祉の動向 演習：「2025 年問題」で議論されている課題について	講義 演習 ポストテスト（5）																																														
6	5/2	3		超高齢社会と社会保障 高齢者の権利擁護 演習：高齢者虐待について	講義 演習 ポストテスト（5）																																														

7	5/2	4	老年看護のなりたち 老年看護の基本的な考え方、老年看護における理論・概念の活用 発達理論、サクセスフルエイジング、自尊感情、ストレングスモデル、自己効 力感	講義 ポストテスト (5)	
8	5/15	3	高齢者のヘルスアセスメント 事例演習	講義 演習	
9	5/15	4			
10	5/23	3			
11	5/23	4			
12	5/29	3	高齢者のリスクマネジメント 高齢者と医療安全	講義 演習 ポストテスト (5) 13 回	
13	5/29	4			
14	6/5	3	高齢者のリスクマネジメント 高齢者と災害	講義 演習 ポストテスト (5) 15 回	
15	6/5	4			
6月21日(金) 1限目			終了試験		
<p>【準備学習内容】</p> <p>テキストによる事前学習をしっかりと行いましょう。テキスト学習を踏まえて授業は進んでいきます。</p> <p>重要な箇所にはマーカーする、ディスカッション時に活用できるようポイントをメモしておくなど工夫し自己学習しましょう。</p> <p>講義開始前に必ず、「目で見える老年看護学 Vol.1～3」の動画視聴をしてから講義に参加しましょう。</p> <p>講義後の事後学習にも動画視聴を活用しましょう。</p> <p>2 回目的高齢者疑似体験までに、加齢に伴う身体的・心理的・社会的な変化について、1 回目講義時に配られるプリント事前にレポートにまとめておきましょう。課題レポートは、4 回目の授業終了後、提出となります。</p> <p>グループワークでは、提示された事例を通じてディスカッションを行い、学びを深めています。グループワークの姿勢やグループ発表した内容が評価の対象になりますので、積極的に自ら学ぶ姿勢をもってグループ学習に取り組みましょう。</p> <p>5 回目は、高齢社会における保健医療福祉の動向について、社会保障・社会福祉と連携の学習を活用しながら復習しておきましょう。「2025 年問題」で議論されている課題については調べ学習を行ない、事前にレポートにまとめておきましょう。課題レポートは授業終了後、提出となります。</p> <p>6 回目は、新聞記事の検索システムや厚生労働省の資料を参考に、高齢者虐待に関する報道について調べ学習を行ない、事前にレポートにまとめておきましょう。グループディスカッションしていきます。課題レポートは、授業終了後、提出となります。</p> <p>12 回目～13 回目は、新聞記事の検索システムや厚生労働省の資料を参考に、高齢者の医療事故について調べ学習を行ない、事前にレポートにまとめておきましょう。グループディスカッションしていきます。課題レポートは、13 回目の授業終了後、提出となります。</p> <p>8 回目～11 回目の演習は、事例演習を行ないます。事前課題は、授業の際に提示します。</p> <p>【使用するテキスト】</p> <p>北川公子他著 系統看護学講座 専門分野 老年看護学 医学書院 2024</p> <p>鳥羽研二他著 系統看護学講座 専門分野 老年看護 病態・疾患論 医学書院 2024</p> <p>福田素生他著 系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度[3] 社会保障・社会福祉 医学書院 2024</p> <p>【参考文献】</p> <p>堀内ふき他編 ナーシング・グラフィカ 老年看護学① 高齢者の健康と障害 メディカ出版 2024</p> <p>堀内ふき他編 ナーシング・グラフィカ 老年看護学② 高齢者看護の実践 メディカ出版 2024</p> <p>谷津裕子他 監修 看護がみえる vol.5 対象の理解 1 第 1 版 メディックメディア 2023</p> <p>厚生労働省：高齢者虐待防止関連調査・資料、医療安全対策 (<a href="https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/hukushi_kaigo/kaigo_koureisha/boushi/index.html">https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/hukushi_kaigo/kaigo_koureisha/boushi/index.html</a>)</p> <p>【評価方法】</p> <p>授業終了時のポストテスト (30 点)、課題レポートを含む演習への取り組み・成果 (30 点)、筆記試験 (40 点)</p> <p>課題レポートは指定された日時までに提出してください。指定日時までに提出されたものを評価の対象とします。</p> <p>【受講上の注意】</p> <p>予習・復習など自分で学習スケジュールを立て、計画的に行なっていきましょう。</p> <p>講義の時間を有効に、分からない事はそのままにせずその日のうちに解決できるよう自ら質問等を行いましょう。</p>					

科目 No.72

分野	専門分野	科目	老年看護学：老年看護の方法Ⅰ			
必修・選択	必修	単位数 時間数（回数）	1 単位 30 時間（15 回）	配当時期	2 年全期	
講師名	渡邊和子	所属および実務経験	元専任教員／看護師			
<p>【科目のねらい】</p> <p>加齢による機能低下や疾病・障害のある高齢者では、日常生活動作（ADL）の能力が低下することが少なくありません。このことは、高齢者の自己実現や尊重の欲求の充足にも影響し、QOL を低下させる要因にもなります。医療体制が病院から地域へ移行してきていることから、地域全体で高齢者ケアを考え、生活機能に着目し、持てる力や強みを活かした自助力を支援する看護を実践していくことが必要となります。ここでは、老年看護の概論で学んだ知識をもとに、高齢者の生活機能を整える看護について学んでいきましょう。</p>						
<p>【目的】 高齢者の生活機能に着目し、持てる力や強みを活かした自助力を支援する看護を実践できる基礎的能力を養う。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 高齢者とのコミュニケーションとかかわり方について説明することができる。</li> <li>2. 演習を通して、高齢者の歩行・移動のアセスメントと看護を実施することができる。</li> <li>3. 演習を通して、高齢者の睡眠と覚醒のアセスメントと看護を考察することができる。</li> <li>4. 演習を通して、高齢者の食生活のアセスメントと看護を実施することができる。</li> <li>5. 演習を通して、高齢者の排泄障害のアセスメントと看護を実施することができる。</li> <li>6. 演習を通して、高齢者の清潔・衣生活のアセスメントと看護を実施することができる。</li> <li>7. 高齢者のセクシュアリティのアセスメントと看護について説明することができる。</li> <li>8. 地域における高齢者の社会参加の必要性について述べるることができる。</li> </ol>						
<p>【DPとの関連】</p> <p>DP1 人々の様々な価値観を尊重したコミュニケーションを図り、より良い人間関係を築くことができる。</p> <p>DP2 看護専門職の役割と責務を自覚し、倫理的判断に基づく看護実践やリーダーシップを示すことができる。</p> <p>DP3 対象の反応から臨床判断し、健康レベルに応じた看護を科学的根拠に基づき実践することができる。</p> <p>DP4 対象者のQOL向上を目指し、対象の持てる力を活かした看護や安心・安全な生活を支援する看護を実践することができる。</p> <p>DP5 多様な場で生活するあらゆる人々の健康に着目し、地域包括ケアシステム、チーム医療や多職種との連携・協働の視点を持ち看護を実践することができる。</p>						
【授業の流れ】（全体スケジュール・学習内容・方法等）						
回	日程	1 組	2 組	学習内容	方法	備考
1	6/6	4		生活機能に着目する意味 コミュニケーション 高齢者の聴覚・視覚機能、精神機能 高齢者疑似体験を活かし、アセスメントと看護を考える	講義・演習 ポストテスト（4）	
2	6/11	1		日常生活を支える基本的活動 ADL、IADL、環境、転倒、骨粗鬆症、骨折、廃用症候群	講義・演習	
3	6/11	2		演習Ⅰ：左片麻痺のある高齢者の運動器の観察（MMT・関節可動域）と 自動・他動運動の援助	ポストテスト（5） 2 回	
4	6/19	3	4	演習Ⅱ：左片麻痺のある高齢者の転倒のアセスメントと看護 安全な療養環境（転倒・転落・外傷予防）	課題レポート 演習Ⅰ・Ⅱ	
5	6/25	2		生活リズム 加齢に伴う睡眠と覚醒の変化、高齢者にみられる睡眠の障害 睡眠障害のある高齢者のアセスメントと看護を考える	講義 演習 ポストテスト（3）	
6	6/25	3		食事・食生活 食生活、脱水、摂食・嚥下障害、低栄養 演習Ⅲ：脳梗塞の嚥下障害のある高齢者の食事介助 嚥下訓練・義歯の取り扱いと口腔ケア	講義 演習 ポストテスト（5） 6 回 課題レポート 演習Ⅲ	
7	6/25	4				
8	7/3	4	3			

9	7/10	3	排泄 排尿障害、排便障害	講義・演習 ポストテスト(5) 9回	
10	7/10	4	演習Ⅳ：排便障害(便秘)がある高齢者の排泄の援助、摘便	課題レポート 演習Ⅳ、Ⅴ	
11	7/17	3	4	演習Ⅴ：排便障害(尿失禁)がある高齢者の排泄の援助	
12	10/15	3	清潔・衣生活、身だしなみ、おしやれ 演習Ⅵ：皮膚障害・関節拘縮のある高齢者のシャワー浴・入浴介助	講義・演習 ポストテスト(5) 12回	
13	10/17	4	3	左片麻痺のある高齢者のシャワー浴・入浴介助 演習後、気づきと学びの共有	課題レポート 演習Ⅵ
14	10/23	3	セクシュアリティ 社会参加	講義 ポストテスト(3)	
15	10/23	4	学習のまとめ	演習	
10月28日(月) 1限目			終了試験		
<p>【準備学習内容】</p> <p>疾病と治療・基礎看護技術の学習を活用できるように復習しておきましょう。</p> <p>テキストによる事前学習をしっかりと行いましょう。テキスト学習を踏まえて授業は進んでいきます。</p> <p>重要な箇所にはマーカーする、ディスカッション時に活用できるようポイントをメモしておくなど工夫し自己学習しましょう。</p> <p>講義開始前に必ず、「目で見える老年看護学 Vol.4.5」の動画視聴をしてから講義に参加しましょう。</p> <p>講義後の事後学習にも動画視聴を活用しましょう。</p> <p>演習Ⅰ～Ⅵについては、各演習前までに、事例高齢者の生活機能を整える看護について事前に配布されるレポートにまとめておき、演習後に学びを記載したのちに、提出となります。</p>					
<p>【使用するテキスト】</p> <p>北川公子他著 系統看護学講座 専門分野 老年看護学 医学書院 2024</p> <p>鳥羽研二他著 系統看護学講座 専門分野 老年看護 病態・疾患論 医学書院 2024</p> <p>茂野香おる他著 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[2] 基礎看護技術Ⅰ 医学書院 2024</p> <p>任和子他著 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 2024</p> <p>藤本真紀子他監 看護がみえる① 基礎看護技術 メディックメディア 2022</p> <p>近藤一郎他監 看護がみえる② 臨床看護技術 メディックメディア 2022</p>					
<p>【参考文献】</p> <p>堀内ふき他編 ナーシング・グラフィカ 老年看護学① 高齢者の健康と障害 メディカ出版 2024</p> <p>堀内ふき他編 ナーシング・グラフィカ 老年看護学② 高齢者看護の実践 メディカ出版 2024</p>					
<p>【評価方法】</p> <p>授業終了時のポストテスト(30点)、課題レポートを含む演習への取り組み・成果(30点)、筆記試験(40点)</p> <p>課題レポートは指定された日時までに提出してください。指定日時までに提出されたものを評価の対象とします。</p> <p>チェックリストや技術の動画は、指定された日時までに提出してください。</p> <p>到達レベル 演習Ⅰ：シャワー浴・入浴の介助、摘便、自動運動・他動運動の援助、安全な療養環境(転倒・転落・外傷予防)</p> <p>到達度の確認は、以下のいずれかでを行う。詳細は別紙参照。</p> <p>演習中の技術確認、チェックリストを活用したグループ学習の自己評価と他者評価の提出、自己練習後の動画提出、対面による技術試験など</p>					
<p>【受講上の注意】</p> <p>事前学習や復習など自分で学習スケジュールを立て、計画的に行なっていきましょう。</p> <p>チェックリストを用いて自己評価を行ないながら技術練習していきましょう。指定された技術の動画を提出してもらい技術の到達度を確認します。</p>					

科目 No.73

分野	専門分野	科目	老年看護学：老年看護の方法Ⅱ			
必修・選択	必修	単位数 時間数（回数）	1 単位 30 時間（15 回）	配当時期	2 年後期	
講師名	林田美香	所属および実務経験	専任教員／看護師			
<p>【科目のねらい】</p> <p>高齢者の心身の状態は、複数の慢性疾患、認知機能の低下やフレイルといわれる状態など、複合的な問題を抱えていることが特徴です。ここでは高齢者に特有な症状や疾患・障害をもつ対象及び家族に対し、生活機能に着目し、持てる力や強みを活かした自助力を支援するためにはどのような看護を实践する必要があるか、事例演習を通して学んでいきます。また、高齢者が住み慣れた地域で自分らしい暮らしを最後まで継続できるよう、高齢者のニーズに合わせて多職種連携・協働していくことが重要です。保健医療福祉にかかわる専門職の養成機関の他学生と、事例を通して協同学習することで、ほかの職種の役割や専門性、自身の専門性や責任を理解する機会としていきましょう。</p>						
<p>【目的】複合的な疾患をもつ高齢者やその家族に対して、科学的根拠に基づき生活機能の視点から看護を考える基礎的能力を養う。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 対象の反応、病態や治療の影響などを踏まえて健康状態を判断することができる。</li> <li>2. 一般論や理論を用いて、科学的根拠を踏まえて判断することができる。</li> <li>3. 対象の発達の特徴や家族の視点を踏まえて看護計画を立案することができる。</li> <li>4. 対象の持てる力を活かし、安心・安全な看護を追求することができる。</li> <li>5. 専門職連携教育（IPE）を通して、ほかの職種の役割や専門性、自身の専門性や責任について述べるることができる。</li> </ol>						
<p>【DPとの関連】</p> <p>DP1 人々の様々な価値観を尊重したコミュニケーションを図り、より良い人間関係を築くことができる。</p> <p>DP2 看護専門職の役割と責務を自覚し、倫理的判断に基づく看護実践やリーダーシップを示すことができる。</p> <p>DP3 対象の反応から臨床判断し、健康レベルに応じた看護を科学的根拠に基づき実践することができる。</p> <p>DP4 対象のQOL（Quality Of Life：生活の質）向上を目指し、対象の持てる力を活かした看護や安心・安全な生活を支援する看護を実践することができる。</p> <p>DP5 多様な場で生活するあらゆる人々の健康に着目し、地域包括ケアシステム、チーム医療や多職種との連携・協働の視点を持ち看護を実践することができる。</p>						
<p>【授業の流れ】（全体スケジュール・学習内容・方法等）</p>						
回	日程	1 組	2 組	学習内容	方法	備考
1	10/21	1		高齢者に多い健康障害と対象及び家族への看護	講義 演習	
2	10/31	3		事例演習 1：パーキンソン病		
3	10/31	4		臨床判断	ポストテスト(10) 4 回目	
4	11/6		1	発表と学びの共有		
	11/7	1			課題レポート	
5	11/6	2		事例演習 2：大腿骨骨折術後に誤嚥性肺炎を併発した高齢者	講義 演習	
	11/7	2		臨床判断		
6	11/13	4		グループ学習	ポストテスト(10) 8 回目	
7	11/18	4		発表と学びの共有		
8	11/27	2	1		課題レポート	
9	11/29	4		事例演習 3：認知症があり、糖尿病で自己管理が必要な高齢者	講義 演習	
10	12/9	2		臨床判断		
11	12/16	2		グループ学習		
12	12/16	4	3	発表と学びの共有		
13	3/8	1		高齢者を支える多職種連携と看護活動の多様化	演習	
14	3/15	1		専門職連携協働（IPE）管理栄養士・言語療法士・作業療法士・歯科医師・歯科衛生士・看護師養成の協同学習 「摂食・嚥下チームとして活動してみよう」	ポストテスト(10) 15 回目	専門職連携 教育（IPE）
15	3/15	2		事例①：脳梗塞の嚥下困難にある後期高齢者	課題レポート	
				事例②：認知症によりセルフケアが不十分な後期高齢者		

	試験		
<p><b>【準備学習内容】</b></p> <p>テキストによる事前学習をしっかりと行いましょう。テキスト学習を踏まえて授業は進んでいきます。</p> <p>重要な箇所にはマーカーする、ディスカッション時に活用できるようポイントをメモしておくなど工夫し自己学習しましょう。</p> <p>一人ひとりが調べ学習をしっかりと行ない、演習が効果的な時間となるよう努めましょう。</p> <p>事例演習 1～3 の事前課題は授業の際に提示しますが、講義までに事例疾患患者の看護については事前学習を行っておきましょう。</p> <p>事例演習 1 の事前・事後学習には、動画視聴「アセスメント事例集 Vo3」を活用しましょう。</p> <p>事例演習 3 の事前・事後学習には、動画視聴「目で見える老年看護 Vol.7」を活用しましょう。</p> <p>13 回目～15 回目は専門職連携について学びます。事前に事例を提示します。看護の視点を持ち、テーマに対して思考し、グループの見解をまとめ、レポートしたものを持参してください。課題レポートは 15 回目の授業終了後、提出となります。</p> <p>また、事前・事後学習には動画視聴「目で見える老年看護 Vol.5. 6」を活用しましょう。</p>			
<p><b>【使用するテキスト】</b></p> <p>北川公子他著 系統看護学講座 専門分野 老年看護学 医学書院 2024</p> <p>鳥羽研二他著 系統看護学講座 専門分野 老年看護 病態・疾患論 医学書院 2024</p>			
<p><b>【参考文献】</b></p> <p>堀内ふき他編 ナーシング・グラフィカ 老年看護学① 高齢者の健康と障害 メディカ出版 2024</p> <p>堀内ふき他編 ナーシング・グラフィカ 老年看護学② 高齢者看護の実践 メディカ出版 2024</p>			
<p><b>【評価方法】</b></p> <p>授業終了時のポストテスト（30 点）、課題レポートを含む演習への取り組み・成果（70 点）</p> <p>課題レポートは指定された日時までに提出してください。指定日時までに提出されたものを評価の対象とします。</p>			
<p><b>【受講上の注意】</b></p> <p>事前学習や復習など自分で学習スケジュールを立て、計画的に行なっていきましょう。</p>			

科目 No.74

分野	専門分野	科目	看護の統合と実践：看護マネジメント			
必修・選択	必修	単位数 時間数（回数）	1 単位 16 時間（8 回）	配当時期	3 年前期	
講師名	原田喜代子	所属および実務経験	元九州中央病院看護部長／元認定看護管理者			
<p>【科目のねらい】</p> <p>看護の統合と実践の科目は、これまで学び積み上げてきた基礎的知識・技術とところを統合し、より良い看護への追求を深める科目です。</p> <p>看護職にはチームや組織、システムを動かし、対象に必要な看護を病院のみならず地域の保健医療福祉の場でマネジメントしていく力が求められます。そして、そのマネジメントは管理者だけの仕事ではなく、すべての看護職が担う役割なのです。</p> <p>この科目では、看護マネジメントの概念を学び、チーム医療・多職種との協働・看護ケアにおける看護師としての責務とリーダーシップ・メンバーシップの重要性について学んでいきます。</p> <p>マネジメントの意義や重要性を理解することで、ひとり一人が専門職業人としての自覚と責任感を高める機会としていきましょう。</p>						
<p>【目的】既習学習を統合し、看護の質の向上に向けたあらゆる場における看護マネジメントについての基盤を養う。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 組織の構造とその原則について整理し、組織マネジメントとの関連で説明することができる。</li> <li>2. 看護職が提供する看護ケアのマネジメントについて必要性及び実際を具体的に説明することができる。</li> <li>3. チーム医療や多職種との連携についてマネジメントの視点から考察することができる。</li> <li>4. 看護サービスマネジメントの必要性及びマネジメントの実際について具体的に説明することができる。</li> <li>5. 自己のキャリア形成と今後の課題について考察することができる。</li> <li>6. 看護職に関連する法制度を踏まえ、看護業務と職業倫理について列記することができる。</li> </ol>						
<p>【DPとの関連】</p> <p>DP1 人々の様々な価値観を尊重したコミュニケーションを図り、より良い人間関係を築くことができる。</p> <p>DP2 看護専門職の役割と責務を自覚し、倫理的判断に基づく看護実践やリーダーシップを示すことができる。</p> <p>DP3 対象の反応から臨床判断し、健康レベルに応じた看護を科学的根拠に基づき実践することができる。</p> <p>DP4 対象のQOL（Quality Of Life：生活の質）向上を目指し、対象の持てる力を活かした看護や安心・安全な生活を支援する看護を実践することができる。</p> <p>DP5 多様な場で生活するあらゆる人々の健康に着目し、地域包括ケアシステム、チーム医療や多職種との連携・協働の視点を持ち看護を実践することができる。</p> <p>DP6 心身の健康管理能力及び社会人基礎力や情報活用能力を発展させ、看護の質の向上を目指し、自ら学び続ける姿勢を表現することができる。</p>						
【授業の流れ】（全体スケジュール・学習内容・方法等）						
回	日程	1 組	2 組	学習内容	方法	備考
1	4/4	3	3	看護におけるマネジメント 基本的要素、マネジメント活動、マネジメントプロセスとマネジメントサイクル、マネジメント理論 看護マネジメントが行われる場、組織とマネジメント及び原則	講義 ポストテスト（4）	
2	4/4	4	4	看護ケアのマネジメント 看護職の機能、看護基準と看護手順、患者の権利、安全管理、看護ケアシステム	講義 演習 ポストテスト（4）	
3	4/9	3	3	多職種との連携、情報共有・情報管理 看護基準・看護手順・マニュアル等の活用について	×2 回 課題レポート（5）	
4	4/9	4	4	看護サービスのマネジメント 理念の浸透、看護の組織化、看護単位の管理、労務管理、情報マネジメント 病院機能評価	講義 ポストテスト（4）	
5	4/19	3	3	看護教育・キャリア開発、看護職員教育と看護教育の展望、看護師養成制度と就業状況 看護職のキャリア形成について	講義 演習 ポストテスト（4） 課題レポート（5）	
6	4/19	4	4	看護を取り巻く制度・行政、看護の需要と供給及び質の問題 看護の経営への参画と診療報酬制度と看護	講義 ポストテスト（4）	

7	4/23	3	3	より良い看護実践を目指す看護管理の必要性 医療の質、安全文化の向上のための活動、トッパダウンとホトムアッパ、パートナーシップ	講義 演習 課題レポート (5)	
8	4/23	4	4	看護サービスのマネジメント 組織目的達成のマネジメントの実際 看護業務基準、クリティカルパス、院内感染対策	演習	

4月26日(金) 2限目	試験
<p>【準備学習内容】</p> <p>テキストによる事前学習をしっかりと行いましょう。テキスト学習を踏まえて授業は進んでいきます。 重要な箇所にはマーカーする、ディスカッション時に活用できるようポイントをメモしておくなど工夫し自己学習しましょう。 一人ひとりが調べ学習をしっかりと行い、演習が効果的な時間となるよう努めましょう。 3回目の授業までに、病院や施設などの看護基準・看護手順・マニュアル等（ネット上で公開されているもの又は文献）について調べ学習を行い、資料をまとめ、基準や手順およびマニュアルの意義について考察を事前にレポートしておきましょう。演習で活用していきます。3回目の演習時に持参してください。授業後に提出してください。 5回目の授業までに、日本看護協会や福岡県看護協会のHPを閲覧し、どのような研修制度があるか調べ学習を行い、事前にレポートにまとめておきましょう。5回目の演習時に持参してください。授業後に提出してください。 7回目の授業までに、病院（自分が関心を持っている病院など）のHPを閲覧し、病院の理念・看護部の理念・組織化・委員会の構造などについて調べ学習を行い、事前にレポートにまとめておきましょう。8回目の演習時に持参してください。授業後に提出してください。</p>	
<p>【使用するテキスト】</p> <p>上泉和子他著 系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践[1] 看護管理 医学書院 2024</p>	
<p>【参考文献】</p> <p>小澤かおり編 看護の統合と実践① 看護実践マネジメント/医療安全 メヂカルフレンド社 2024 吉田千文他編 ナーシング・グラフィカ 看護の統合と実践① 看護管理 メディカ出版 2024 太田加世編 看護管理ファーストブック 改訂第2版 学研メディカル秀潤社 2019 太田加世編 看護管理セカンドブック 学研メディカル秀潤社 2016</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>授業終了時のポストテスト（24点）、課題レポートを含む演習への取り組み・成果（15点）、筆記試験（61点） 課題レポートは、指定された日時までに提出してください。指定日時までに提出されたものを評価の対象とします。</p>	
<p>【受講上の注意】</p> <p>看護の統合と実践の科目です。また16時間科目です。つまり自己学習が29時間となります。 これまでの学びを活かして、主体的に能動的に自ら学びをデザインする意識を高めて取り組みましょう。</p>	

科目 No.75

分野	専門分野	科目	看護の統合と実践：医療安全			
必修・選択	必修	単位数 時間数（回数）	1 単位 30 時間（15 回）	配当時期	3 年前期	
講師名	丸山裕子	所属および実務経験	済生会福岡総合病院 安全管理部 看護係長/看護師			
	高松麻由美		済生会福岡総合病院 安全管理部 看護課長/看護師			
【科目のねらい】						
<p>看護の統合と実践の科目は、これまで学び積み上げてきた基礎的知識・技術とところを統合し、より良い看護への追求を深める科目です。</p> <p>看護者の実践能力は「安全」であることが重要であり、それは対象の安心や自立につながるものです。看護は常にリスクマネジメントしながら患者安全を目指します。</p> <p>この科目では、医療の質を保证するために看護職が身につけるべき医療安全の基礎知識を学び、リスクマネジメントの視点を持ち、安心・安全な看護を提供する基盤を養っていきましょう。また、安全文化を基盤とした組織の取り組みやチーム医療、多職種協働についても学び、医療を担う看護職としての責任感を育む機会としていきましょう。</p>						
【目的】対象の安心につながる安全な看護実践について、リスクマネジメントや組織・システムとしての取り組みについての視点を持ち、医療の質の向上に向けた看護実践を追求し続ける基盤を養う。						
【到達目標】						
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護の責務や法的規定を踏まえて、医療安全の意味と重要性について説明することができる。</li> <li>2. 事故発生の要因と組織的マネジメントの重要性について説明することができる。</li> <li>3. 看護業務に関わる主な医療事故の背景、要因、対策について説明することができる。</li> <li>4. 在宅看護で起こりうる医療事故の背景、要因、対策について説明することができる。</li> <li>5. 自己の安全を脅かす要因と対策を列記することができる。</li> <li>6. インシデントレポートや事故分析の意義を踏まえ、再発防止に役立つ報告及びレポートを書くことができる。</li> <li>7. 患者安全を目指したチーム医療や多職種協働の重要性について考察することができる。</li> </ol>						
【DPとの関連】						
DP2 看護専門職の役割と責務を自覚し、倫理的判断に基づく看護実践やリーダーシップを示すことができる。						
DP3 対象の反応から臨床判断し、健康レベルに応じた看護を科学的根拠に基づき実践することができる。						
DP4 対象のQOL（Quality Of Life：生活の質）向上を目指し、対象の持てる力を活かした看護や安心・安全な生活を支援する看護を実践することができる。						
DP5 多様な場で生活するあらゆる人々の健康に着目し、地域包括ケアシステム、チーム医療や多職種との連携・協働の視点を持ち看護を実践することができる。						
【授業の流れ】（全体スケジュール・学習内容・方法等）						
回	日程	限目	組	学習内容	方法	備考
1	4/10	3	3	医療安全と看護の理念 医療安全の意味と重要性、看護職の法的規定と医療安全	講義 ポストテスト（3）	高松麻由美
2	4/10	4	4	医療安全への取り組みと医療の質の評価	講義 ポストテスト（3）	
3	4/11	3	3	事故発生のメカニズムとリスクマネジメント	講義 ポストテスト（3）	
4	4/11	4	4	チームで取り組む安全文化の醸成 チーム医療、チーム STEPPS、エビデンスに基づく協働	講義 演習 ポストテスト（3）	
5	4/19	2	2	緊急時の応援要請、報告連絡相談、ISBARC	×2 回	
6	4/24	3	3	看護業務に関連する事故と安全対策 1. 看護業務と事故発生要因・危険因子、原因と結果分析の重要性 医療従事者の安全を脅かすリスクと対策	講義 ポストテスト（3）	丸山裕子
7	4/24	4	4	2. 患者取り違え（誤認）及び情報伝達時のトラブル、転倒・転落 事故事例と再発防止策について	講義 演習 ポストテスト（3） 課題レポート（5）	

8	8/30	3	3	3. 誤薬と与薬事故及び針刺し事故 事故事例と再発防止策について 針刺し事故防止と事故後の対応	講義 演習 ポストテスト (3) 課題レポート (5)	丸山裕子
9	8/30	4	4	4. 異物遺残と皮膚障害及びチューブトラブル、経管栄養チューブ事故 事故事例と再発防止策について	講義 演習 ポストテスト (3) 課題レポート (5)	
10	9/4	3	3	5. 医療機器トラブル：輸液ポンプ、シリンジポンプ、人工呼吸器、アラーム対応など 事故事例と再発防止策について	講義 演習 ポストテスト (3) 課題レポート (5)	
11	9/4	4	4	6. 検査・処置時のトラブル 事故事例と再発防止策について	講義 演習 ポストテスト (3) 課題レポート (5)	
12	9/11	4	4	在宅看護における医療事故と安全対策	講義 ポストテスト (3)	
13	9/12	1	2	インシデント・事故分析及びリスク感性の育成 インシデントレポート、アクシデントレポート、事故分析モデル、KYT など 事例演習	講義 演習	高松麻由美
14	9/20	3	4			
15	9/27	3	4			
10月4日(金)3限目				試験		

#### 【準備学習内容】

テキストによる事前学習をしっかりと行いましょう。テキスト学習を踏まえて授業は進んでいきます。

重要な箇所にはマーカーする、ディスカッション時に活用できるようポイントをメモしておくなど工夫し自己学習しましょう。

7 回目～11 回目で学習する「看護業務に関連する事故と安全対策」について、下記の HP などを閲覧し、実際に起きた事故やヒヤリハットとその対策やこれらのテーマに関するマニュアルなどについて調べ学習し、事前にレポートにまとめておきましょう。授業 2 日前までに C-ラーニングに提出すること。（講師が事前に内容を確認されます） 日本医療機能評価機構 病院機能評価事業 <<https://www.jp-hyouka.jcqh.or.jp/>>

#### 【使用するテキスト】

松下由美子他編 ナーシング・グラフィカ 看護の統合と実践② 医療安全 メディカ出版 2024

川村治子著 系統看護学講座 専門分野 看護の統合と実践 [2] 医療安全 医学書院 2024

#### 【参考文献】

河野龍太郎著 医療におけるヒューマンエラー 第2版 なぜ間違えるどう防ぐ 医学書院 2014

日本看護協会 医療安全推進のための標準テキスト 日本看護協会 2013

日本医療機能評価機構 病院機能評価事業 <<https://www.jp-hyouka.jcqh.or.jp/>>

川村治子著 ヒヤリハット 11000 事例によるエラーマップ完全本 医学書院 2003

宮崎和加子著 在宅ケアにおけるリスクマネジメント医療安全推進者ネットワーク

ホームページ<<http://www.medsafe.net/specialist/17miyazaki.html>>

#### 【評価方法】

授業終了時のポストテスト (36 点)、課題レポートを含む演習への取り組み・成果 (25 点)、筆記試験 (39 点)

高松麻由美先生：ポストテスト (15 点)、筆記試験 (24 点)

丸山先生：ポストテスト (21 点) 課題レポート (25 点)、筆記試験 (15 点)

課題レポートは、指定された日時までに提出してください。指定日時までに提出されたものを評価の対象とします。

チェックリストや技術の動画は、指定された日時までに提出してください。

到達レベル 演習 I：患者誤認防止策の実施、インシデント・アクシデントの速やかな報告、針刺し事故の防止・事故後の対応

到達度の確認は、以下のいずれかで行う。詳細は別紙参照。

演習中の技術確認、チェックリストを活用したグループ学習の自己評価と他者評価の提出、自己練習後の動画提出、対面による技術試験など

#### 【受講上の注意】

事前学習や復習など自分で学習スケジュールを立て、計画的に行っていきましょう。

看護の統合と実践の科目です。これまでの学びを活かして、主体的に能動的に自ら学びをデザインする意識を高めて取り組みましょう。

チェックリストを用いて自己評価を行ないながら技術練習していきましょう。指定された技術の動画を提出してもらい技術の到達度を確認します。

科目 No.76

分野	専門分野	科目	看護の統合と実践：災害看護・国際看護			
必修・選択	必修	単位数 時間数（回数）	1 単位 30 時間（15 回）	配当時期	3 年前期	
講師名	牧野祐也	所属および実務経験	済生会福岡総合病院／看護師（日本 DMAT 隊員）			
	岡部美代子		済生会福岡総合病院 看護係長／ 日本看護協会災害支援ナース			
	花田陽子		丘の上の街管理者/看護師			
【科目のねらい】 看護の統合と実践の科目は、これまで学び積み上げてきた基礎的知識・技術とところを統合し、より良い看護への追求を深める科目です。 この科目では、災害直後から支援できる看護の基礎的知識と災害時に必要な看護技術を学びます。災害発生の社会のしくみや支援を実際の看護活動とつなげて学習し、災害サイクルや対象に応じた看護を創造する基盤を学びます。また、国際的視点に立った看護の役割や活動の実際を通して、異文化理解や諸外国の健康課題、在留外国人への看護などについて学びます。						
【目的】災害サイクルに応じた看護の基盤と国際的視点を持ち看護を思考していく姿勢を養う。						
【到達目標】						
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 災害サイクルに応じた看護について例を挙げて説明することができる。</li> <li>2. 災害に伴い発生しやすい健康問題について、その原因や看護を列記することができる。</li> <li>3. 災害時の看護の注意点を説明し、紙上事例に応じた応急手当を、原理原則を踏まえて実践することができる。</li> <li>4. 看護の視点から国際的健康課題を理解し、看護師に求められる役割について考察することができる。</li> </ol>						
【DPとの関連】						
DP1 人々の様々な価値観を尊重したコミュニケーションを図り、より良い人間関係を築くことができる。 DP2 看護専門職の役割と責務を自覚し、倫理的判断に基づく看護実践やリーダーシップを示すことができる。 DP3 対象の反応から臨床判断し、健康レベルに応じた看護を科学的根拠に基づき実践することができる。 DP4 対象のQOL（Quality Of Life：生活の質）向上を目指し、対象の持てる力を活かした看護や安心・安全な生活を支援する看護を実践することができる。 DP5 多様な場で生活するあらゆる人々の健康に着目し、地域包括ケアシステム、チーム医療や多職種との連携・協働の視点を持ち看護を実践することができる。 DP6 心身の健康管理能力及び社会人基礎力や情報活用能力を発展させ、看護の質の向上を目指し、自ら学び続ける姿勢を表現することができる。						
【授業の流れ】（全体スケジュール・学習内容・方法等）						
回	日程	1 組	2 組	学習内容	方法	備考
1	4/5	3	3	災害看護とは（災害とは、災害の種類、災害の特性と人類への影響） 災害サイクルと看護	講義 演習 ポストテスト（3） ×3 回 課題レポート（5）	牧野祐也
2	4/5	4	4	災害サイクル（発災期・急性期・亜急性期・慢性期・復興期・静穏期・前兆期）の特徴と		
3	4/9	1	1	主な災害医療及び看護活動、慢性疾患患者に対する災害看護 DMAT で活動した看護職からのメッセージ		
4	4/9	2	2	主な災害医療及び看護活動 【Keyword】CSCATTT、災害時救助活動チーム、トリアージ、災害関連死	講義 演習 ポストテスト（3） ×2 回	岡部美代子
5	4/12	3	4	災害と健康障害及び看護、クラッシュシンドローム、エコノミークラス症候群予防、 感染防止、要配慮者、避難行動要支援者への看護、避難所における生活支援		
6	4/18	2	2	災害と情報、災害対応にかかわる職種間の連携、災害看護と法律	講義 演習 ポストテスト（3）	岡部美代子
7	4/18	3	3	災害とところのケア 歴史的災害の概観、災害に関連する用語の定義、被災者の心理とケア、遺族の心のケア、	講義 演習 ポストテスト（3） ×2 回	
8	4/18	4	4	基礎的理論：危機理論、悲嘆、レジリエンス、ストレングスモデル、セルフケア理論 援助者の心理とケア 事例演習		

9	4/22	3	1	災害看護のまとめ 災害サイクルに応じた看護の実際：応急処置技術	講義 演習	岡部美代子
10	4/22	4	2	事例別に学習した看護について発表し共有する（実技を含む） 技術：担架移送、止血法、固定法	ポストテスト（3）× 2回	
11	4/4	1	1	国際看護の意義と背景、開発途上国の概要、人間の安全保障	講義 ポストテスト（3）	花田陽子
12	4/4	2	2	国際協力の仕組み、国際救護活動、グローバルヘルス、 プライマリヘルスケア、ヘルスプロモーション ミレニアム開発目標（MDGs）と持続可能な開発目標（SDGs）	講義 演習 ポストテスト（3）	
13	4/11	1	1	基礎的理論：レイニンガーの文化的ケア理論 子どもの健康、女性の健康、感染症と保健活動、異文化看護、 オーナーシップ、文化と価値観の尊重と健康について	講義 演習 ポストテスト（3） 課題レポート（5）	
14	4/11	2	2	訪日外国人・在日外国人など多国籍の人々への看護実践 日本で働く外国人看護師（候補生） 在日外国人への医療サービスについて考える	講義 演習 ポストテスト（3） 課題レポート（5）	
15	4/16	1	1	在外日本人の健康、渡航に関する留意点、海外での看護活動の実勢	講義 ポストテスト（3）	
4月26日（金）1限目				試験		

#### 【準備学習内容】

テキストによる事前学習をしっかりと行いましょう。テキスト学習を踏まえて授業は進んでいきます。

重要な箇所にはマーカーする、ディスカッション時に活用できるようポイントをメモしておくなど工夫し自己学習しましょう。

一人ひとりが調べ学習をしっかりと行い、演習が効果的な時間となるよう努めましょう。

1回目の授業までに「日本で発生した災害」について1つ取り上げ、その概要をレポートにまとめておきましょう。授業時に持参してください。授業後に提出してください。

9回目～10回目の演習前に、包帯法や固定法、担架による移送について自己学習しておきましょう。テキスト巻末にあるQRコードを読み取り動画を視聴しイメージ化を図っておきましょう。

13回目の演習に向けて、文化人類学の復習をし、異文化理解と看護について自分の考えを事前にレポートにまとめておきましょう。授業時、持参してください。授業後に提出してください。

14回目に向けての事前学習として、在日外国人への医療サービス上の課題と対策について、調べ学習を行い、事前にレポートにまとめておきましょう。授業時、持参してください。授業後に提出してください。

#### 【使用するテキスト】

竹下喜久子編 系統看護学講座 専門分野 看護の統合と実践〔3〕 災害看護学・国際看護学 医学書院 2024

安藤雄一他監 公衆衛生がみえる メディックメディア 2022-2023

#### 【参考文献】

小原真理子著 いのちとこころを救う災害看護 学習研究社 2008 ・石井美恵子他監 多職種連携で支える災害医療 医学書院 2017

岩澤和子他編 国際化と看護 メディカ出版 2018

外務省ホームページ ODA（政府開発援助）と地球規模の課題 <[https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/tikyuu\\_kibo.html](https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/tikyuu_kibo.html)>

#### 【評価方法】

授業終了時のポストテスト（45点）、課題レポートを含む演習への取り組み・成果（15点）、筆記試験（40点）

牧野祐也先生：ポストテスト（15点）、課題レポート（5点）、筆記試験（15点）

岡部美代子先生：ポストテスト（15点）、筆記試験（15点）

花田陽子先生：ポストテスト（15点）、課題レポート（10点）、筆記試験（10点）

課題レポートは、指定された日時までに提出してください。指定日時までに提出されたものを評価の対象とします。

チェックリストや技術の動画は、指定された日時までに提出してください。

到達レベル 演習Ⅰ：止血法の実際 到達度の確認は、以下のいずれかで行う。詳細は別紙参照。

演習中の技術確認、チェックリストを活用したグループ学習の自己評価と他者評価の提出、自己練習後の動画提出、対面による技術試験など

#### 【受講上の注意】

事前学習や復習など自分で学習スケジュールを立て、計画的に行っていきましょう。

看護の統合と実践の科目です。これまでの学びを活かして、主体的に能動的に自ら学びをデザインする意識を高めて取り組みましょう。

チェックリストを用いて自己評価を行ないながら技術練習していきましょう。指定された技術の動画を提出してもらい技術の到達度を確認します。

科目 No.77

分野	専門分野	科目	看護の統合と実践：臨床看護の基盤			
必修・選択	必修	単位数 時間数（回数）	1 単位 30 時間（15 回）	配当時期	3 年全期	
講師名	藤木美春	所属および実務経験	専任教員／看護師			
	安田芽吹		専任教員／看護師			
<p>【科目のねらい】</p> <p>看護の統合と実践の科目は、これまで学び積み上げてきた基礎的知識・技術とところを統合し、より良い看護への追求を深める科目です。看護職には対象に応じた看護を創造していく力が求められています。</p> <p>この科目では、多重課題や複数受け持ちの状況における優先度の判断や臨床判断を学び、臨床に即した実践的な考え方に基づくマネジメントをテーマとし学んでいきます。また、看護師に求められる実践能力や卒業時の到達目標から自己分析を行い、課題を明確にし、今後の自己目標を確認し、主体的に課題解決していく姿勢を強化する機会としていきましょう。</p>						
<p>【目的】複数受け持ちや多重課題時の優先順位の考え方や援助の方法を学び、対象に安全で安心につながる看護が実践できる能力を養う。また、卒業時の到達目標の達成に向けた学習計画を立案し、自ら主体的に学習を進める姿勢が向上する。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護師に求められる実践能力と自己の到達度を対照し、課題解決に向けて計画することができる。</li> <li>2. 技術に関する自己の課題解決に向けて、自ら主体的に取り組み、達成度を上げることができる。</li> <li>3. リーダーシップやメンバーシップを図り、看護を実践することができる。</li> <li>4. 技術の原理原則を踏まえ、対象に応じた看護技術を実践することができる。</li> <li>5. 多重課題に対してそのリスクや優先度を踏まえた対処について説明することができる。</li> <li>6. 複数受け持ち場面における優先度を踏まえた判断や実践をすることができる。</li> <li>7. リフレクションの思考を持ち、自己の課題を明確に述べるることができる。</li> </ol>						
<p>【DPとの関連】</p> <p>DP1 人々の様々な価値観を尊重したコミュニケーションを図り、より良い人間関係を築くことができる。</p> <p>DP2 看護専門職の役割と責務を自覚し、倫理的判断に基づく看護実践やリーダーシップを示すことができる。</p> <p>DP3 対象の反応から臨床判断し、健康レベルに応じた看護を科学的根拠に基づき実践することができる。</p> <p>DP4 対象のQOL（Quality Of Life：生活の質）向上を目指し、対象の持てる力を活かした看護や安心・安全な生活を支援する看護を実践することができる。</p> <p>DP5 多様な場で生活するあらゆる人々の健康に着目し、地域包括ケアシステム、チーム医療や多職種との連携・協働の視点を持ち看護を実践することができる。</p> <p>DP6 心身の健康管理能力及び社会人基礎力や情報活用能力を発展させ、看護の質の向上を目指し、自ら学び続ける姿勢を表現することができる。</p>						
【授業の流れ】（全体スケジュール・学習内容・方法等）						
回	日程	1組	2組	学習内容	方法	備考
1	9/3	1	1	科目のねらいと学習内容及び学ぶ姿勢 看護実践能力とリフレクション 看護師に求められる実践能力と卒業時の到達目標 看護師教育の技術教育と卒業時の到達目標 自己評価と課題の明確化	講義 演習 課題レポート（5）	藤木美春
2	9/3	2	2	看護実践マネジメント チーム医療におけるリーダーシップとメンバーシップ 基礎的理論：リーダーシップ理論、マネジメント	講義 演習 ポストテスト（3）	
3	9/10	1	1	多重課題への対処	演習 講義	
4	9/10	2	2	多重課題事例の演習	課題レポート（5）	
5	9/10	3	3	【Keyword】臨床判断・状況把握・コミュニケーション・優先順位の判断・KYT・	ポストテスト（3）×4	
6	9/10	4	4	PDCA サイクル 相互支援・チーム連携・技術の原理原則を踏まえた実践	回	
7	9/18	2	2	複数患者受け持ち事例演習	演習	
8	9/18	3	3	複数の対象の状況・多重課題に対応した看護について根拠を持って考える—	講義	
9	9/18	4	4	計画立案 実践に向けての準備—技術演習など	課題レポート(10)	

10	10/1	2		複数患者事例への看護の実際 リフレクションと課題の明確化 原理原則を踏まえた基礎技術の再確認	講義 演習 実践評価への取組 (10)	藤木美春
	10/2		2			
11	10/1	3				
	10/2		3			
12	10/1	4		演習のまとめ 学びの共有	演習 講義 課題レポート(5)	
	10/2		4			
13	12/9	1	1	技術の到達度確認 リスクマネジメントの視点を踏まえ演習を計画し、協同学習を行う 技術の根拠確認及び実践など総合評価 リフレクションと課題の明確化 多様性・複雑性に対応した看護を創造していくために必要なこととは	講義 演習 実践評価への取組 (10)	安田芽吹
14	12/10	1	3	技術のまとめ、演習		
15	12/10	2	4			
12月13日(金) 1限目				試験		
<p><b>【準備学習内容】</b>  テキストによる事前学習をしっかりと行いましょう。テキスト学習を踏まえて授業は進んでいきます。  重要な箇所にはマーカーする、ディスカッション時に活用できるようポイントをメモしておくなど工夫し自己学習しましょう。  一人ひとりが調べ学習をしっかりと行い、演習が効果的な時間となるよう努めましょう。  1 回目は自己評価を行います。臨地実習の技術経験を確認し、自己の経験内容・未経験内容を把握しておきましょう。  「この科目で何を学びたいか」について C-ラーニング上でレポートにまとめておきましょう。  3 回目の演習前に「看護技術の原理原則の意義と自己の課題」についてレポートにまとめておきましょう。授業時に持参してください。授業後に提出してください。  7回目～12 回目は、看護の統合と実践Ⅱ実習前のシミュレーションとなります。提示した通りに記録用紙や学びの提出が必要となります。期日を確認しながら取り組んでいきましょう。  実践評価前には各自、自己の技術を振り返り、事前練習を主体的に行なっていきましょう。  この科目は演習方法や事例演習や技術の実践など、自らデザインし目標達成に向けて主体的に学んでいきます。タイムマネジメントを行い、グループメンバーで協力して事前学習を進めていきましょう。  その他、事前課題は授業の際に提示します。</p>						
<p><b>【使用するテキスト】</b>  小澤かおり編 看護の統合と実践① 看護実践マネジメント/医療安全 メヂカルフレンド社 2024</p>						
<p><b>【参考文献】</b>  原玲子著 学習課題とクイズで学ぶ看護マネジメント入門 第2版 日本看護協会出版会 2020  川島みどり他編 今日の看護指針 臨床実践能力の向上を目指して 看護の科学社 2016  看護技術に関する教科書及び看護の統合と実践の教科書全て</p>						
<p><b>【評価方法】</b>  授業終了時のポストテスト（15点）、実践評価への取組（20点）、課題レポートを含む演習への取り組み（25点）、筆記試験（40点）  課題レポートは、指定された日時までに提出してください。指定日時までに提出されたものを評価の対象とします。</p>						
<p><b>【受講上の注意】</b>  看護の統合と実践の科目です。これまでの学びを活かして、主体的に能動的に自ら学びをデザインする意識を高めて取り組みましょう。</p>						

科目 No.78

分野	専門分野	科目	看護の統合と実践：看護の探求			
必修・選択	必修	単位数 時間数（回数）	1 単位 30 時間（15 回）	配当時期	3 年全期	
講師名	藤木美春 他専任教員	所属および実務経験	専任教員／看護師			
<p>【科目のねらい】</p> <p>看護の統合と実践の科目は、これまで学び積み上げてきた基礎的知識・技術とところを統合し、より良い看護への追求を深める科目です。</p> <p>この科目では、看護に関する探究したいテーマに対するプロジェクト学習を行い、自己のキャリア形成に向けての自己学習力を養うねらいがあります。</p> <p>ICT など活用し、選択したテーマに関して適切で正しい情報を用いながら、根拠を持って表現し、主体的な学習姿勢を強化する機会としていきましょう。</p>						
<p>【目的】対象中心のより良い看護に向けて探求し看護を創造していく基礎的能力を養う。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. プロジェクト学習の計画を立案することができる。</li> <li>2. テーマに対して探求し、ICT を適切に活用しながらプロジェクト学習に取り組むことができる。</li> <li>3. 看護の質の向上を志向し、看護実践能力を向上していくために、主体的姿勢で学習することができる。</li> <li>4. 探求テーマの学習成果を具体的に表現することができる。</li> <li>5. 生涯にわたり継続的な資質や能力の向上を目指す意義について説明することができる。</li> </ol>						
<p>【DP との関連】</p> <p>DP1 人々の様々な価値観を尊重したコミュニケーションを図り、より良い人間関係を築くことができる。</p> <p>DP2 看護専門職の役割と責務を自覚し、倫理的判断に基づく看護実践やリーダーシップを示すことができる。</p> <p>DP3 対象の反応から臨床判断し、健康レベルに応じた看護を科学的根拠に基づき実践することができる。</p> <p>DP4 対象の Q O L（Quality Of Life：生活の質）向上を目指し、対象の持てる力を活かした看護や安心・安全な生活を支援する看護を実践することができる。</p> <p>DP5 多様な場で生活するあらゆる人々の健康に着目し、地域包括ケアシステム、チーム医療や多職種との連携・協働の視点を持ち看護を実践することができる。</p> <p>DP6 心身の健康管理能力及び社会人基礎力や情報活用能力を発展させ、看護の質の向上を目指し、自ら学び続ける姿勢を表現することができる。</p>						
<p>【授業の流れ】（全体スケジュール・学習内容・方法等）</p>						
回	日程	1 組	2 組	学習内容	方法	備考
1	3/18	1	1	学習のエビデンス 科目の目的・目標 学び方：学習方法とその意義 タイムラインの確認 探求したいテーマについて	講義 演習	2 年次 3 月
2	4/12	1	1	グループでプロジェクト学習の方向性を決める 担当教員との面談、指導助言を受ける	演習	
3	4/23	1	1	グループでプロジェクト学習（探求活動） ※グループでゼミの日時を決め、担当教員の指導助言を受けながら決めたテーマについて探求活動を行う（①テーマ・課題の設定、②情報収集、③整理・分析、④まとめ考察） ※活動方法 文献研究、調査研究、実験、フィールドワークなど ※成果発表の準備 発表方法別に準備（口説・示説など） 学会抄録用原稿作成		
4	8/30	1	1			
5	9/2	1	1			
6	9/2	2	2			
7	9/4	1	1			
8	9/9	1	1			
9	9/17	1	1			
10	9/24	1	1			
11	9/30	2	2			
12	10/8	1	1			
13	11/15	1	1			

14	11/27	3	3	学会参加：福岡市医師会看護専門学校第1看護学科 第1回看護探求学会 ※発表及び活発な質疑応答	演習 講義	1年生2年生 が学会に参加し ます
15	11/27	4	4			
<p>【準備学習内容】 一人ひとりが主体的に学習をしっかり行い、演習が効果的な時間となるよう努めましょう。 プロジェクト学習が円滑に効果的に進むよう、計画的に進めていきましょう。途中過程の中で、自ら教員の指導を主体的に受けましょう。</p>						
<p>【使用するテキスト】 テキスト全て</p>						
<p>【参考文献】 テーマにより異なるためここでは提示していません。 図書室には多数の図書や看護雑誌がありますので自分に合うものを参考にしてください。 選択したテーマのプロジェクト学習の過程で必要時紹介します。</p>						
<p>【評価と方法】 初回レポート（5点）探求する姿勢や態度と協調性（45点）発表関連（40点）学会参加後の個人レポート（10点） ※評価の詳細は別紙ルーブリックを参照してください。 レポートは指定された日時までに提出してください。指定日時までに提出されたものを評価の対象とします。</p>						
<p>【受講上の注意】 看護の統合と実践の科目です。これまでの学びを活かして、主体的に能動的に自ら学びをデザインする意識を高めて取り組みましょう。</p>						